

教師のための

い き こ く 吉 岐 市 立  
一 支 国 博 物 館  
は る っ じ  
原 の 辻 遺 跡  
活 用 マ ニ ュ ア ル

白鳥... 土地... 山險... 多深... 林道... 路如... 禽鹿... 徑有... 千餘... 戶... 田食... 海物... 自活... 乘船... 南北... 市糶... 又南... 渡一... 海... 里名... 曰瀟... 海至... 一六... 國官... 亦曰... 單狗... 副曰... 早... 離方... 可三... 百里... 多竹... 木叢... 林有... 三千... 許家... 差... 地耕... 田猶... 不足... 食亦... 南北... 市糶... 又渡... 一海... 千... 至末... 慮國... 有四... 千餘... 戶賓... 山海... 居莖... 木茂... 茂... 不見... 前... 行五... 國... 水... 沈取... 之東... 女... 曰... 洲... 設... 飢... 郡... 吏... 在





## 巻 頭 言

また（対馬国から）南に一海をわたること千余里，名づけて<sup>かんかい</sup>瀚海（大海，対馬海峡）という。一大国（一支国の誤り。）にいたる。大官をまた<sup>ひく</sup>卑狗（彦）といい，副官を<sup>なもり</sup>卑奴母離（夷守）という。方（域）は，三百里ばかりである。竹木の<sup>そうりん</sup>叢林が多い。三千（戸）ばかりの家がある。やや田地がある。田をたがやしても，なお食するに不足である。（一支国も）又南北に（出<sup>してき</sup>て）市糶（米を買うこと…本来の意味は種子として蒔くための良質の粬を求めること）している。

上の文章は今から1800年くらい前の中国の歴史書『魏志倭人伝』の中に書かれているもので，壱岐の様子を表した文章としては最も古いものと言われています。

平成22年春に開館する「一支国博物館（いきこくはくぶつかん）」は，上に書かれている卑弥呼の時代を含めた弥生時代や古墳時代などの風や空気を感じることができる施設です。

博物館は本物の歴史や遺物と直に触れ合い，驚きや感動を味わったり，新たな知識を吸収したりできる場です。学校教育において，博物館の活用を図ることは，子どもたちの学ぶ意欲や学習効果を高める上で，何よりの機会となります。

また，子どもたちは，ふるさとの歴史を学ぶことで，「壱岐」に対する愛情を深めることもできるでしょう。

この活用マニュアルは，一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センター・原の辻遺跡（はるのつじいせき）を活用した教育活動を推進する目的で，幼稚園，小・中・高等学校の先生方に検討を重ねていただき作成したものです。博物館で出会う本物の資料を，教科の授業や総合的な学習の時間などに活かすヒントがまとめられています。この活用マニュアルがそれぞれの学校などで幅広く活用され，次代を担う子どもたちの健やかな成長の一助となることを願っています。

最後になりましたが，本活用マニュアルの作成にあたり，多大なご尽力をいただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成21年12月

壱岐市教育委員会

教育長 須藤 正 人



# 「届けるマニュアル」ではなく、「育てるマニュアル」に

一支国博物館を活用した指導例を、メール、または郵送で、一支国博物館まで送ってください。

※様式は自由です。



一支国博物館は送られてきた指導例を、集約、検討し定期的にホームページ上に、掲載します。



ホームページ上に掲載された新たな指導例は、印刷してマニュアルに加えてください。



新たな指導例を参考に活用してください。さらに工夫を加えられた指導例があれば、再び送っていただければ幸いです。

一支国博物館を利用される皆様に、いつまでも使っていただける活用マニュアルにしたい！

私たちが、このマニュアルを作成するにあたって、最も強く願ったのがこのことです。

そのための工夫として、私たちがたどり着いた答え。それが、「一支国博物館を実際に利用された皆様のお力を借りよう」ということです。

私たちも一生懸命に内容を検討し、少しでも使いやすく工夫を加えてきました。しかし、どんなに熟考を重ねても、実際に児童や生徒に対して先生方が取り組まれた例には、「実践されたものであるがゆえの生きた工夫」がいっぱいなのです。

そのような実践例を集めることで、このマニュアルも、内容、分量ともに、大きくなっていくのではないかと考えました。

このようなことから、私たちは、このマニュアルのコンセプトを「育てるマニュアル」としたのです。

一支国博物館が位置する「一支国」の地は、かつて大陸との盛んな交易の場でした。多くの人や物が行き交う中で、人々は、新たな知識や文化、技術を取り入れ、時代を切り開いていったのです。

このマニュアルが、一支国博物館という素材に関する指導例を集め、広げていくことは、時代や内容こそ違え、かつて「一支国」が果たした役割とも共通する部分があるように思っています。

育てるための手順は、上図の通りです。多くの皆様のおアイデアをお待ちしています。

# 目次

この活用マニュアルは、ご覧になられた方が、自分の興味のあることから読めるように、一支国博物館について皆様から寄せられた各種のお問い合わせをグループ毎にまとめて、それに答える形で構成しています。基本的に、どこから読んでもわかるように構成していますが、1ページ目から順に読んでいかれても構いません。

このマニュアルをご覧になられて、一人でも多くの皆様が、一支国博物館への扉を開かれることを願っています。

Q1 一支国博物館には、どのような施設があるのか知りたいのですが？	⇒	p4~11 1 一支国博物館について
Q2 一支国博物館には、どのような展示物があるのか知りたいのですが？	⇒	p12~23 2 展示について
Q3 原の辻遺跡には、どのような施設があるのか知りたいのですが？	⇒	p24~35 3 原の辻遺跡について
Q4 どのような体験メニューがあるのか知りたいのですが？	⇒	
Q5 一支国博物館や原の辻遺跡で行う授業の指導例を知りたいのですが？	⇒	p36~59 4 授業例について
Q6 授業で使えるパネルやビデオ、レプリカや出前講座には、どのようなものがあるのか知りたいのですが？	⇒	p60~69 5 学習支援事業について
Q7 一支国博物館以外にも、吉岐で、歴史などを学べる場所を知りたいのですが？	⇒	p70~86 6 吉岐の関連施設・史跡・文化財、吉岐の歴史について
Q8 吉岐の歴史について知りたいのですが？	⇒	
Q9 一支国博物館、原の辻遺跡を利用する際の手続きや連絡先等を知りたいのですが？	⇒	p87~89 7 施設活用Q&A

# 1 一支国博物館について

(1) 一支国博物館のコンセプト	5
(2) 一支国博物館施設全体マップ	6
(3) 各ゾーン紹介	
【生涯学習ゾーン】	
①講座室	8
②多目的ホール	8
③多目的交流室	8
④図書閲覧室	8
⑤情報プラザ	9
【体験学習ゾーン】	
⑥体験交流室	9
⑦キッズこころがく研究所と観察路	10
⑧オープン（見せる）収蔵庫	10
⑨エントランスホール	11
【自然体感ゾーン】	
⑩屋上展望広場	11
⑪展望室	11

※展示ゾーン及び展示物の紹介は、  
P12から紹介しています。

## (1) 一支国博物館のコンセプト



### 一支国（いきこく）博物館について



一支国博物館は、原の辻遺跡とその周辺の地域を見渡せる場所に建つ博物館です。博物館の名称になっている「一支国（いきこく）」は、3世紀の中国の歴史書『魏志倭人伝』に記された国の名前です。

『魏志倭人伝』の中で、壹岐に関する情報は、57文字で記されており、国に関する情報としては、「伊都国」（105文字）、「対馬国」（64文字）に次いで3番目に多い字数であり、重要視されていたことがわかります。これを読むと、当時の壹岐の島の様子や人々の生活の実情を知ることができます。その中に、登場する壹岐を表す国の名前が「一大国（一支国）」なのです。

かつて、「一大国（一支国）」が、東アジア（中国・朝鮮半島）と日本（本土）をつないでいたように、一支国博物館は、壹岐を舞台にして、現在と過去をつなぐとともに、東アジアと日本（本土）をつなぎます。

一支国博物館から、歴史の旅に漕ぎ出してください。



### 一支国博物館の展示コンセプト



#### ① 「東アジアの中の壹岐」

展示室内には、壹岐の歴史を中心に、東アジア（中国・朝鮮半島）と日本（本土）の歴史が記された「通史歴史絵巻」を展示しています。この絵巻には、それぞれの時代の東アジアの歴史事項やそれを裏づける実物資料が展示されています。これにより、壹岐のみの歴史から、さらに広い視野に立って、東アジア（中国・朝鮮半島）と日本（本土）との関係にも思いをめぐらせて、壹岐の歴史を見つめることが可能になります。

#### ② 「海を介した交流と交易」

一支国を学ぶ時に、どうしても切り離せないのが、東アジア（中国・朝鮮半島）と日本（本土）との交流と交易です。そこで重要な役割を果たしたのが、「海」です。海は、東アジア（中国・朝鮮半島）、日本（本土）と一支国とを、隔てる存在ではなく、つなぐ存在だったのです。一支国の歴史を学びながら、「海」の存在にも触れることができるようにしています。

#### ③ 「歴史に触れる展示」

実物資料のほとんどを触ることができ、見るだけではわからない情報を触って感じ取ることができます。「歴史を見る展示」ではなく、「歴史に触れる展示」を通じて、歴史について考える発想力と思考力を身につけることができます。

#### ④ 「発見感動展示」

展示品の使用方法や使用場面について疑問に思ったことなどを、解説や説明を読んで知るのではなく、展示されている実物資料をはじめ、模型や映像を見ただけでわかるように、「発見と感動のある展示演出」になっています。

## (2) 一支国博物館 施設全体マップ

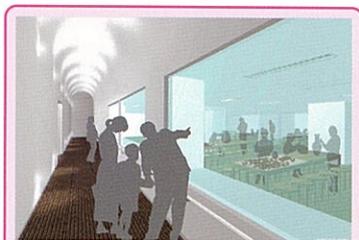
原の辻遺跡マスコットキャラクター  
はるのちゃん

### 1階



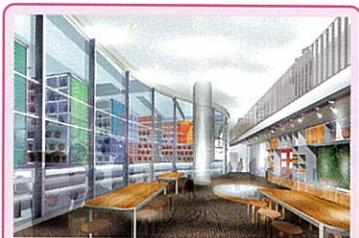
⑨ エントランスホール

p11



⑦ 観察路

p10



⑦ キッズこうこがく研究所  
⑧ オープン(見せる)収蔵庫

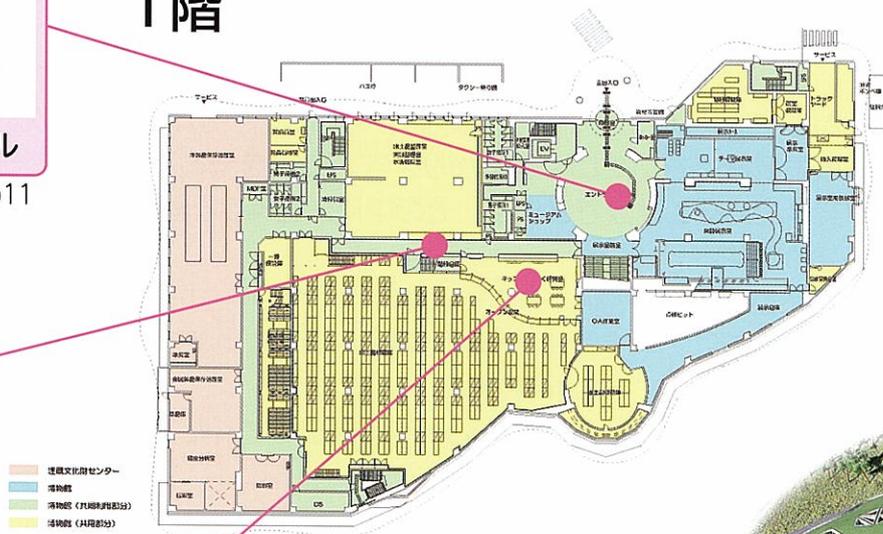
p10



⑤ 情報プラザ

p9

### 2階





## 4階



⑪ 展望室

p11



⑩ 屋上展望広場

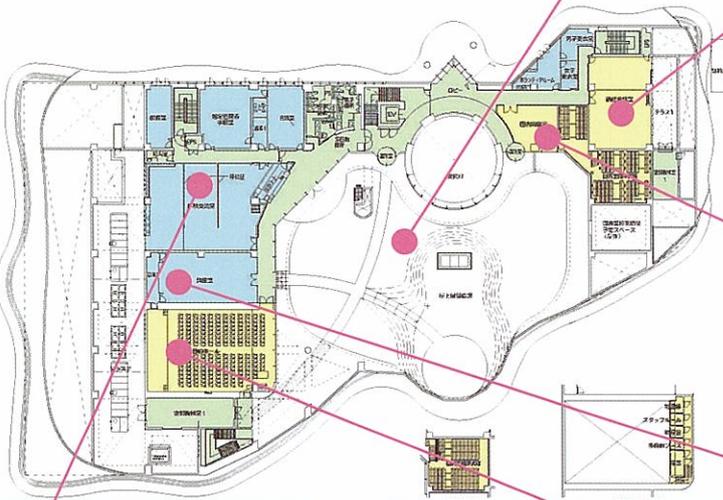
p11

## 3階



③ 多目的交流室

p8



④ 図書閲覧室

p8



⑥ 体験交流室

p9



② 多目的ホール

p8

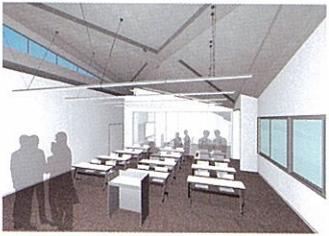


① 講座室

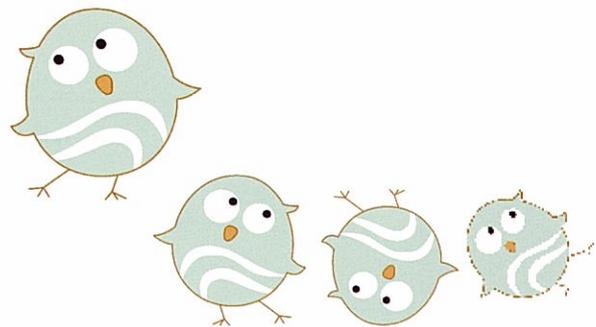
p8

### (3) 各ゾーン紹介

#### 【生涯学習ゾーン】

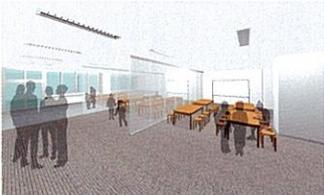
名 称	① 講 座 室	名 称	② 多目的ホール
面 積	110㎡	面 積	240㎡
用 途	講座やイベント・ミニ展示会等に利用できます。	用 途	フォーラムやシンポジウムなどのイベント等に利用できます。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長机と椅子を利用することができます。〔50～70人規模の利用に適しています。〕</li> <li>・長机や椅子を片付け、110㎡を一つの空間スペースとしても利用できます。</li> <li>・映像や音楽等を用いた利用にも対応しています。</li> </ul>	特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・180席の固定式のソファと舞台を配置しています。</li> <li>・大型スクリーンと音響設備を完備しています。</li> <li>・個別ブースを配置し、外国語の同時通訳にも対応しています。（ただし、通訳用の専用機材の設置は別途必要です。）</li> </ul>
想定メニュー	<ol style="list-style-type: none"> <li>①講座形式の学習</li> <li>②歴史に関する映像学習</li> <li>③音楽を用いた弥生創作舞制作学習</li> <li>④弥生の弦楽器体験学習</li> <li>⑤制作作品の発表や研究発表</li> </ol>	想定メニュー	<ol style="list-style-type: none"> <li>①異国文化交流会（シンポジウム）</li> <li>②音楽発表会・演劇公演</li> <li>③吉崎神楽公演</li> <li>④学校単位の歴史講座</li> <li>⑤修学旅行のガイダンス</li> </ol>
イメー ジ		イメー ジ	
名 称	③ 多目的交流室	名 称	④ 図書閲覧室
面 積	110㎡	面 積	40㎡
用 途	研修会場やミニ展示スペース等に利用できます。	用 途	発掘調査報告書、吉崎の郷土誌、歴史関係図書など約40,000冊の図書を閲覧することができます。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長机と椅子を利用することができます。〔80～100人規模を想定〕</li> <li>・一つのスペースを2分割できる移動式仕切り壁を完備しています。</li> <li>・研修を実際に行う前の、映像によるプレゼンテーションや解説などにも対応したAV機器機能も完備しています。</li> </ul>	特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史に関する資料を中心に子どもから大人まで楽しめるような本を揃えています。</li> <li>・必要に応じて収蔵図書を閲覧することができます。</li> <li>・情報端末では、図書情報だけでなく、遺跡の情報や遺物の情報、吉崎に関する様々な情報を検索することができます。閲覧したい本を様々な視点から探すことができます。</li> </ul>
想定メニュー	<ol style="list-style-type: none"> <li>①講座形式の学習</li> <li>②考古学講座研修</li> <li>③作品の発表や研究発表会</li> </ol>	想定メニュー	<ol style="list-style-type: none"> <li>①夏休み等の課題研究の資料収集</li> <li>②興味を持ったテーマに関する情報</li> </ol>
イメー ジ		イメー ジ	

名 称	⑤ 情報プラザ
面 積	70㎡
用 途	吉岐の歴史をはじめとして、吉岐に関する様々な情報を知ることができます。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉岐に関する様々な情報が詰まった検索型の情報システム端末を設置しています。</li> <li>・歴史に関する読みやすい雑誌や図書を並べた本棚を設置しており、ゆっくりソファに座って読むことができます。</li> <li>・長崎県内遺跡情報、収蔵遺物情報、指定文化財情報、吉岐の通史情報、吉岐の地名由来情報、吉岐の偉人情報、吉岐の名所情報、東アジア考古学情報等を、タッチパネルの画面を通じて検索することができます。</li> </ul>
想定メニュー	①端末の情報システムを活用したデータベースの検索による調べたい項目や内容についての事前学習 (小学校高学年～)
イメー ジ	



原の辻遺跡マスコットキャラクター とんぼ玉くん

## 【体験学習ゾーン】

名 称	⑥ 体 験 交 流 室	
面 積	180㎡	
用 途	古代食や古代技術体験等の体験メニューを実施するスペースです。	
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとつのスペースを最大3分割まですることができる移動式仕切り壁を完備しています。</li> <li>・机は工作台を設置し、様々な作業に対応できるようにしています。</li> <li>・流し台〔蛇口9口〕を設置し、水を用いた作業に対応できるようにしています。</li> <li>・電気コンロ〔4口〕で加熱する作業にも対応しています。</li> <li>・流し台のある部分の床はすべり防止のマットタイプにしています。</li> <li>・自然の光が入るテラスを隣接して設けています。〔体験交流室から出入り可能〕</li> <li>・体験を実際に行う前の、映像による事前学習や学習ビデオ上映などにも対応したAV機器機能も完備しています。</li> </ul>	
想定メニュー	①考古学の仕事体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実物資料を用いた洗浄作業体験学習</li> <li>・実物資料を用いたナンバリング体験学習</li> <li>・復元土器を用いた接合体験学習</li> <li>・実物資料を用いた実測体験学習</li> </ul>	②古代食や古代技術体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・弥生の食材を用いた古代食体験学習</li> <li>・勾玉づくり体験学習</li> <li>・ガラス玉づくり体験学習</li> <li>・どんぐり工作体験学習</li> <li>・古代編み物体験学習</li> </ul>
イメー ジ		

名称	⑦ キッズこうこがく研究所と観察路	
面積	100㎡	
用途	こうこがく（考古学）を読み物や講座ではなく，“掘って”，“触って”考古学や歴史を体感できる新体験スペースです。観察路からは，実際行われている整理作業を見学することができますようになっています。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープン（見せる）収蔵庫と一体となった体験学習スペースです。</li> <li>・高さ5メートルの吹き抜けの空間で2階部分からもスペース内の様子を見ることができます。</li> <li>・観察路には発掘調査の整理作業の様子を見学できる観察窓を設置しています。</li> </ul>	
想定メニュー	①発掘お仕事体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・発掘模擬体験</li> <li>・出土した遺物を種類別に収蔵する整理模擬体験</li> <li>・土器どきパズルを接合する整理模擬体験</li> </ul>	②インスピレーション体験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなものを食べていた</li> <li>・弥生の音楽隊</li> <li>・この絵なんの絵</li> <li>・さおばかりで遊ぼう</li> <li>・けんびきょうで遊ぼう</li> </ul>
イメージ		

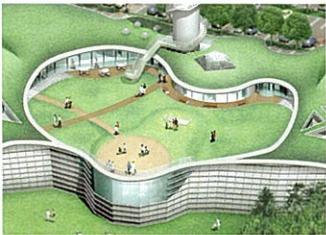
名称	⑧ オープン（見せる）収蔵庫	
面積	1,400㎡	
用途	収蔵品の全体像及びボリュームを壱岐初日本唯一の手法で展示しています。	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さ5mにも及ぶ収蔵棚を1階から2階からと様々な目線で観察することができます。</li> <li>・ガラス越しに展示棚を設置し，収蔵品の一部を展示し，間近で，遺物を見ることができます。</li> </ul>	
想定メニュー	①時代の変遷についての学習 長崎県内から出土した重要遺跡の遺物を公開し，旧石器時代の遺物や中近世の遺物など，壱岐ではあまり発見されていない時期の遺物を見て学習します。	
イメージ		

名 称	⑨ エントランスホール
面 積	140㎡
用 途	施設の玄関口として来館者を迎える 吉岐の総合インフォメーションゾ ーンです。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床下には吉岐の地図を模したタイルが貼られ、吉岐を代表する名所のある場所がわかるように演出しています。</li> <li>・吉岐に関する情報について検索できる情報システムの端末を設置しています。</li> </ul>
想定メニュー	①通っている学校や自分の家が島のどのあたりにあるかを探す
イメー ジ	



原の辻遺跡マスコットキャラクター  
海都くん

## 【自然体験ゾーン】

名 称	⑩ 屋上展望広場
面 積	650㎡
用 途	様々な使い方ができる緑のオープン スペースです。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展望広場全体を芝で覆い、憩いの広場となる場所を設置しています。</li> <li>・展望広場からは国特別史跡原の辻遺跡を眺望することができます。</li> <li>・簡易な野外遊びや体験活動の合間の休憩、昼食会場として利用できます。</li> </ul>
想定メニュー	①各種野外イベント ②休憩会場
イメー ジ	

名 称	⑪ 展 望 室
面 積	70㎡
用 途	吉岐の原風景を360度、見渡せるマ ルチビューポイントです。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さ23m(標高85m)にある展望塔から吉岐の自然を見ることができます。</li> <li>・360度、ガラス貼りで全方向の景色を見ることができます。</li> <li>・原の辻遺跡の復元整備地と船が往来したとされる幡鉾川河口の内海湾を眺めることができ、弥生時代の人と物の往来する姿を想像することができます。</li> </ul>
想定メニュー	①原の辻遺跡周辺の様子観察
イメー ジ	

## 2 展示について

(1) 展示ゾーンマップ…………… 13

(2) 展示ゾーン紹介

【展示ゾーン】

① エントランスホール…………… 14

② 『魏志倭人伝』の世界…………… 14

③ シルクロードビューシアター…………… 15

④ 壱岐から一支へ（通史ゾーン）…………… 15

⑤ 壱岐から一支へ（古代ゾーン）…………… 15

⑥ 壱岐から一支へ（古墳ゾーン）…………… 16

⑦ 海の王都・原の辻…………… 16

⑧ 一支国トピック…………… 17

⑨ できるかも展示…………… 17

(3) 一支国トピック「一支国の世界模型」の楽しみ方！

① 湾と漁労のシーン…………… 19

② 船着き場のシーン…………… 19

③ 交易（イチ）のシーン…………… 20

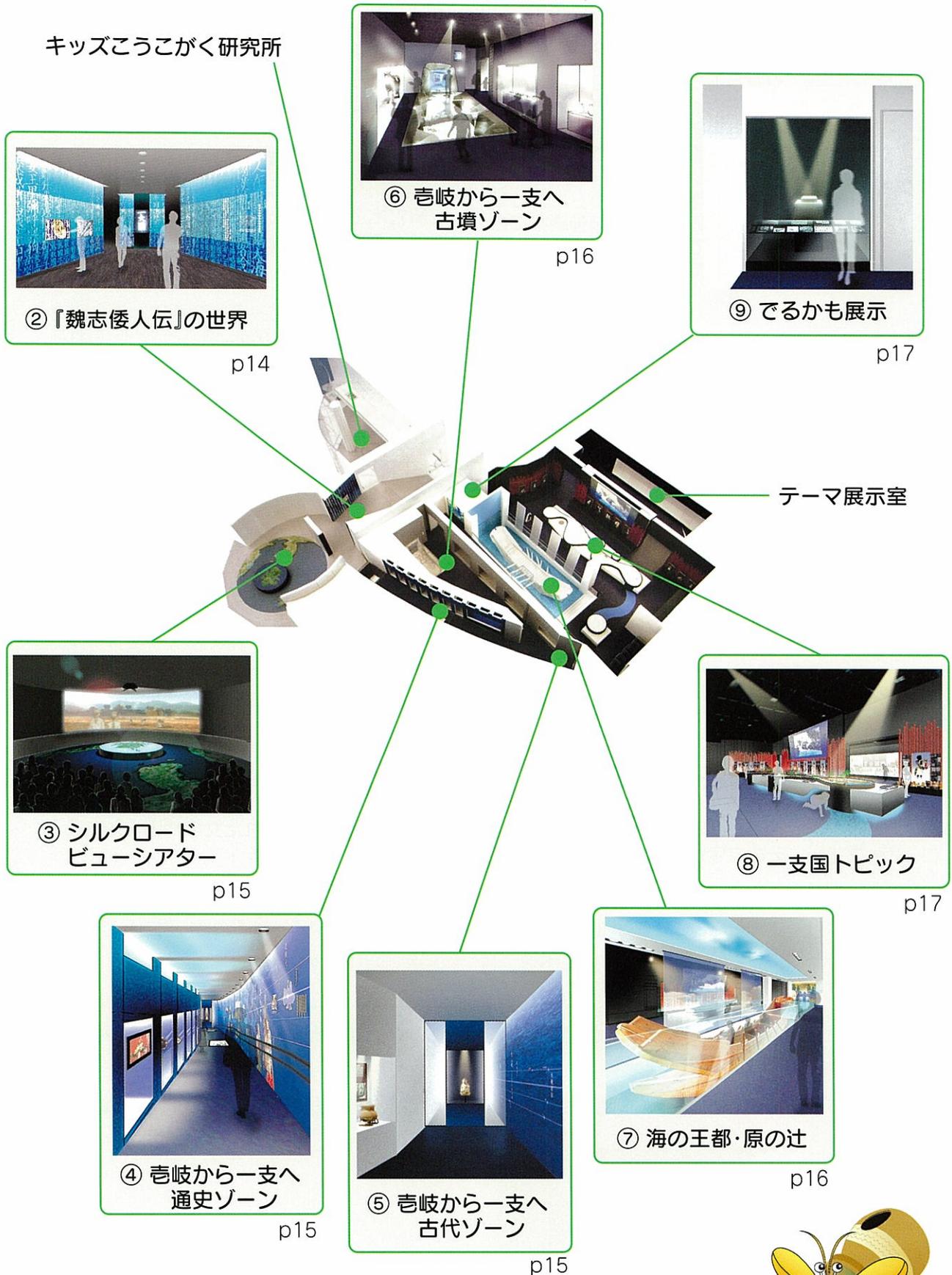
④ 農耕のシーン…………… 21

⑤ 生活のシーン(くらす)/生活のシーン(まもる) …… 21

⑥ 祭祀のシーン…………… 22

⑦ 吊いのシーン…………… 23

# (1) 展示ゾーンマップ



原の辻遺跡マスコットキャラクター つじまるくん



## (2) 展示ゾーン紹介

名称	① エントランスホール
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースはイベントのオープニングセレモニーや壱岐しまごと博物館の拠点として利用できます。</li> <li>・階段を昇る部分の演出台には季節や時期に応じた象徴的な収蔵物の展示を行います。 〔例：「花散らし(花見)」に合わせて「鬼凧」, 「壱岐神楽」に合わせて「神楽面」, 「テーマ展示」に合わせて「収蔵遺物」等〕</li> </ul>
想定メニュー	—
イメージ	

### ワンポイントガイド情報！

※【『魏志倭人伝』に記載された壱岐の情報（57文字）とは】

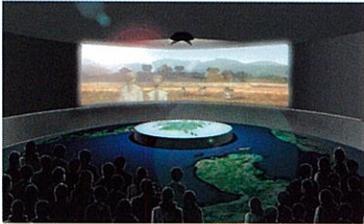
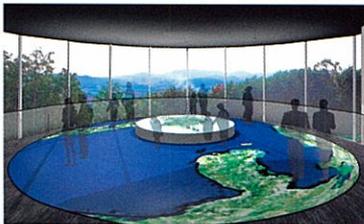
又南渡一海千余里。名曰瀚海。至一大国。官亦曰卑狗。副曰卑奴母離。方可三百里。多竹木叢林。有三千許家。差有田地。耕田猶不足食。亦南北市糶。

《訳文》

それからまた南に一海を渡ること千余里で一支国に到着する。この海は瀚海と名づけられる。この国の大官もまた卑狗、次官は卑奴母離という。広さ三百里平方ばかり、竹木・叢林が多く、三千ばかりの家がある。ここはやや田地があるが、水田を耕しても食料とするには足らず、やはり南や北と交易をして、米を求めて暮らしている。

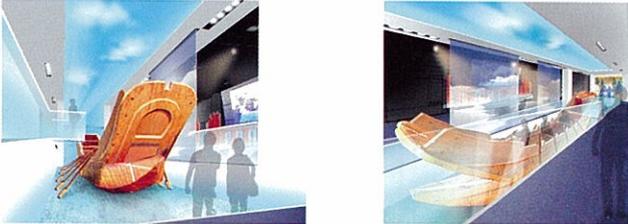
一支国の紹介に使用された57文字は、伊都国105文字、対馬国64文字に次いで、3番目に多い。情報の多さは一支国が重視されていた証といえます。

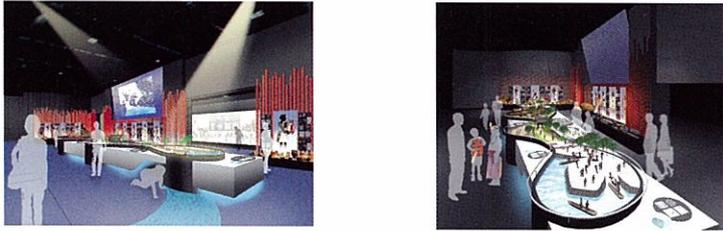
名称	② 『魏志倭人伝』の世界
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008文字を読み解いて見えてくる『魏志倭人伝』の世界を象徴的に紹介しています。</li> <li>・タッチパネルに次々に浮かび上がる『魏志倭人伝』に書かれた文字や国に触れると、その文字が意味する内容が表示されるように演出しています。</li> <li>・中央の映像では、『魏志倭人伝』に記載された国で唯一王都の場所が特定されている「一支国」について書かれている57文字を映像で読み解いていけるように演出しています。</li> </ul>
想定メニュー	<p>①57文字にどんなことがかかっているのか？壱岐がどんな環境だったか？等について学ぶ</p> <p>②『魏志倭人伝』に書かれた漢字には、どのような意味があったのかについて学ぶ</p>
イメージ	

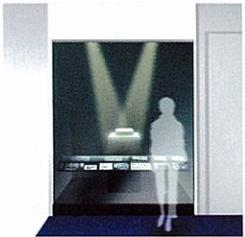
名 称	③ シルクロードビューシアター	
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一支国の交流口マンと原の辻の原風景をリンクさせて見ることができます。</li> <li>・ 視界全体を覆う曲面スクリーンに映し出される映像が一体感を演出しています。</li> <li>・ 中央の吉岐島の模型で吉岐の遺跡の立地がわかるように演出しています。</li> <li>・ 東アジアの地図を韓国側から見る（南方上位）ことで、新たな視点で吉岐の環境を考えることができます。</li> </ul>	
想定メニュー	①当時の吉岐の姿（王都・原の辻）を再現し、映像化した原の辻の「海を介した交流と交易の歴史ストーリー」を見たうえで、原の辻遺跡の実景と見比べて、弥生時代や一支国の原の辻のイメージを連想させる。	
イメージ		 <p>上映終了後 スクリーンが降下する</p>

名 称	④ 吉岐から一支へ(通史ゾーン)	名 称	⑤ 吉岐から一支へ(古代ゾーン)
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 右手に「通史絵巻」を表示し、現代から古代へと吉岐の歴史事項を表示しています。並行して世界の歴史と日本の歴史を表示することで、世界史と日本史が同時に学べ、歴史のダイナミズムを感じることができるような演出をしています。</li> <li>・ 左手に通史を証明する遺物（収蔵物）の実物資料を展示し、歴史事項の内容をわかりやすく解説する展示空間を演出しています。</li> </ul>	コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 串山ミルメ浦遺跡（勝本町）のアワビ加工の様子を工程にあわせて展示しています。</li> <li>・ 吉岐国分寺（芦辺町）から出土した瓦を展示しています。</li> <li>・ 石製弥勒如来坐像は台座の上で360度、回転し、正面からだけでなく多面的に観ることができます</li> </ul>
想定メニュー	<p>①歴史の授業で登場する歴史事項と同時期に吉岐ではどんなことがあったのか？吉岐が東アジアにおいてどのような役割を果たしていたのか？等について学ぶ。</p> <p>②展示されている実物資料がどんな役割を果たしていたのか？何に使われていたのか？を知ると共に、その資料の時代背景を通史年表から読み取る。</p>	想定メニュー	<p>①吉岐国分寺（芦辺町）から出土した瓦と平城京の瓦を比較し、類似性から接点（中央政権とのかかわり）について学ぶ。</p> <p>②座像の背面にはこの像が作られた背景が刻字されており、読み解くことで、当時流行した思想である末法思想やその時代の様子について学ぶ。</p>
イメージ		イメージ	

名 称	⑥ 吉岐から一支へ（古墳ゾーン）
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床下には実寸大の笹塚古墳の前室を再現した展示で古墳の大きさを体感できるように演出しています。</li> <li>・石室の前方には笹塚古墳の玄室（被葬者が祀られている場所）を映像で再現し、古墳の本来の姿がわかるような演出をしています。</li> <li>・左側面にはともに、国重要文化財〔双六古墳・笹塚古墳出土品〕になっている装飾品と同じものを付けた馬の模型を配置しています。</li> </ul>
想定メニュー	<p>①様々な遺物がどの場所に取り付けられていたか？床下の古墳のどの位置からどのような状態で見つかったのか等について学ぶ。</p> <p>②映像を見て、古墳の構造やそれぞれの石室がどのように使われていたかについて学ぶ。</p>
イメージ	

名 称	⑦ 海の王都・原の辻
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の王都を象徴する古代船に乗ってバーチャル航海を体験できます。</li> <li>・床は海をイメージしたデザイン、天井は空をイメージしたデザインに、古代の準構造船を浮かべたような演出をしています。</li> <li>・実物大（約10メートル）の木造準構造船模型を配置し、船には、乗せられたもの、運ばれたものを置き、何が日本に持ち込まれ、何が日本から持ち出されていたかわかるような演出をしています。</li> <li>・定期イベントとして、光と音で、嵐や雷の様子を表現し、天候の変化も重要であることがわかるような演出をしています。</li> <li>・側壁のカーテンウォールは海の様子を表現し、航海の様子がわかるような演出をしています。</li> <li>・韓国や国内から遺物を借用し、原の辻遺跡から出土した遺物との類似点がわかるように展示をしています。</li> </ul>
想定メニュー	<p>①準構造船による交易によって何が運ばれていたのかについて学ぶ。</p> <p>②準構造船に乗り、朝鮮半島から一支国に向かうバーチャル航海を体験する。</p> <p>③一か所に並べて展示した各地で見つかっている遺物を見比べることで、展示品の特徴や類似点の発見から、当時の交流の様子について学ぶ。</p>
イメージ	

名 称	⑧ 一支国トピック
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原の辻遺跡の調査成果をもとにシンボリックな7つのシーンを模型で再現し、演出しています。</li> <li>・模型は約160体の一支国人（弥生人）がそれぞれのシーンで登場し、一支国におけるそれぞれの役割（仕事）の様子がわかるような演出をしています。</li> <li>・模型の周辺には役割別（テーマ別）に象徴する人物壁画を配置し、その役割の人物に関連する実物資料を展示しています。</li> <li>・中央大型スクリーンでは、模型を基に映像化し、その模型がどのような仕事をしているのか？、何をしているのか？、何を話しているのか等をストーリー形式で紹介しています。</li> <li>・中央の一支国模型の下には“弥生トンネル”を配置し、その中をくぐって通ることで、当時の一支国人に出会うことができるようになっています。</li> </ul>
想定メニュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>①模型＋映像＋実物資料のトライアングル形式の展示を見て、実物資料の役割や使い方を学ぶ。</li> <li>②復元整備された原の辻遺跡とリンクする一支国模型を見て、遺跡に復元された建物やエリアの役割を学ぶ。</li> <li>③その仕事（役割）を行う人が使うものを、実物資料から学ぶ。</li> <li>④一支国人なりきりツアーデスクでは、弥生人の衣装を身にまとい、カードに記された役割に必要な持ち物を模型と映像を見て、探す体験をする。</li> </ul>
イメージ	

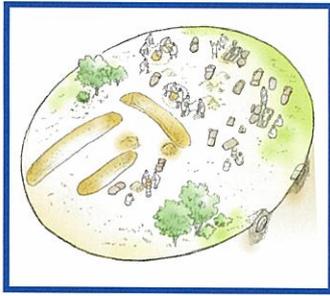
名 称	⑨ できるかも展示
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから原の辻遺跡から出土が期待される遺物を紹介しています。これから発掘調査は継続して行われる予定で、一支国の価値をさらに高める資料が見つかる可能性があります。</li> <li>このコーナーでは、“発見が期待される遺物”をパネルで紹介し、今後の原の辻遺跡の発掘に期待を高める演出をしています。</li> </ul>
想定メニュー	—
イメージ	

### ワンポイントガイド情報！

#### ※【原の辻遺跡から出土が期待されるものとは】

- 準構造船を示す遺物
  - ・“船着き場”は発見されていますが、市に出入りした“船”がまだ発見されていません。船（船を構成する部材）が発見されると「交流を裏付ける貴重な資料」となります。
- 筆（文字を書く関連品）
  - ・文字という文化が無い弥生時代に隣国の中国では文字がすでに発達していることから、“筆”や“すずり”などの文字を書く道具が発見されると「渡来人の存在を裏付ける貴重な資料」となります。
- 王の墓や副葬品（青銅製品等）
  - ・一支国で特に権力のあった人が持っていたと思われる青銅製の剣や鏡などは、これまで墓域を中心にみつっていますが、一支国を統治する絶対的な王の存在を示す墓（王墓）は、まだみつかりません。
  - この王墓が発見されると、「一支国の王のもとに国が成り立っていたことが裏付けられる貴重な資料」となります。

(3) 一支国トピック 「一支国の世界模型」の楽しみ方！



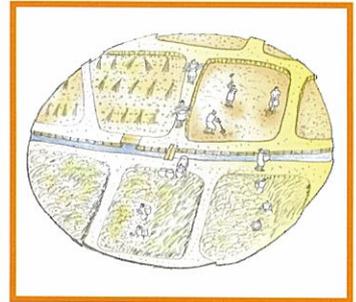
⑦ 吊いのシーン

p23



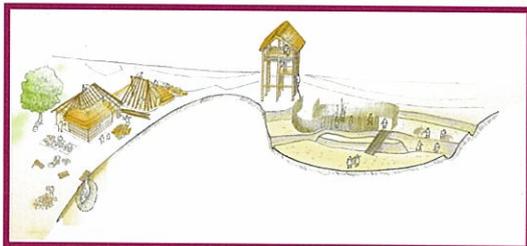
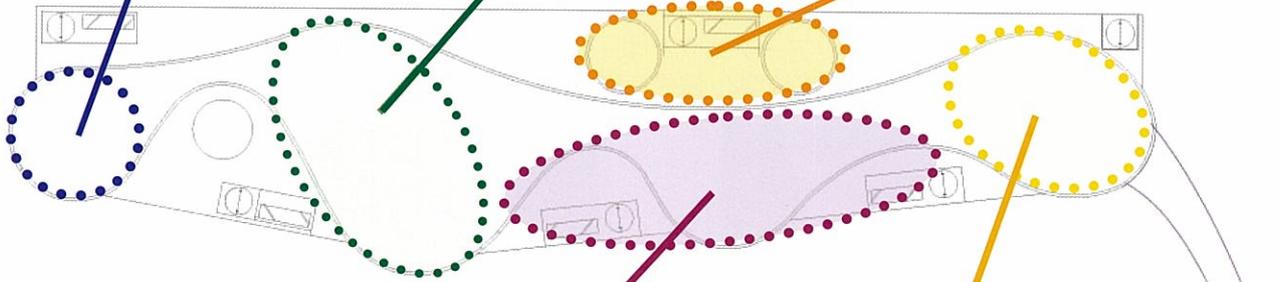
⑥ 祭祀のシーン

p22

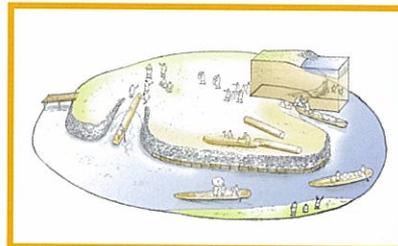


④ 農耕のシーン

p21

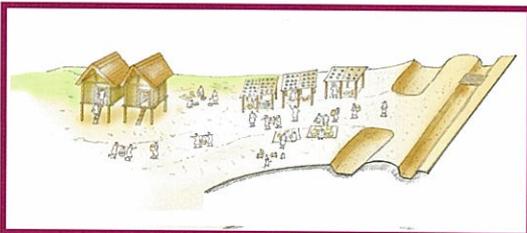


⑤ 生活のシーン(くらす・まもる) p21・22



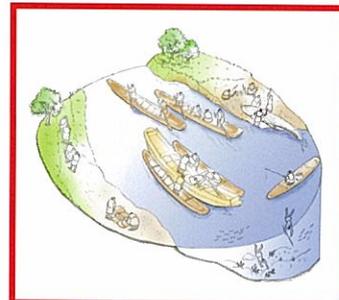
② 船着場のシーン

p19



③ 交易(イチ)のシーン

p20



① 湾と漁労のシーン

p19



一支国トピック 模型イメージ





## 【一支国トピック】「一支国の世界模型」の楽しみ方!



### ① 湾と漁労のシーン

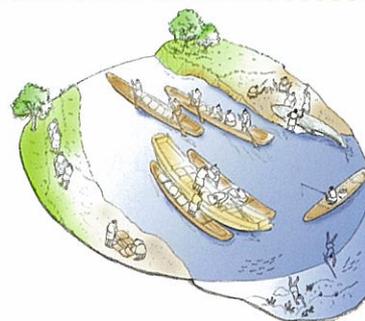
《シーンの見どころ》アワビおこしや離頭銛（りとうもり）などの漁労具を持った一支国人が何を獲っていたのかに注目!

一支国人は、様々な道具を使って漁労を行っていました。漁では「つり針」や「銛」, 「アワビおこし」や「石錘」などを使って、マダイ・コブダイ・ヒラメ・カサゴ等の魚や、ハマグリ・アワビ・ウニ・サザエなどを採って生活していました。

道具は石や動物の骨を加工して製作しています。動物の骨の中には、クジラの骨を使って作られたものも数多く見つっていますが、一支国人が“捕鯨”によってクジラを獲っていたのではなく、湾に迷い込んで弱ったクジラを捕まえたものを解体し、道具を作るための骨を確保していたものと考えられています。

#### 【模型を見て確かめてみよう】

- 何で漁労具が作られていたのか?  
⇒ (道具の材質を知る。)
- 何を獲っていたのか?  
⇒ (海中の生物について知る。)
- クジラの骨はどのようにして確保していたのか?  
⇒ (捕鯨ではないということを知る。)



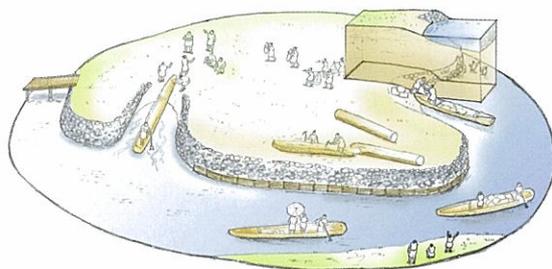
### ② 船着き場のシーン

《シーンの見どころ》船着き場は交易と交流の拠点! 一支国人と渡来人との出会いの風景と舟がどのようにしてつくられていたのかに注目!

原の辻遺跡から発見された船着き場跡は今から約2,200年前に作られたもので、東アジア最古の出土例として国内外から注目されています。船着き場は突堤の基礎部分に樹皮を敷いたり、盛土の傾斜面に人の頭くらいの石を積み重ねて崩れるのを防ぐ工夫が施されており、当時の最先端の技術を駆使した貴重な遺構です。一支国を訪れた人は、内海湾まで大きな船でやって来て、丸木舟やイカダ舟に乗り換えて、幡鉾川をのぼって船着き場を目指したものと考えられています。また、原の辻遺跡からは船や船の部材などは見つかりませんが、船をイメージした「舟形木製品」が発見されています。鉄器の普及により舟を作る作業も向上し、製作にかかる時間の短縮や労力が削減され、より完成度の高いものを造れるようになっていきました。

#### 【模型を見て確かめてみよう】

- 船着き場は何がすごいのか?  
⇒ (作られた時期が古だけでなく、作り方や構造を知る。)
- どのような道具を使って舟を作っていたか?  
⇒ (作り方や使っている道具を知る。)



### ③ 交易（イチ）のシーン

《シーンの見どころ》中国や朝鮮半島から持ち込まれた交易品と日本各地から運ばれてきた交易品に注目！

#### （1）土器

一支国人をはじめ倭人は土器を作っていましたが、その作り方は粘土を丸くのぼしたものを積み上げ、野焼きによって完成させていました。野焼きでは焼く時の温度が低いため、橙色（だいたいいろ）や黄土色（おうどいろ）に仕上がります。

海を越えた中国や朝鮮半島では野焼きによる土器とは別に登り窯などを使って土器を作っていました。野焼きに比べ、より高温で焼くことができる登り窯などで焼かれた土器は、硬質で色も灰色に仕上がります。これらの土器は「瓦質土器（がしつどき）」や「陶質土器（とうしつどき）」と呼ばれています。硬質に作られた土器は、弥生土器と比べ、長い期間使用できることや水などの液体を長い間貯蔵できるため、コンテナ（運搬具）として使用していたと考えられます。土器は口口を使って作り、当て具や削り具とよばれる工具を使って土器の厚さを調整しているのが特徴です。当て具の格子目の痕や削った時についた工具の痕などが土器の表面や内面に残っています。

#### （2）鉄器

弥生時代になると、中国や朝鮮半島から鉄器が伝わり、石器ではできなかったこともできるようになりました。鉄器には「鉄斧（てつぷ）」・「鉄製鋤先（てつせいすきさき）」・「鉄鎚（てつつい）」など木の伐採や農作業、鉄器生産を行うときに使用する日常品や「鉄剣」や「鉄鏃（てつぞく）」などの武器類等があります。ほとんどの鉄器は加工されたものを直接大陸や朝鮮半島から入手していますが、中には「板状鉄斧（ばんじょうてつぷ）」と呼ばれる鉄製品をつくるための素材に使用されるものも含まれています。鉄器は実用品として使用されたものが多く、刃が丸くなっていたり、使用したときについた傷跡などが多いのが特徴です。

#### （3）青銅器

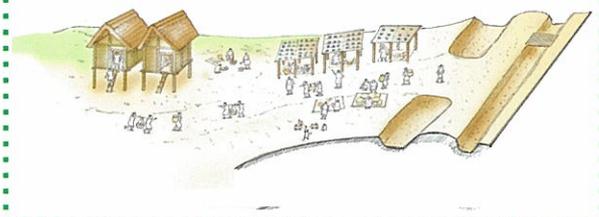
弥生時代になると、中国や朝鮮半島から青銅器が伝わり、有力者たちはこぞって青銅器を入手しようとしました。特に「青銅鏡（せいどうきょう）」・「銅矛（どうぼこ）」・「銅剣」などの権威を象徴する青銅器に人気集中しました。これらの青銅器のほとんどは非日常・非実用品で“使うこと”より“持つこと”に価値観を見いだしていました。

実用品として使用された青銅器は、重さを量る天秤の錘の「権（けん）」・「銅鏃（どうぞく）」などがあります。「銅鏃」は原の辻遺跡から160本以上見つかり、日本最多の出土量を誇っています。中には銅鏃に紐（ひも）がついた状態で見つかり、矢柄の先端に取り付ける方法を知ることができます。「青銅製の鋤先」や「青銅製のヤリガンナ」はほとんど使われた形跡がなく、大切に保管され、儀式のときなどだけでしか使用されていなかったものと考えられています。

日本国内ではまだ使用されていない弩（ど）〔＝中国で開発された機械仕掛けの弓矢〕に使う矢の先に取り付ける「三翼鏃（さんよくぞく）」や馬車の車輪を留める「車馬具（しゃばぐ）」など珍しい青銅器も持ち込まれています。「五銖銭（ごしゅせん）」・「大泉五十（たいせんごじゅう）」・「貨泉（かせん）」等の中国の貨幣も原の辻遺跡に持ち込まれていますが、まだ日本は物々交換の時代だったので、本来の貨幣としての機能はなく、交易品と同じ扱いで交換されていたものと考えられています。

#### 【模型を見て確かめてみよう】

- 日本で作られた土器と中国と朝鮮半島から持ち込まれた土器はどこが違うのか？  
⇒（形の違いや土器の色の違いについて知る。）
- 鉄器是一支国人にとってどのような存在だったのか？  
⇒（実用品だったことを知る。）
- 青銅器是一支国人にとってどのような存在だったのか？  
⇒（権威具として入手していたことを知る。）
- 権はどのように使われていたのか？  
⇒（棹秤の仕組みを知る。）



#### ④ 農耕のシーン

《シーンの見どころ》石庖丁と石鎌〔鉄鎌〕を使った農作業の違いに注目！  
一支国人は何をつくり、何を食べていたのか？

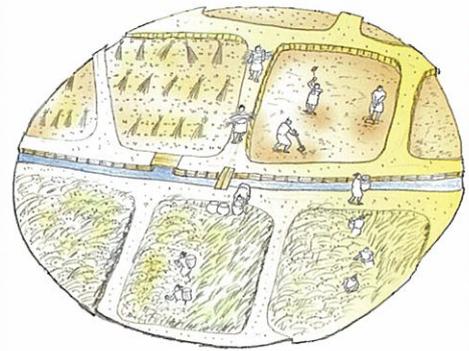
一支国人は原の辻遺跡の周辺に広がる深江田原（ふかえたばる）の低地部を中心に稲作を営み、周辺の丘陵部で畑作を行っていたものと考えられています。

稲作では、水田をならす「エブリ」・田を耕す「鍬（くわ）」・コメを収穫する「石庖丁（いしぼうちょう）」などを使ってコメを作り、畑作では畑の畝（うね）を作る「鋤（すき）」・ムギを収穫する「石鎌（いしがま）のちに鉄鎌（てつがま）に進化」などを使ってムギを作っていました。農作業においてコメとムギを収穫する道具が「石庖丁」と「石鎌（鉄鎌）」と異なるのは穂首だけを収穫するコメと根元から収穫するムギの違いから収穫する道具を使い分けられていたものと考えられます。

また島内には自然の恵みも豊富にあり、ヤマモモ・雑草メロン・ドングリ・ウリ等採集して食べていました。ヤブツバキやアブラチャン等の実も採集し、実からアブラを採取していました。収穫や採集したものは高床倉庫に保管し、必要な時に必要なだけ使いました。

#### 【模型を見て確かめてみよう】

- コメとムギは何を使って収穫していたか？  
⇒（道具の違いについて知る）
- 何を食べていたのか？  
⇒（コメやムギ以外の食べ物について知る）
- 収穫していたものはどうしていたのか？  
⇒（貯蔵穴や高床倉庫に保管していたことを知る）



#### ⑤-1 生活のシーン（くらす）

《シーンの見どころ》違う形の家にはどんな違いがあるのだろうか？森では何を獲っているのか？日常の生活シーンに注目！

##### （1）暮らす

一支国人は、住むところを建てたり、土器を作ったり、機織りをしたり、鉄器や青銅器を作ったりして生活をしています。原の辻遺跡で見つかった住居は地面を掘って建てる「竪穴式住居」と平地に土壁を立てて建てる「壁立式住居」があります。

有力者は屋根に飾りをつけて他の住居と区別できるようにしています。

##### （2）狩猟

木が生い茂る森には、自然の恵みだけではなく、多くの動物も棲息（せいそく）していました。一支国人は森に入り、森に棲息する動物を「弓矢」や「投弾（とうだん）」を使って、イノシシ・シカ・野ウサギ等を獲っていました。

##### （3）その他

原の辻遺跡からはイヌの骨が多く見つっています。骨の中には人工的に切断された骨があります。日常は狩猟や番犬として飼われていたと思われませんが、使節団が一支国を訪れたときに食材として用いられ、調理し食べられていたと考えられます。

## ⑤-2 生活のシーン（まもる）

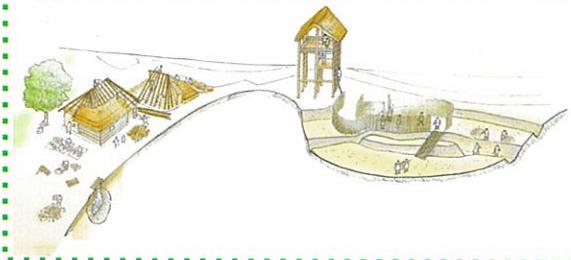
《シーンの見どころ》 兵士は物見やぐらから何を見ていたのか？ 兵士は国のどこに配置されていたかに注目！

原の辻遺跡には集落を外敵から守る「環濠（かんごう）」が掘られています。また、いち早く外敵の侵入を発見するために「物見やぐら」が設置されており、交代で一支国を守る兵士があたりを見張っていたことが想定されます。兵士は緊急時に備え「短甲（たんこう）」と呼ばれる鎧（よろい）を身に付け、「木製楯（もくせいいたて）」を持っていました。

原の辻遺跡からは戦争で争った痕跡が見つかっていないことから、外敵の侵入に備えていましたが、大きな争いは起きていないと考えられています。

### 【模型を見て確かめてみよう】

- 竪穴式住居と壁立式住居はどこが違うのか？  
⇒（作り方や構造の違いについて知る。）
- 物見やぐらから何を見ていたのか？  
⇒（見張りの兵士の役割について知る。）
- どのような道具を使って森にいる動物を捕まえていたのか？  
⇒（獲るための道具や使い方について知る。）



## ⑥ 祭祀のシーン

《シーンの見どころ》 一支国の未来を占う祭儀場！ 祭儀場ではどのような祭祀が行われていたのか？ だれが行っていたのかに注目！

原の辻遺跡の広がる丘陵部の一番高いところに「祭儀場（さいぎじょう）」と呼ばれる国の未来を占う祀りの儀式が行われる祭場がありました。祭儀場には王と神が対話する「主祭殿（しゅさいでん）」や祭祀に使う食材や祭器（さいぎ）を保存・保管しておくための「小型高床倉庫群（こがたたかゆかそうこぐん）」が見つかっています。

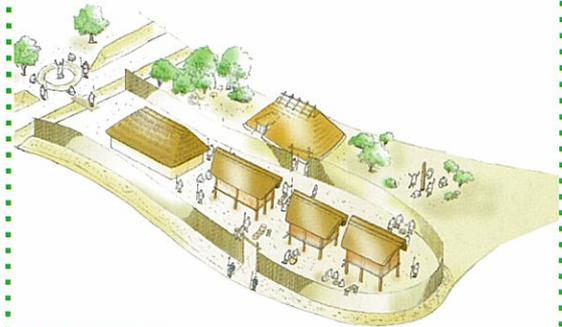
有力者の中には呪術を得意とする「シャーマン」が存在し、様々なことについて占いを行いました。占いは、鹿やイノシシの肩甲骨に焼いた木を押し付けて、ヒビの入りで善し悪しを判断する中国からいち早く伝わった「卜骨（ぼっこつ）」占いをしていました。

この他にも、「一年の収穫を祝う祀り」・「豊作を祈る祀り」・「航海の無事を祈る祀り」など様々な祀りも行われていました。祀りには、日常使用しない「筒型器台（つつがたきだい）」や「注ぎ口付き丹塗り壺（そそぎぐちつきにぬりつぼ）」等を使用し、特に重要な土器には丹を塗り、赤く色をつけて用います。祀りに使用した土器は土器の一部に穴をあけ、土器捨て場に廃棄しています。

水神に例えられる「竜」を線刻した壺や「船」を線刻した壺などがあり、ココヤシに手を加えた笛や動物の骨に刻目を入れて棒で音をかき鳴らす楽器なども祀りに使われていました。

### 【模型を見て確かめてみよう】

- 「卜骨」占いには何の動物の骨が使われていたのか？  
⇒（動物の種類と使われた骨の部位について知る）
- 祀りに使われた土器はどのような特徴があるか？  
⇒（丹を塗った土器や日常使う土器と比べどう形が違うかについて知る）
- 土器にはどのような模様〔絵〕が線刻されているか？  
⇒（描かれた文様〔絵〕について知る）
- 祀りにはどんな楽器が使われていたのか？  
⇒（どのような楽器が弥生時代にあったのかについて知る）



## ⑦ 弔いのシーン

《シーンの見どころ》一支国に眠る有力者たちが今に残したものは何か？どんなお墓にどのような状態で埋葬されたのかに注目！

原の辻遺跡に掘られた環濠の外側に墓地群がつくられています。墓地は穴を掘って死者を埋葬した「土坑墓（どこうぼ）」から、甕（かめ）に死者を入れ甕で蓋（ふた）をして埋葬する「甕棺墓（かめかんぼ）」や石で囲いをつくってその中に死者を入れて石で蓋をする「石棺墓（せっかんぼ）」などがあります。

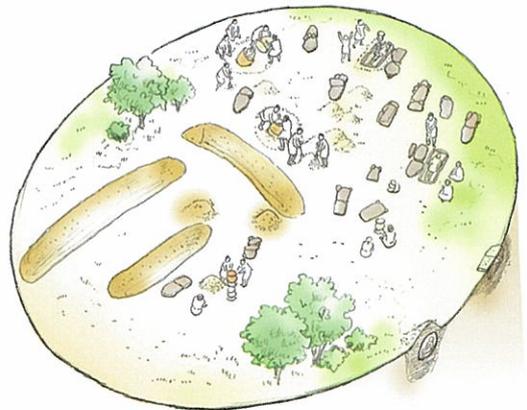
死者が生前に権力を持っていたことを示す「青銅鏡（せいどうきょう）」・「銅剣（どうけん）」・「銅釧（どうくしろ）」・「勾玉（まがたま）」等、交易で手に入れたものを棺と一緒に納めています。一緒に副葬品として納められている品々から、埋葬された人がどのような人だったのか、男性だったのか、女性だったのかをうかがうこともできます。

当時は幼くして死んでしまう場合も多く、死んでしまった子どものことを思い、別れを惜しむ親が子どものために大切に持っていた「トンボ玉」を副葬品として一緒に棺に納めている例もあります。

目に見えない先祖の霊を形にした「人面石（じんめんせき）」を使って、先祖の霊を鎮める祭祀を行い、一支国の平和を先祖の霊に祈っていたものと考えられます。

### 【模型を見て確かめてみよう】

- どのようなお墓がつけられたのか？  
⇒（お墓の種類について知る。）
- お墓にはどのようなものが収められていたのか？  
⇒（副葬品について知る。）
- 人面石にどのようなことを祈っていたのか？  
⇒（先祖に対する考え方や当時の思いについて知る。）
- 副葬品からお墓に埋葬された人はどのような人だったか？  
⇒（埋葬者のことを知る。）



### 3 原の辻遺跡について

(1) 原の辻遺跡について……………	25
(2) 復元整備の紹介	
①復元建物マップ……………	26
②復元建物の概要……………	28
③弥生植物園マップ……………	33
(3) 体験活動メニューの紹介……………	34

## (1) 原の辻遺跡 (はるのつじいせき) について



### 原の辻遺跡とは



原の辻遺跡 (はるのつじいせき) は、長崎県で2番目に広い平野「深江田原 (ふかえたばる)」に広がる弥生時代の大規模環濠集落で、遺跡は約100ヘクタールの範囲に広がっています。

壱岐島内に点在する弥生時代の約50の遺跡の中で、原の辻遺跡は、①多重の環濠を巡らせた集落であること、②東アジア最古の船着き場跡が発見されていること、③島内の他の弥生遺跡と比べ、突出した遺物の出土量があることなどから、一支国の拠点集落 (王都) と特定されました。

また、調査が進むにつれ、原の辻遺跡が、計画的につくられた「海の王都」であったことや東アジア (中国・朝鮮半島) と日本 (本土) を結ぶ架け橋として重要な役割を果たしていたことが明らかになっています。



国指定特別史跡 原の辻遺跡遠景



東アジア最古の船着き場  
〔復元模型〕

### ここがスゴイぞ!原の辻

- ①国の位置と国の拠点集落の位置が特定されているのは、日本国内でも「一支国・原の辻遺跡」だけ
- ②一支国・原の辻遺跡は、海に囲まれた島にあることから、日本各地にある弥生時代の遺跡の中で、「船を用いた交流・交易の歴史」を知ることができる貴重な遺跡
- ③今から約2,200年前 (弥生時代中期の初めごろ) から、約1,600年前 (古墳時代前期の初めごろ) にかけての約600年間、継続して人々が生活した大規模多重環濠集落
- ④『魏志倭人伝』の中に記述されている「南北市糶」を物語る東アジア (中国・朝鮮半島) や西日本各地からもたらされた遺物がたくさん見ついている
- ⑤東アジア最古の船着き場跡が発見されている

### 原の辻遺跡の復元整備コンセプト

原の辻遺跡の復元整備は、丘陵の一番高い場所に広がる「中心域」、祭儀場の周辺に広がる「居住域」、丘陵東側の低地に巡らされた「環濠域」の大きく3つに分けられます。それぞれの域には、今から約2,000年から約1,700年前 (弥生時代後期) の集落の姿を、発掘調査結果に基づいた、同じ構造の建物などを復元し、建物の役割や意味等についても、建物の形や大きさ、その建物周辺から出土した遺物などをもとに想定して、復元しています。復元された建物の下には、同規模・同形状の建物跡が残っています。

また、茅葺屋根 (かやぶきやね) を韓国の伝統的家屋で見られる「逆葺き (さかぶき)」にしていることや、側壁には土壁を多く採用していることは、東アジア (中国・朝鮮半島) の影響を受けて建てられた原の辻遺跡ならではの特徴です。

## (2) 復元整備の紹介

### ① 復元建物マップ

#### 《復元整備の特徴1》

中国や朝鮮半島との交流の様子を物語るしつらえ復元建物のしつらえは、発掘調査で発見されたものを中心に再現されています。中国や朝鮮半島に近い立地を生かし、いち早くもたらされた最新の技術と交易品を見ることが出来ます。

#### 主祭殿



- 【どんな建物?】  
○一支国の祭儀場内にある中心的な建物です。
- 【何をする場所?】  
○王が、国のために神を祀る儀式を行った建物です。
- 【中はどんなつくり?】  
○王と神が会食をする儀式のシーンを再現しています。

#### 王の居館



- 【どんな建物?】  
○主祭殿に隣接する一支国王の住まいです。
- 【何をする場所?】  
○王が日常生活をしている建物です。
- 【中はどんなつくり?】  
○王が所持した王を象徴する品物の数々を持っているシーンを再現しています。

#### 祭儀場 倉庫1・2



- 【どんな建物?】  
○一支国の祭儀場内にある建物の一つです。
- 【何をする場所?】  
○主祭殿で行われる儀式に使う品物を保管するための建物です。
- 【中はどんなつくり?】  
○1は板壁で作られ食材を、2は土壁で作られ祭器を保管しているシーンを再現しています。

#### 脇殿



- 【どんな建物?】  
○一支国の祭儀場内にある建物の一つです。
- 【何をする場所?】  
○主祭殿で行われる儀式に備えて準備を行うための建物です。
- 【中はどんなつくり?】  
○王が身を清め、支度を整えようとしているシーンを再現しています。

#### 穀倉



- 【どんな建物?】  
○一支国が管理する国有の倉庫です。
- 【何をする場所?】  
○収穫した穀物を収蔵する場です。
- 【中はどんなつくり?】  
○貯蔵された穀物を保管するシーンを再現しています。



#### たん譚の家



- 【どんな建物?】  
○渡来人が生活する建物です。
- 【何をする場所?】  
○使節団と王の間を取り持つ通訳が滞在场です。
- 【中はどんなつくり?】  
○通訳に必要な貴重な道具を保管するシーンを再現しています。

#### 宿舎



- 【どんな建物?】  
○渡来人が生活する建物です。
- 【何をする場所?】  
○渡来人の生活の場であり、使節団の高官に次ぐ次官が滞在する場です。
- 【中はどんなつくり?】  
○使節団が宿泊する場のシーンを再現しています。

#### 番小屋



- 【どんな建物?】  
○環濠外の動きを見張るための建物です。
- 【何をする場所?】  
○物見やぐらで番をする兵士が待機する場です。
- 【中はどんなつくり?】  
○緊急事態に備えた武器類や防具類が保管されているシーンを再現しています。

## 使節団の倉庫

【どんな建物?】  
○使節団が訪れた時に使用する建物です。



【何をする場所?】  
○使節団が持ってきた重要な荷物や貢ぎ物を保管する場です。

【中はどんなづくり?】  
○使節団が持ってきた品物を保管するシーンを再現しています。

## 使節団長の滞在场

【どんな建物?】  
○使節団が訪れた時に使用する建物です。



【何をする場所?】  
○使節団を歓迎、接待したり、使節団の中でも位の高い使者が宿泊する場です。

【中はどんなづくり?】  
○一支国を訪れた使節団を送迎しているシーンを再現しています。

## 使節団従者の滞在场

【どんな建物?】  
○使節団が訪れた時に使用する建物です。



【何をする場所?】  
○使節団の従事者が滞在する場です。

【中はどんなづくり?】  
○従事者が食事を作っているシーンを再現しています。

## 長老の家

【どんな建物?】  
○一支国人の住まいです。



【何をする場所?】  
○一支国の中で、最年長者（長老）の日常生活の場です。

【中はどんなづくり?】  
○長老がこれまでに集めた品を持っているシーンを再現しています。

## 長の集会場

【どんな建物?】  
○一支国に住む住人が使用する建物です。



【何をする場所?】  
○一支国の様々な役割の長（おさ）が、集まって集会を開く場です。

【中はどんなづくり?】  
○集会場に品物が保管されているシーンを再現しています。

## 物見やぐら

【どんな建物?】  
○環濠外の動きを見張るための建物です。



【何をする場所?】  
○外敵の侵入や幡鉾川から入ってくる使節団を見張る場です。

【中はどんなづくり?】  
○やぐらの上に置かれた見張るための道具が置いてあるシーンを再現しています。

## 交易司の家

【どんな建物?】  
○一支国人の住まいです。



【何をする場所?】  
○市（バザール）を司る者（交易の長）の日常生活の場です。

【中はどんなづくり?】  
○交易で使用する道具や貴重な交易品を管理しているシーンを再現しています。

## 交易の倉庫

【どんな建物?】  
○一支国が管理している国々の倉庫です。



【何をする場所?】  
○交易によって手に入れた品を収蔵する場です。

【中はどんなづくり?】  
○交易品を保管しているシーンを再現しています。

## (2) 復元整備の紹介 ②復元建物の概要

### 【中心域 祭儀場内施設紹介】

#### 主祭殿 (しゅさいでん)

高床建物 大引構造 切妻屋根 (茅逆葺)  
桁行2間(5.2m), 梁間1間(4.1m),  
床高1.8m, 総高6.5m

主祭殿は祭祀や儀式を行うための建物で、一支国のために王が神と対話する儀式を行った建物と想定されています。6本柱の土壁式の高床建物で、神社本殿などの屋根に見られる破風板(はふいた)の飾りが取り付けられているのが特徴です。

取り外し式の刻み梯子(はしご)を使って昇り降りしていたと考えられています。1本の木材から削りだされた外開きの扉や床大引材、土壁など、実際に原の辻遺跡から出土した資料をもとに復元されています。



主祭殿

#### 脇殿 (わきでん)

平屋壁立建物 土壁 寄棟屋根 (茅逆葺)  
桁行6.9m, 梁間4.0m, 総高4.2m

高床主祭殿と主軸をほぼ同じにし、主祭殿における儀式に備えて、王が身を清め、祭服を整えた控えの建物と想定されています。土壁で屋根を支える構造で、内開きの扉と窓を一箇所設けてあり、内部は板間と土間に分かれています。



脇殿

#### 祭儀場・倉庫① (さいぎじょう・そうこ①)

高床建物 大引構造 切妻屋根 (茅逆葺)  
桁行1間(4.5m), 梁間1間(3.2m),  
床高1.6m, 総高5.35m

祭祀に用いる祭器を収納するための小型倉庫と想定されています。内部には祭祀の際に使用される調理用具・食器・祭服・装飾品・楽器・祭器などが保管されていたものと考えられています。土壁で、外開きの扉を設けていますが、窓はつけられていません。取り外し式の刻み梯子を使って昇り降りしていたと考えられています。



祭儀場・倉庫①

#### 祭儀場・倉庫② (さいぎじょう・そうこ②)

高床建物 大引構造 切妻屋根 (茅逆葺)  
桁行1間(3.7m), 梁間1間(3.1m), 床高1.6m,  
総高5.3m

祭祀に用いる食材を収納するための小型倉庫と想定されています。内部には壺や甕などの容器や収納具に納められた祭祀に使用する食材が保管されていたものと考えられています。食材は容器に入れ、短期間の収納のため、柱上部にねずみ返しは取り付けられていません。側面は風を通す板壁で、外開きの扉を設けていますが、窓はつけられていません。取り外し式の刻み梯子を使って昇り降りしていたと考えられています。



高床倉庫②食材庫

## 【中心域 祭儀場周辺施設紹介】



王の居館

### 王の居館（おうのきょかん）

大型竪穴住居 伏屋構造 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行9.7m, 梁間6.4m, 総高5.5m

祭儀場に隣接する大型の竪穴住居であることから、一支国王が暮らした住居との想定で復元されています。室内には権威を象徴する鏡や剣などが置かれていたと考えられています。また南西側の壁面に沿って一段高いベッド状の高まりが設けられています。



使節団長の滞在場

### 使節団長の滞在場（しせつだんちょうのたいざいば）

大型竪穴住居 伏屋構造 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行10.7m, 梁間7.4m, 総高4.0m

一般的な竪穴住居と比べて群を抜いて大きく、かつ集落の中心に位置することから、外国使節団を迎える場所（迎賓場）とその使節団の長（おさ）らが滞在した建物と想定されています。建物は2本の主柱で棟を支え、出入口には内開きの扉が設けられています。室内の床面には、壁面に沿って一段高いベッド状の高まりが出入口部分を除く四方向に巡らされています。



使節団の倉庫

### 使節団の倉庫（しせつだんのそうこ）

高床建物 大引構造 切妻屋根（茅逆葺）  
桁行2間(6.3m), 梁間1間(3.1m), 床高1.5m,  
総高5.3m

迎賓場に隣接する高床建物であることから、使節団を迎えるための調度品や、使節団が携えてきたものを納めた倉庫と想定されています。6本柱の、土壁の高床式倉庫で、両開きの扉が設けられています。



使節団従者の滞在場

### 使節団従者の滞在場 （しせつだんじゅうしゃのたいざいば）

竪穴住居 伏屋構造 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行8.7m, 梁間7.1m, 総高5.0m

迎賓場に隣接する竪穴住居で、使節団の長（おさ）の従者たちが滞在した宿舎と想定されています。従者は長の世話や護衛などを行ったと考えられています。建物は2本の主柱で棟を支え、内部には3方向にベッド状の高まりが設けられています。出入口の扉は、杉皮を用いた取り外し式の扉がつけられています。

## 【中心域 居住域施設紹介】

### 長老の家（ちょうろうのいえ）

竪穴住居 伏屋構造 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行7.1m，梁間5.8m，総高3.1m

祭儀場の北側に位置し，集会所と想定されている大型壁立建物と対になる住居であることから，集会所を取り仕切り，民衆のまとめ役であるムラの指導者的な人（長老）が暮らした住居と想定されています。建物は2本の主柱で棟を支え，奥壁に沿って一段高いベッド状の高まりが設けられています。出入口は杉皮を用いた取り外し扉をつけています。



長老の家

### 長の集会所（おさのしゅうかいじょ）

大型方形壁立建物 土壁 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行9.4m，梁間5.6m，総高5.0m

祭儀場の北側に位置する大型平地式の壁立建物であり，農業や漁業など，様々な職種の長たちや一支国住人たちが集い，語らい，伝統を育んだ集会場と想定されています。内開きの扉と，窓を1箇所設けています。



長の集会所

### 交易司の家（こうえきしのいえ）

平屋壁立建物 土壁 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行10.1m，梁間約5.6m

祭儀場の東側に位置する平地式の大型方形壁立建物で，交易を司る者とその家族が暮らしていた家と想定されています。大型であることから島外から一支国を訪れた使節団の分宿棟としても使われ，壁際に敷物を敷くなどして寝泊りしていたものと考えられています。側面は土壁で，風下となる南面に杉皮を用いた取り外し扉の出入口と，窓が1箇所設けられています。



交易司の家

### 宿舎（しゅくしゃ）

平屋壁立建物 土壁 寄棟屋根（茅逆葺）  
桁行10.2m，梁間約5.4m

祭儀場の東側に位置する大型の平地式方形壁立建物であり，交易司の家と同様に，島外から一支国を訪れた使節団の分宿棟と想定されています。建物の大きさや構造，つくりも，ほぼ同じです。



宿舎



譚の家

### 譚の家 (たんのいえ)

平屋壁立建物 土壁 寄棟屋根 (茅逆葺)  
長径5.7m・短径5.1mの平面楕円形

祭儀場の東側に位置する円形平地式壁立建物で、韓国の南海岸地域で見つかった住居の構造と類似していることから、中国や朝鮮半島と倭国の言葉を巧みに操る渡来系の通詞(通訳)とその家族の住まいと想定されています。通詞の家族以外にも若干名の使節団が室内の一部に敷物を敷くなどして寝泊りしていたことも考えられています。壁は厚い土壁で、壁で屋根を支える構造になっています。杉皮を用いた取り外し扉の出入口と、窓を一箇所設けています。



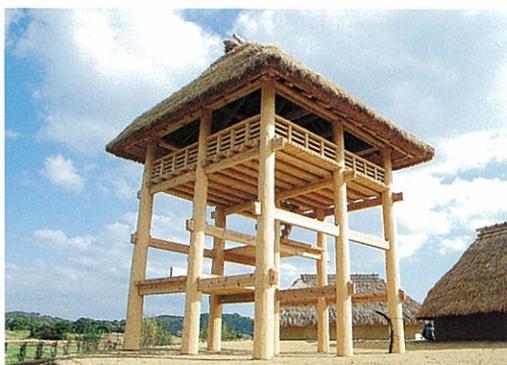
番小屋

### 番小屋 (ばんごや)

平屋壁立建物 土壁 寄棟屋根 (茅逆葺)  
長径6.3m, 短径5.5mの平面楕円形

祭儀場の東側に位置し、物見櫓に隣接する楕円形の平地式壁立建物で、兵士の詰め所であったと想定されています。内部には武器・武具のほか、日常生活に必要な水や食料、薪、衣類などが揃えられていたものと考えられています。杉皮を用いた取り外し扉の出入口と、窓を一箇所設けています。

## 【中心域 その他施設紹介】



物見やぐら

### 物見やぐら(ものみやぐら)

高床建物 大引構造 切妻屋根 (茅逆葺)  
桁行2間(5.9m), 梁間2間(5.9m), 床高5.8m, 総高11.0m

祭儀場の東側に位置する2間×2間の総柱の建物で物見やぐらと想定されています。主に集落の東側、幡鉾川の河口方面を見張るためのやぐらです。3段構造で、取り外し式の刻み梯子を使って昇り降りしたと考えられています。最上段の四方に格子に組んだ手すりを巡らせています。当番の兵士が見張りに当たり、何か異常があった際には鳴り物(木板)で知らせるように決められていました。



交易の倉庫

### 交易の倉庫 (こうえきのそうこ)

高床建物 大引構造 切妻屋根 (茅逆葺)  
桁行2間(4.3m), 梁間1間(3.0m), 床高1.6m,  
総高5.1m

6本柱の高床建物で、建物に隣接した場所から棹秤の錘(おもり)である権(けん)が見つかったことから、交易品を収納するための倉庫と想定されています。鉄器の素材(鉄?=てつてい), 青銅器の素材, 絹, 薬草, 朱などが保管されていたものと考えられています。側面は土壁で、内開きの扉を設けていますが、倉庫としての用途のため窓はつけられていません。品物の出し入れの際に足元がより安定するように組み梯子を使って昇り降りしていたと考えられています。

## 穀倉 (こくそう)



穀倉

高床建物 大引構造 切妻屋根 (茅逆葺)  
桁行2間(6.0m), 梁間1間(2.9m), 床高1.8m,  
総高5.3m

分枝柱(ぶんしばしら=二股に枝分かれした部分を利用した柱)で大引を受ける構造の高床建物で、収穫した米や麦を入れる穀倉と想定されています。出入口は外に開く片開きの扉で、足元に縁(ステップ)が付き、取り外し式の刻み梯子を使って昇り降りしていたと考えられています。側壁は板壁で、窓は無く、室内は穀物の量によって空間の調節ができるよう間仕切りを設けています。穀物倉庫であることから分枝柱に溝をつくってねずみ返しを挟み込んでいます。穀物を収納することからかなりの重量に耐えられる様に桁行柱間の中央に床束(ゆかつか=補助柱)を入れています。

## 円形周溝状遺構 (えんけいしゅうこうじょういこう)

祭儀場の南側に位置し、丸く溝で囲まれた場所です。溝で囲まれた特別な空間は、呪術を得意とするシャーマンが中に入り、祈りを捧げる儀式の場として使われました。



## (2) 復元整備の紹介 ③ 弥生植物園マップ

### 【全体的な特徴】

弥生植物園では、弥生時代の日本列島で生育が確認された各種の植物を見ることができます。

水田や畠地などでは、人の手によって植栽された植物を、力ヤ場や環濠の水面では、自然に育った植物を見ることができます。

### 《観賞用草地》遺跡内全般

#### 【どんなゾーン？】

○日本列島で生育が確認される植物を見ることができるゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○アブラナ類・ベニバナ・アサガオ・センノウ・ソバ・ワタ・ヒガンバナ・スイセンなど。

### 《環濠の水面》 ※平成23年から

#### 【どんなゾーン？】

○湿地に特有の植物や群落を見ることができるゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○コナギ・ジュズダマ・ヨシ・ガマ・ミゾソバ・カズノコグサなど。

### 《畠地》 ※平成23年から

#### 【どんなゾーン？】

○弥生時代において、栽培されていた植物を見ることができるゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○マクワウリ・ザッソウメロン・ツルクビビョウタン・ユウガオ・ツバキ・ベニバナ・ダイズなど。

### 《モモ栽培》 ※平成23年から

#### 【どんなゾーン？】

○野生のモモを始めとする多様な系統のモモを見ることができるゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○野生モモ・ハナモモなど。

### 《中心域》

#### 【どんなゾーン？】

○弥生時代の原の辻遺跡とその周辺で生育・利用された樹木を見ることができるゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○ヤブツバキ・センダン・エゴノキ・ヤマモモ・イスノキ・マテバシイ・イチイガシ・コナラなど。

### 《力ヤ場》 ※平成24年以降

#### 【どんなゾーン？】

○草丈の揃ったススキが一面に生育する高茎草地を見ることができるゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○ススキ・ナンバンギセルなど。

### 《弥生水田》 ※平成24年以降

#### 【どんなゾーン？】

○弥生時代の水田環境を再現しているゾーンです。

#### 【見ることができる主な植物】

○栽培されているのは、古い系統のコメです。  
イヌタデ・カキドオシ・カヤツリグサなど。



### (3) 体験活動メニューの紹介

原の辻遺跡では、体験しながら学べる「体験活動メニュー」を用意しています。体験活動のメニューで、ものを作ったり、自分で作ったものを使って活動したりすることで、見て学ぶ、聞いて学ぶことと同じように、たくさんのことを学べます。

ここで紹介するのは一例です。人数や時間、ねらい等に応じて、メニューも考えることもできます。どうぞ、ご連絡ください。

#### 「いつでも ものづくり」コース

◎このコースでは、用意された道具を使って弥生時代のものを作ることができます。

#### 大きな木器づくり

机や椅子、臼や杵、舟などを作ります。

#### わら 藁細工

つぼかめ かご  
壺甕の置き具、籠、  
いねわら  
稲藁による縄づくり  
ができます。

◎実際に作ってみて、初めてわかることって、たくさんあります。すすんで、挑戦してみてください。



#### 火起こし 体験

ものづくりではありませんが、

# 「しっかり ものづくり」コース

◎このコースでは、スタッフによる指導を受けながら、弥生時代のものを作ることができます。



## 小さな 木器づくり

短時間で  
さじ、ひしゃく、弓矢  
などを作ります。

## 楽器づくり

土笛、ササラを  
作ります。



## 土器づくり

わん たかつき きだい  
椀, 高杯, 器台,  
つぼ かめ  
壺, 甕を  
作ります。

## 編み物 づくり

かご さる  
籠や笊を作ります。

## まがたま とんぼ だま 勾玉・蜻蛉玉 づくり

勾玉や蜻蛉玉の  
アクセサリーを  
作ります。

## 石器づくり

せきそく いしがま せきふ  
石鏃, 石鎌, 石斧,  
ぎょうらく  
漁労具などを  
作ります。

## 4 授業例について

(1) 学習指導要領、教育要領等との関連一覧表……	37
(2) 授業例	
【幼稚園】	
① 昔むかしへ タイムスリップ……………	40
② ひみこの 歯が いーぜ!……………	41
【小学校】（低学年：生活科）	
③ あきとなかよし……………	42
【小学校】（中学年：総合的な学習の時間）	
④ 一支国人の生活を体験しよう……………	43
【小学校】（6年：社会科）	
⑤ 米作りのむらから古墳のくにへ……………	44
【中学校】（1年：社会科）	
⑥ 日本の国のはじまり～弥生時代の生活～…	45
⑦ 日本の国のはじまり～邪馬台国～……………	46
⑧ 日本の国のはじまり～古墳時代の吉岐～…	47
【高等学校】（地理歴史科）	
⑨ 一支国から古代日本を知る……………	48
【高等学校】（総合的な学習の時間）	
⑩ 郷土の歴史を探る……………	49
(3) ワークシート集……………	50

# (1) 学習指導要領、教育要領等との関連一覧表

一支国博物館・原の辻遺跡で、特に学ぶことができる、小・中・高等学校学習指導要領、幼稚園教育要領の目標・内容を示しています。 ○は、その内容を学ぶ時に、特に中心となると思われる場所を表しています。			一支国博物館														原の辻	
			体験学習ゾーン					展示ゾーン									復元建物	弥生植物園
			体験交流室	キッズこころがく研究所と観察路	オープン収蔵庫	屋上展望広場	展望室	エントランスホール	魏志倭人伝の世界	シルクロードビューシアター	吉岐から一支へ(通史ゾーン)	吉岐から一支へ(古代ゾーン)	吉岐から一支へ(古墳ゾーン)	海の王都・原の辻	一支国トピック	できるかも展示		
施設等紹介ページ			9	10	10	11	11	14	14	15	15	15	16	16	17	17	26	33
小学校 社会科 第6学年																		
1 目標	(3)	社会的事象の具体的調査, 基礎的資料の効果的活用	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 内容	(1)	ア 狩猟・採集や農耕の生活							○	○	○			○	○		○	○
	(1)	ア 古墳, 大和朝廷による国土統一のようす							○		○		○	○			○	
	(1)	イ 大陸文化の摂取, 大仏造営のようす, 貴族の生活											○	○				
中学校 社会科 (歴史的分野)																		
1 目標	(4)	身近な地域の歴史や具体的な事象の学習	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2 内容	(1)	ア 時代の区分や移り変わり, 年代の表し方や時代の区分									○							
	(2)	ア 日本列島における農耕の広まり, 生活の変化, 当時の人々の信仰							○	○	○			○	○		○	○
	(2)	ア 大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり							○		○		○	○			○	
	(2)	イ 律令国家の確立, 天皇や貴族の政治										○	○					
	(3)	ア 東アジアの国際関係										○						

一支国博物館・原の辻遺跡歴史公園で、特に学ぶことができる、小・中・高等学校学習指導要領、幼稚園教育要領の目標・内容を示しています。 ○は、その内容を学ぶ時に、特に中心となると思われる場所を表しています。	一支国博物館														原の辻	
	体験学習ゾーン					展示ゾーン									遺跡	
	体験交流室	キッズこころがく研究所と観察路	オープン収蔵庫	屋上展望広場	展望室	エントランスホール	魏志倭人伝の世界	シルクロードビューシアター	吉岐から二支へ(通史ゾーン)	吉岐から一支へ(古代ゾーン)	吉岐から二支へ(古墳ゾーン)	海の王都・原の辻	一支国トピック	でるかも展示	復元建物	弥生植物園
施設等紹介ページ	9	10	10	11	11	14	14	15	15	15	16	16	17	17	26	33
<b>高等学校 地理歴史</b>																
<b>第1 世界史A</b>																
2 内容 (1) イ	日本列島に見られる世界との関係や交流				○		○		○		○	○				
<b>第2 世界史B</b>																
2 内容 (1) イ	日本と世界の諸地域の接触・交流				○		○		○		○	○				
<b>第3 日本史B</b>																
2 内容	(1) ア	遺跡や遺物、文書など歴史資料の特性への着目	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	(1) イ	縄文文化, 弥生文化						○	○	○			○	○		○
	(1) イ	古墳文化						○		○		○	○			
	(1) イ	律令体制								○	○					
	(1) ウ	東アジア世界との関係						○		○		○	○			○

<b>小学校 生活科 第1学年及び第2学年</b>																
1 目標		自分と身近な自然とのかかわり	○	○			○									○
2 内容 (4)		公共物や公共施設の利用, それを支えている人々	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	(5)	身近な自然の観察と四季や季節の変化による生活のようす	○	○			○								○	○
	(6)	身近な自然の利用の面白さや自然の不思議さ	○	○			○	○							○	○

## 幼稚園

幼稚園教育要領には、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」といった5領域があり、それぞれのねらいと指導する内容が示されています。

これらの中には、一支国博物館を見学すること自体で学べるものがたくさんあります。また、「健康」に関して、弥生植物園で、弥生時代の食べ物を知ることを通して食生活について学んだり、「環境」に関して、復元建物や弥生植物園、一支国トピック等で、季節による自然や人間の生活の変化、動植物を大切にすることについて学んだりすることができます。さらには、「表現」に関して、各種の体験等を通して、感触を楽しんだり、音を楽しんだりすることについて学ぶことも可能です。

## 小学校 中学校 高等学校 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の目標に新たに加わった文言の一つが「探究的な学習」です。

総合的な学習の時間の内容は、学習指導要領に示された目標に従って、地域や学校、児童生徒の実態に応じて、創意工夫を生かした内容を定めることが必要であり、例として、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的課題、児童の興味関心に基づく課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題が示されています。また、指導計画の作成と内容の取扱いでも、博物館等との連携が示されています。

一支国博物館や原の辻遺跡には、総合的な学習の時間の目標になりうる課題がたくさん考えられ、各種の展示物等を利用した探究的な活動の展開も可能です。

## その他にも

ここまで、主として社会科、生活科、総合的な学習の時間について紹介しています。ただ、これは一例であり、他の多くの教科、領域でも、一支国博物館、原の辻遺跡を舞台にして学べるものはたくさん考えられます。

## 生涯学習ゾーンでは

一支国博物館の生涯学習ゾーンには、右のような施設等があり、それぞれに主な用途を示しています。 学習活動の目的や内容に応じて使用することができます。		講座室	多目的ホール	多目的交流室	図書閲覧室	情報プラザ
	施設等紹介ページ	8	8	8	8	9
情報検索				○	○	
調べ学習	○			○	○	
学習のまとめ	○	○	○	○	○	
各種発表会	○	○	○			
各種会議	○	○	○			

## (2) 授業例

### 幼稚園 ①「昔むかしへタイムスリップ」

#### 1 領域名 「昔むかしへ タイムスリップ」

弥生時代の人々は、どんな生活をしていたのでしょうか。今みんなが住んでいる家と同じところ、違うところが見つけれられるのでしょうか。着る物や食べる物は、どんな物だったのでしょうか。そして、子どもたちは一日どんなことをして過ごしていたのでしょうか。遊んでいたのかな？お手伝いをしていたのかな？

昔むかしへタイムスリップして、弥生時代の人々の生活を見て、触れて、感じてみましょう。きっと弥生時代の人々の知恵のすばらしさに気付く機会になることでしょう。

#### 2 ねらい・内容

- 原の辻遺跡（復元建物等）を見学し、今と昔の生活の違いに気付く。
- 生活に関係の深い情報や施設に興味や関心をもち、発見を楽しんだり、考えたりする。

幼児の経験する内容	環境構成と教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当者の遺跡（復元建物）についての説明を聞きながら見てまわる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の形や材質の違いに気付く。</li> <li>・それぞれの家の用途を知る。</li> <li>・生活様式など疑問に思ったことを尋ねる。</li> </ul> </li> <li>○ 弥生時代の生活や遊びの様子を模型でのシーンやビデオを通して知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原の辻遺跡（復元建物） <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺跡巡りの約束を確認する。</li> </ul> </li> </ul> <div data-bbox="858 1111 1329 1464" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の自分たちの生活が具体的にイメージできるような言葉かけをする。</li> <li>・昔の人々の知恵や工夫、偉大さを伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一支国トピック・多目的ホール <ul style="list-style-type: none"> <li>・手伝いの様子、楽器や遊びの様子などを大型模型やアニメなどを使って、幼児にわかりやすく伝える。</li> </ul> </li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一人一人の幼児の気付きや疑問に共感し、それを他の幼児に広げる。</li> <li>○ 現在の豊かな社会生活に感謝し、物を大切に作る心を育てる。</li> <li>○ 昔の遊びを今の自分たちの遊びに取り入れ、工夫して遊べるようにする。</li> </ul>

## 幼稚園 ②「ひみこの 歯が いーぜ」

### 1 領域名 「ひみこの 歯が いーぜ！」

現代人と古代人のあごの形が違っているのは、どうしてでしょうか？それは食べ物の違いにあるようです。よく噛んで食べることは大切なこと。“30回噛むと良い”とされていることを実践すると、ごはんは甘いことに気がきます。

一支国では、弥生時代からお米が作られていました。お米の他にはどんな物を食べていたのでしょうか。しっかりと噛まない食べられない物もあったようです。弥生の人々が食べていた物を知ること、噛むことの大切さが体験できれば・・・と思います。

### 2 ねらい・内容

- 弥生時代の食生活に触れ、今と昔の食べ物の違いに気付く。
- 食生活に興味や関心をもち、健康に過ごすために必要な食事の習慣を知る。

幼児の経験する内容	環境構成と教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 博物館担当者の弥生時代の食事についての説明を聞きながら見てまわる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・食材の違いに気付く。</li> <li>・漁労や狩猟，稲作について知る。</li> <li>・食材についてなど疑問に思ったことを尋ねる。</li> </ul> </li> <li>○ 古代食を体験する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>季節によって                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・田植え体験や稲刈り体験</li> </ul> </li> <li>年間を通して                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・火おこし体験</li> <li>・米とぎ体験（赤米・黒米・緑米）</li> <li>・弥生植物園の散策</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>○ 古代食を食べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出土品の見学               <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代や季節によって変化していることに気付くような言葉かけをする。（食材カレンダーを見せる。）</li> <li>・何を食べていたか？どんな食べ方をしていたか、出土品を見ながら一緒に考える機会をつくる。</li> </ul> </li> <li>○ 原の辻遺跡               <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味や関心が深まるように好きな体験を選んでもできるようにする。</li> </ul> </li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">           ひ・・・肥満防止            み・・・味覚の発達            こ・・・ことばの発音            の・・・脳の発達            は・・・歯の病気予防            が・・・ガン予防            い・・・胃腸快調            ぜ・・・全力投球         </div> <div style="text-align: right;">  </div> <li>○ 原の辻遺跡               <ul style="list-style-type: none"> <li>・色や匂い，食感などの特徴を味あわせる。</li> </ul> </li>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 噛むことの必要性や食感の違いに気付かせ、日頃の食生活に生かせるようにする。</li> <li>○ 旬の食材の良さや古来から受け継がれた日本人の食生活の大切さについて知らせる。</li> </ul>

1 単元名「あきとなかよし」

2 指導計画

事前	校庭などで、秋を見つけたり、遊んだりしながら、秋の自然と親しむことができる。
本時 (2時間)	原の辻遺跡や一支国博物館周辺の落ち葉や木の実、草花などの特徴を生かして遊ぶことができる。
事後	集めてきた落ち葉や木の実、草花などを使って、お面、人形、飾り、遊ぶものなどの自分の作りたいものを工夫して作ることができる。

3 本時の学習指導

(1) 目標

原の辻遺跡や一支国博物館周辺（※以下、学習活動欄では、「原の辻」と表記）の落ち葉や木の実、草花などの特徴を生かして遊ぶことができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料・教材
つかむ	① 博物館担当者に、ココヤシ笛や古代食のシイの実について説明してもらい、原の辻でとれた木の実や草花などを使って、古代の人も遊んでいたことを知る。 ② 本時の課題を考える。	キッズこうこがく研究所 ・ココヤシ笛 ・どんぐりごま
／	原の辻の木の実や草花を使って、どのような遊びができるだろうか。	
／	③ 木の実や草花を使って遊びができそうか発表させ、見通しをもつ。 ④ 原の辻の木の実や草花を使って遊ぶ。 ※ 遊び方がわからない児童には、友達の遊びを参考にさせたり、博物館の方に尋ねたりさせる。 ～遊びの例～ ・大きな葉っぱをお面にする ・オナモミを洋服につける ・松ぼっくりのお手玉 ・どんぐりごま ・秋のピンゴゲーム	一支国博物館周辺 原の辻遺跡周辺 キッズこうこがく研究所
／	⑤ 自分が見つけたものや考えた遊びやを発表し合う。 ⑥ 原の辻の木の実や草花を使って、できた遊びをまとめる。	キッズこうこがく研究所
／	まとめの例 ○ どんぐりでごまを作って遊ぶことができた。 ○ 葉っぱでお面を作って遊ぶことができた。 など	
／ ふりかえる	⑦ 本時の学習をふりかえる。	

1 単元名「一支国人の生活を体験しよう」

2 指導計画

事前	地域に貴重な遺跡があることを知り，原の辻遺跡についての概要を調べる。
本時 (2時間)	一支国人の生活を体験し，原の辻に生きた人々について理解を深めることができる。
事後	学習してわかったことや思ったことをまとめ，他学年や地域に人たちに伝える。

3 本時の学習指導

(1) 目標

一支国人の生活を体験し，原の辻に生きた人々について理解を深めることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料・教材
つかむ	① 海の王都で復元船をみて，一支国が海上交易国家であり，一支国に中国や朝鮮半島からの渡来人が来ていたことを知る。	海の王都・原の辻 ・準備造船
	② 本時の課題を考える。	
しらべる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     支国人と渡来人は，原の辻でどのような交流をしていたのだろう。                 </div> ③ シルクロードビューシアターを見て，一支国人と渡来人に分かれて，古代人の体験をするための見通しをたてる。	シルクロードビューシアター  原の辻遺跡 ・火おこし，赤米炊き，ガラス玉作り，航海体験・勾玉作り
	④ 一支国人と渡来人に分かれて，交流前の準備をする。 ～一支国人～ ・火おこし，赤米炊き，勾玉作り ～渡来人～ ・航海体験，ガラス玉作り	
	⑤ 一支国人と渡来人の交流会を開き，赤米を食べたり贈り物を交換したりする。	
ふりかえる	⑥ お互いが体験したことを発表し合い，まとめをする。	原の辻遺跡（復元建物） ・集会所  原の辻遺跡
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     一支国人は，心をこめて渡来人を迎え，渡来人から文化や技術を学んだ。                 </div> ⑦ 本時の学習をふりかえる。	

1 単元名「米作りのむらから古墳のくにへ」

2 指導計画

事前	縄文時代の人々のくらしの様子を調べる。
本時 (2時間)	一支国博物館の展示資料をもとに、米作りなどの大陸から伝わった技術によって、人々のくらしが安定したことを理解する。
事後	米作りによって、むらが変化し、豪族が出現していく様子について調べる。

3 本時の学習指導

(1) 目標

一支国博物館の展示資料をもとに、米作りなどの大陸から伝わった技術によって、人々のくらしが安定したことを理解する。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料・教材
つかむ	① 弥生時代の生活図や弥生式土器を観察する。 ② 本時の課題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">縄文時代に比べ、原の辻（弥生時代）の人々のくらしはどのように変わったのだろうか。</div>	キッズこうこがく研究所 オープン収蔵庫 ・ 弥生時代の生活図 ・ 弥生式土器
／	③ 原の辻の人たちの生活の様子について予想する。	
／	④ 原の辻の人たちの生活の様子について資料や展示物を使って調べる。 道具・住まい・衣服・食べもの	一支国トピック 海の王都・原の辻 復元建物の見学 ・ 弥生式土器 ・ 石包丁 ・ 農耕具 ・ 高床倉庫 ・ 竪穴住居 ・ 炭化米など
／	⑤ 調べたことを発表する。	
／	⑥ 原の辻の人たちのくらしについてまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">米作りの始まりや大陸から伝わった技術により、食べるものに困らなくなり、生活が安定した。</div>	キッズこうこがく研究所
／	⑦ 本時の学習をふりかえる。	

1 単元名「日本の国のはじまり ～弥生時代の生活～」

2 指導計画

事前 (2時間)	①縄文時代と弥生時代の生活の特徴を比較しながら学習する。 ②一支国博物館・原の辻遺跡見学に備えて、見たいもの、体験したいことをまとめ、各グループで計画を立てる。
本時 (2時間)	一支国博物館・原の辻遺跡を見学し、当時の建物、道具などを実際に見たり、触ったりすることで弥生時代を体感する。

3 本時の学習指導

(1) 目標

事前の学習で知り得た知識を、実際に本物等に触れることでより深め、弥生時代を体感する。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料等
つ か む  /  調 べ る  /  ね じ め し な げ る / は じ り か ね る	① グループで計画した内容を確認する。	原の辻遺跡
	② 本時の課題を確認する。	一支国博物館 ・シルクロードビューシアター ・一支国トピック ・キッズこうこがく研究所 ・オープン収蔵庫 ・・・等
	③ 見学経路・所要時間を確認する。	
	④ 弥生時代の生活について、博物館・遺跡を利用してグループの計画に沿って体験する。	
	⑤ 実際に見たり、触れたりしての気付き・発見・感想などをまとめる。	
	⑥ まとめたことをグループ毎に発表する。	一支国博物館 ・講座室 ・多目的ホール
	⑦ 本時を振り返り、次時の予告を聞く。	

1 単元名「日本の国のはじまり ～邪馬台国～」

2 指導計画

事前 (2時間)	① 邪馬台国を学習し、弥生時代の小国の誕生と大陸との交流の様子を学習する。 ② 一支国博物館・原の辻遺跡見学に備えて、見たいもの、体験したいことの計画を立てる。
本時 (2時間)	一支国博物館・原の辻遺跡を見学し、さまざまな資料や原の辻の全体像などを実際に見ることで弥生時代の小国の様子を体感する。

3 本時の学習指導

(1) 目標

事前に学習し知り得た知識を、実際に本物等を見学することでより深め、弥生時代の小国の様子を体感する。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料等
つ か む	① 学級で計画した内容を確認する。  ② 本時の課題を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     邪馬台国に関する資料や原の辻遺跡全体を見ることで、弥生時代の小国家の様子や大陸との交流について体感しよう。                 </div>	一支国博物館 ・ビューシアター ・『魏志倭人伝』の世界 ・海の王都・原の辻 ・ビューシアターからの眺望  原の辻遺跡
／ 調 べ る ／ ね ら ま げ る ／ ふ り か え る	③ 見学経路・所要時間を確認する。  ④ 弥生時代の小国家について博物館・遺跡を利用して計画に沿って体験する。  ⑤ 実際に見たり、調べたりしての気付き・発見・感想などをまとめる。  ⑥ まとめたことを小グループに分かれて発表し合い、学習を深める。  ⑦ 本時を振り返り、次時の予告を聞く。	一支国博物館 ・講座室 ・多目的ホール

中学校1年：社会科(歴史的分野) ⑧「日本の国のはじまり ～古墳時代の杵岐～」

1 単元名「日本の国のはじまり ～古墳時代の杵岐～」

2 指導計画

事前	日本の古墳時代を学習する。
本時 (2時間)	一支国博物館を見学・活用し、古墳時代の杵岐の様子を体感する。
事後	古墳時代の杵岐を学習する(島内の古墳の数、島内のその他の古墳、島内に多くの古墳がある理由など)。

3 本時の学習指導

(1) 目標

事前に学習し知り得た知識を、一支国博物館を活用することによって深め、古墳時代の杵岐を体感する。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料・教材
つ か む ／  調 べ る ・ ね り あ げ る  ／ ふ り か え る	① 日本の古墳時代について復習する。	一支国博物館のパンフレット  一支国博物館  一支国博物館「杵岐から一支へ(古墳の世界)」のスペース ・ 笹塚古墳前室の床下再現模型 ・ CG映像による埋葬シーン ・ CG映像による前室での祈りと儀式 ・ 古墳の構造 ・ 原寸大馬具 ・ 出土品(副葬品) など  一支国博物館 ・ 講座室 ・ 多目的ホール
	② 本時の課題を知る。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         杵岐の古墳の内部は、どのようになっていたのだろうか。                     </div>	
	③ 一支国博物館内の概要と古墳時代のスペースの場所を知る。	
	④ 館内を順路にそって見学する。	
	⑤ 古墳時代のスペースの展示物などを見学する。	
	⑥ 本時のまとめをする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         古墳の内部には、前室・中室・玄室があり、さまざまな副葬品も納められていた。                     </div>	
⑦ 博物館(古墳時代のスペース)を見学しての気づきや疑問を出し合う。		
⑧ 次時の予告を聞く。		

## 1 単元名「一支国から古代日本を知る」

### 2 本時の学習指導

#### (1) 目標

一支国では交易がさかんに行われ、人々の往来が多く、朝鮮半島などからのまとまった移住もあったと考えられることを知る。

#### (2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料・教材
導 入	① 魏志倭人伝の「一大国」の記述を読み、「南北に市糴す」に注目する。	『魏志倭人伝』の世界 ・ 魏志倭人伝「一支国」の記述
	② 本時の課題を考える。	
／ 展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     一支国の交易と、それに伴う人々の往来はどの程度であったか。                 </div> ③ 一支国トピックや展示資料等を通して、原の辻遺跡に関する次の事項について知る。 ・ 朝鮮半島系の土器が多く出土したこと ・ 中国製の貨幣が出土したこと ・ ヤシの実でつくられた笛が出土したこと ・ 出土する動物の骨のうち最も多いのは犬で、食用であったと考えられること ・ 原の辻遺跡の船着場には朝鮮半島系の技術が用いられていること ・ 準構造船であれば朝鮮半島から対馬・壱岐・九州への航海はそう難しくないこと	一支国トピック ・ 朝鮮系土器(無文土器など) ・ 中国製貨幣(大泉五十など) ・ ココヤシ笛 ・ 犬の骨 ・ 船着き場の石積突堤模型
	④ わかったことをもとに課題についての答えをまとめる。	海の王都・原の辻 ・ 準構造船
／ ま と め	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     一支国では交易がさかんに行われ、人々の往来が多く、朝鮮半島などからのまとまった移住もあったと考えられる。                 </div> ⑤ 本時の学習を振り返る。	

## 1 単元名「郷土の歴史を探る」

## 2 指導計画

事前 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① クラス単位で4～5人のグループをつくる。</li> <li>② 指定文化財や史跡の意味を学習し，壱岐島内の指定文化財や史跡を調べる。</li> <li>③ 壱岐島の年表を確認し，②で調べた文化財や史跡がどの時代・どの時期に該当するかを探る。</li> <li>④ 博物館のパンフレットを活用し，博物館で学習するテーマを絞り込む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・原の辻遺跡について</li> <li>・壱岐の古墳時代について</li> <li>・壱岐の古代について</li> <li>・その他</li> </ul> </li> </ul>
本時 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 一支国博物館を見学し，テーマに沿って学習した内容をワークシートに記入する。</li> </ul>
事後 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個別に作成したワークシートのまとめを行ない，テーマ別にまとめた冊子を作成する。</li> <li>② 全体で発表を行なう。</li> </ul>

## 3 本時の学習指導

### (1) 目標

自ら設定した課題に沿って主体的に博物館の施設を見学・活用し，郷土の歴史について理解を深める。

### (2) 展開

過程	学 習 活 動	使用する施設・展示資料等
導 入 / 展 開 / ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校で計画した内容を確認する。</li> <li>② 地形図と目視により壱岐島の地理的な特徴をおさえる。</li> <li>③ グループ別の活動場所・所要時間を確認する。</li> </ul>	ビューシアター ・地形図
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① グループ別に活動を行なう。展示資料や解説文・博物館職員への質問等により，ワークシートに必要事項を記入する。</li> </ul>	古代ゾーン 古墳ゾーン 海の王都・原の辻 テーマ展示室
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① グループ別にワークシートのまとめを行ない，発表用のレジュメを作成する。</li> <li>② 博物館で得た情報をもとに，直接訪れてみたい史跡をピックアップする。</li> </ul>	講座室 多目的ホール 図書閲覧室

### (3) ワークシート集

#### 『魏志倭人伝』から、一支国の様子を読み解こう

「魏志倭人伝」の中に記載された一支国に関する情報は、下図の57文字で表されています。この57文字から、当時の一支国の様子を読み解いてみましょう。

調べる手がかり 展示ゾーン「魏志倭人伝」の世界のタッチパネルに触れてみましょう。

「魏志倭人伝」の中の57文字

又南渡一海千余里 名曰瀚海 至一大国  
官亦曰卑狗 副曰卑奴母離 方可三百里  
多竹木叢林 有三千許家 差有田地  
耕田猶不足食 亦南北市糶

【一支国のあった場所】

【一支国にいた役人】

【一支国の広さや家の数、土地の様子  
人々の暮らし】

【調べてみてわかったことを自分の言葉でまとめよう】

## 一支国の歴史，その時日本は，その時東アジアは？

一支国で人々が生活していた頃，日本ではどのような出来事がおこっていたのでしょうか。その時，東アジアでは，どのようなことがおこっていたのでしょうか。

地球上の違う場所で，同じような時期に，どのようなことがおこっていたのか調べてみると，ひと味違った歴史の姿に気づきます。あなたも調べてみましょう。

調べる手がかり 通史ゾーン スロープの年表を見比べてみましょう。

- 1 一支国で人々が生活していた頃の，日本や世界の出来事を調べて書いてみましょう。

【日本の出来事】	【一支国で，人々が生活していた頃】	【東アジアの出来事】
	年頃	

- 2 次はあなたが知っている壱岐や日本や世界の出来事をまず一つ書いてみましょう。そして，その頃，他の場所ではどのようなことがおこっていたのか調べて書いてみましょう。

【日本の出来事】	【壱岐の出来事】	【東アジアの出来事】
年頃	年頃	年頃

【日本の出来事】	【壱岐の出来事】	【東アジアの出来事】
年頃	年頃	年頃

【日本の出来事】	【壱岐の出来事】	【東アジアの出来事】
年頃	年頃	年頃

- 3 調べてみて思ったことなどを友達と話し合ってみましょう。

## 瓦が伝える壱岐と日本のつながり

建物を雨から守る瓦。瓦一つからも、様々なことが学べます。

壱岐の史跡から出土した瓦と平城京で使われていた瓦には、どんな共通点があるのでしょうか。そこからどんなことがわかるのでしょうか。

瓦を調べて、その当時のことを推理してみましょう。

調べる手がかり 古代ゾーンに展示された瓦を調べてみましょう。

【壱岐の国分寺（嶋分寺）跡から  
出土した瓦】

【平城京で使われていた瓦】



【調べてみてわかったことを自分の言葉でまとめよう】

## 壱岐の古墳は物語る

壱岐には279基の古墳があります。長崎県内では約500基の古墳が確認されていることから、実に長崎県内の古墳の約半分以上が壱岐に集中しているのです。

では、古墳とは、一体どのようなものなのでしょうか、

壱岐の古墳の特徴とは、どんなことでしょうか、そして、古墳からわかるのは、どのようなことでしょうか、古墳から、その当時の歴史を見てみましょう。

調べる手がかり 古代ゾーンに展示された古墳を見てみましょう。

【古墳とは何なのか】

【誰が作ったのか】

【何のために作ったのか】

【副葬品にはどんな物があるのか、副葬品の種類がなぜ違うのか】

【調べてみてわかったことを自分の言葉でまとめよう】

## 海の王都・原の辻 船に乗って

壱岐は周囲を海に囲まれています。中国・朝鮮半島と日本本土との交流を行うためには、海を渡らなければなりません。

その時、使われていたと予想されるのが「船」です。

古代の船とはどのようなつくりだったのでしょうか。そして、その船による航海とは、どのような航海だったのでしょうか。また、その船で運ばれた物にはどのような物があったのでしょうか。船から、その当時の生活やくらしの様子を見てみましょう。

**調べる手がかり** 海の王都・原の辻に展示された古代船を調べてみよう。

【船のつくり，大きさや乗ることができる人数など】

【原の辻へ運ばれてきた物】

【原の辻から運ばれた物】

【バーチャル航海を体験して感じたこと】

【調べてみてわかったことを自分の言葉でまとめよう】

## 一支国の人々の暮らしを探る

一支国の人々は、どのような生活をしていたのでしょうか。一支国には、様々な建物があり、そこでは、様々なことが行われていました。

一支国の人々の生活について調べてみましょう。

調べる手がかり 一支国トピック，一支国模型を見よう。

### 1 あなたが見つけた生活の場面

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【行われていたこと】

【調べてみてわかったことを自分の言葉でまとめよう】

# 展示物「

# 」について調べよう

一支国博物館には、たくさんの品物が展示されています。

一つ一つをよく見ていくと、いろいろなことに気づきます。

一人一人が調べた物を、まとめて一つの資料にすると、世界に一つしかない、みなさんのクラスの資料集ができあがります。みんなで力を合わせて調べてみましょう。

展示物の名前 【

】

【展示物の図】

【いつ頃作られたのか】

【材質は何か】

【色や形にはどのような特徴があるのか、どのような工夫があるのか】

【何のために作られたか、どのようなことに使われたのか】





# 「 」について調べよう

原の辻遺跡には、その当時の建物と共に、遺跡を囲む環濠なども復元されています。

環濠の様子はどうでしょうか。その他にも特徴のある物があります。それらを調べてみることで、その当時の生活の様子もわかってきます。

復元建物以外の物にも目を向けて調べてみましょう。

調べた物の名前 【 】

【調べた物の図】

【名前は何か】

【どこにあるか】

【大きさや形、材質にはどのような特徴があるのか】

【何のために作られ、どのようなこと工夫があるか】

## 5 学習支援事業について

(1) 文化財出前講座 …………… 61

(2) 原の辻遺跡関係

① 教材用レプリカ一覧表 …………… 62

② 教材用パネル一覧表 …………… 65

③ 教材用ビデオ一覧表 …………… 69

## (1) 文化財出前講座

壱岐が誇るたくさんの文化財。その文化財のことや、文化財を通して歴史を学ぶことができます。

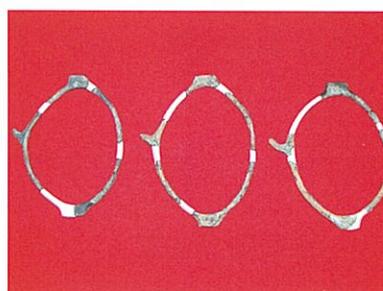
以下に示すのは、一例です。その他、こんなことを学びたいということがあれば、お尋ねください。

	題 名	紹 介 す る 主 な 内 容
1	壱岐の文化財	壱岐にある指定文化財
2	『魏志倭人伝』からみた一支国の世界	57文字の中に見える、弥生時代の壱岐の姿
3	「 <sup>よみ</sup> 黄泉の国」古墳を通してみた壱岐	壱岐にあるたくさんの古墳。古墳造営の意味
4	壱岐の自然	壱岐の豊かな自然、天然記念物など
5	国指定特別史跡 原の辻遺跡	長年にわたる発掘調査の成果
6	豊かな感性を持った壱岐の弥生人	たくさんの出土遺物から見えてくる弥生時代の壱岐の人々の感性
7	壱岐の古代史	国分寺や串山ミルメ浦遺跡等からみえる古代の壱岐の姿
8	元寇と壱岐	壱岐における元寇の様子、その背景等
9	<sup>まつら</sup> 松浦党による壱岐の支配	<sup>かめのお</sup> 亀丘城築城から <sup>うろみ</sup> 浦海海戦までの歴史
10	平戸藩による壱岐の治世	<sup>まつら</sup> 松浦氏による壱岐の支配の様子
11	壱岐の歴史上の人々	壱岐の歴史上の人物やその生き方
12	『壱岐名勝図誌』からみた壱岐の世界	現在の壱岐と比較した地勢の違い
13	壱岐の捕鯨	壱岐における捕鯨の歴史、その方法や道具等
14	松永安左エ門	松永安左エ門の功績と生き方
15	壱岐の神社と寺院	壱岐にある特徴ある鳥居や仏像等
16	壱岐の遺跡	壱岐にある遺跡の紹介
17	民俗資料(民具の使い方)	昔使われていた農耕具や生活道具等
18	弥生土器を作ろう	弥生人の土器づくりを体験
19	火起こしをしよう	弥生人が行っていた火起こしを体験
20	身近な場所にある文化財	学校や家の周囲にある石像や遺跡等

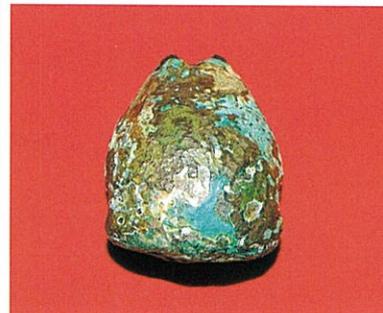
## (2) ①原の辻遺跡関係教材用レプリカー一覧表

1	遺物名	せいどうぎょう「ちょうぎしそんめいないこうかもんきょう」 青銅鏡「長宣子孫銘内行花文鏡」
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	平成8年度	
備考		

2	遺物名	せいどうぎょう「えんけんきくしんきょう」 青銅鏡「円圏規矩四神鏡」
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	昭和57年度	
備考	2点あり	

3	遺物名	ゆうこうどうくしろ 有鉤銅釧 3点
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	昭和51年度	
備考		

4	遺物名	どうこう (ほたながたどうせいひん) 銅釦(釦型銅製品)
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	平成13年度	
備考		

5	遺物名	けん 権(秤のおもり)
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	平成12年度	
備考		

6	遺物名	せんごくしきどうけん 戦国式銅劍
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	昭和49年度	
備考		

7	遺物名	さんよくぞく 三翼鏃
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成10年度	
備考		

8	遺物名	どうぞく 銅鏃 3点
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成10年度	
備考		

9	遺物名	たいせんごじゅう 大泉五十
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成12年度	
備考		

10	遺物名	ごしゆせん 五銖銭
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成10年度	
備考		

11	遺物名	かせん 貨泉
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成11年度	
備考		

12	遺物名	かせん 貨泉
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成5年度	
備考		

13	遺物名	ちゆうぞうてつづ(ふくろじょうてつづ) 鑄造鉄斧(袋状鉄斧)
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	平成5年度	
備考		

14	遺物名	ちゆうぞうてつづ(いたじょうてつづ) 鑄造鉄斧(板状鉄斧)
		
時代	弥生時代後期	
出土年度	平成11年度	
備考		

15	遺物名	てつせいすきさき 鉄製鋤先
		
時代	弥生時代中～後期	
出土年度	平成8年度	
備考		

16	遺物名	てつがま 鉄鎌
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	平成11年度	
備考		

17	遺物名	やりがんな
		
時代	弥生時代中～後期	
出土年度	平成8年度	
備考		

18	遺物名	トンボ玉 3点
		
時代	弥生時代中期	
出土年度	昭和49年度	
備考		

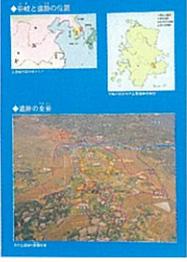
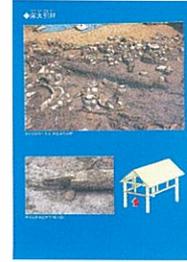
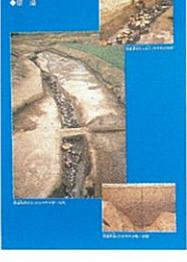
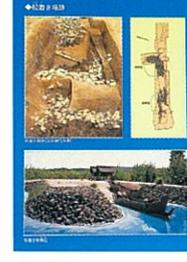
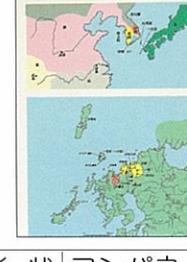
19	遺物名	ココヤシ笛
		
時 代	弥生時代後期	
出土年度	平成14年度	
備 考	2点あり	

20	遺物名	ココヤシ笛
		
時 代	弥生時代中期	
出土年度	平成6～8年度	
備 考	2点あり	

21	遺物名	もくせいいたかつぎやくぶ 木製高坏脚部(漆塗り)
		
時 代	弥生時代中期	
出土年度	平成6～8年度	
備 考		

22	遺物名	じんめんせき 人面石
		
時 代	弥生時代後期～古墳前期	
出土年度	平成13年度	
備 考	2点あり	

## (2) ②原の辻遺跡関係教材用パネル一覧表

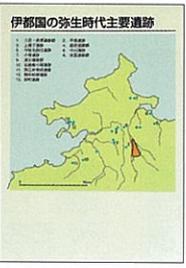
1	タイトル 吉岐と遺跡の位置 遺跡の全景	 <p>内容</p> <p>三世紀中頃の東アジア、吉岐の弥生時代主要遺跡分布図、原の辻遺跡の概要、写真</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>	2	 <p>内容</p> <p>原の辻遺跡から内海灣を望む、魏志倭人伝の解釈文を含む。</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>	3	<p>ゆかおびきざい(たかゆかそうこ) 床大引材(高床倉庫)</p>  <p>内容</p> <p>床大引材出土状況(弥生時代中期)(拡大図)、高床倉庫模式図</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>
4	タイトル かんごう 環濠	 <p>内容</p> <p>環濠遺物出土状況(弥生時代後期)、環濠発掘状況(弥生時代中期～後期)、環濠断面(弥生時代中期～後期)</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>	5	 <p>内容</p> <p>木製短甲、木製楯、木鍬・骨鍬、根ばさみ、石鍬、鉄鍬、石戈、弥生戦士の像</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>	6	<p>船着き場跡</p>  <p>内容</p> <p>船着き場跡(弥生時代中期)、船着き場図面・模型</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>
7	タイトル 朝鮮半島から伝わった物 中国大陸から伝わった物	 <p>内容</p> <p>朝鮮系無文土器(把手付壺)、朝鮮系無文土器(松菊里型)、三韓系土器、三翼鍬(実測図・復元図)、弩模式図</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×59cm</p>	8	 <p>内容</p> <p>住居の変遷、竪穴式住居(弥生時代中期)</p> <p>形状 コンパネ サイズ 90cm×61cm</p>	9	<p>船着き場跡</p>  <p>内容</p> <p>船着き場跡(弥生時代中期)検出状況(敷葉・敷粗桑工法などによる突提検出状況)</p> <p>形状 コンパネ サイズ 85cm×60cm</p>
10	タイトル 稲作	 <p>内容</p> <p>石包丁の使用法、鋤の未製品出土状況、稲の来た道</p> <p>形状 コンパネ サイズ 102cm×90cm</p>	11	<p>食生活</p>  <p>内容</p> <p>原の辻遺跡出土種実(マメ類・コムギ・ウリ類・ブドウ属・ヒョウタン類・カラスウリ、ヤマモモ、シイ類など)</p> <p>形状 コンパネ サイズ 90cm×75cm</p>	12	<p>『魏志倭人伝』のクニグニ</p>  <p>内容</p> <p>『魏志倭人伝』の中の中国・朝鮮半島・九州北部のクニグニの位置図</p> <p>形状 コンパネ サイズ 60cm×42cm</p>

13	タイトル	『魏志倭人伝』のルート図
		
内容	朝鮮半島からの対馬国・一支国・邪馬台国への推定ルート図	
形状	コンパネ	
サイズ	42cm×30cm	

14	タイトル	吉岐の弥生時代主要遺跡
		
内容	吉岐島内の弥生時代の主要遺跡の位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

15	タイトル	対馬の弥生時代主要遺跡
		
内容	対馬島内の弥生時代の主要遺跡の位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

16	タイトル	まつろこく 末廬国の弥生時代主要遺跡
		
内容	唐津周辺の弥生時代の主要遺跡の位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

17	タイトル	いとこく 伊都国の弥生時代主要遺跡
		
内容	糸島半島周辺の弥生時代の主要遺跡の位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

18	タイトル	奴国の弥生時代主要遺跡
		
内容	福岡市周辺の弥生時代の主要遺跡の位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

19	タイトル	大陸からの渡来遺物
		
内容	青銅製品・鉄製品・貨泉・大陸系土器などの出土位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

20	タイトル	海を渡った船
		
内容	弥生の準構造船（久宝寺遺跡）	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

21	タイトル	原の辻遺跡概要図
		
内容	主要遺構及び主要遺物出土位置図	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

22	タイトル	弥生時代の墓地
		
内容	かめかんは せつ 甕棺墓と石 かんは 棺墓	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

23	タイトル	かんごう 環濠発掘状況
		
内容	東側低地部 かんごう 環濠遺構検出状況	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

24	タイトル	祭儀場跡全景
		
内容	平成6年度・7年度の祭儀場跡の検出状況	
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

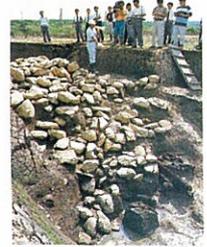
25	タイトル	市場跡の推定
		
		内容
		渡来遺物からの時期別の市場跡の推定地位置図
形状	コンパネ	
サイズ	60cm×42cm	

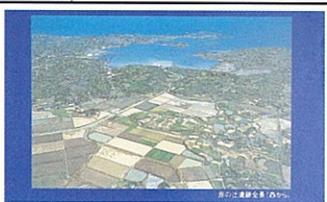
26	タイトル	原の辻遺跡出土の 舶載鏡
		
<small>「真鍮字鏡」銘内行花文鏡</small> <small>ちょうぎしそん めいないこうかもんきょう</small> 「長宣子孫」銘内行花文鏡 (弥生時代中期から後期)		
内容		
形状	コンパネ	
サイズ	30cm×21cm	

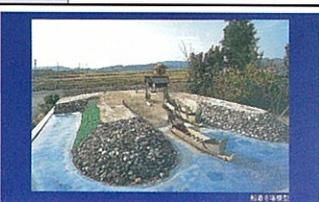
27	タイトル	原の辻遺跡出土の 鑄造鉄斧
		
<small>鑄造鉄斧</small> 鑄造鉄斧		
内容	板状鉄斧 (弥生時代後期)	
形状	コンパネ	
サイズ	30cm×21cm	

28	タイトル	あぜ 水田の畦跡
		
<small>畦水田の畦跡跡</small> 畦水田の畦跡跡		
内容	あぜ 畦遺構の調査風景	
形状	コンパネ	
サイズ	42cm×30cm	

29	タイトル	環濠遺物出土状況
		
<small>環濠遺物出土状況</small> 環濠遺物出土状況		
内容	かんごう 東側低地部環濠遺構内の調査風景	
形状	コンパネ	
サイズ	42cm×30cm	

30	タイトル	船着き場跡の発見
		
<small>船着き場跡</small> 船着き場跡		
		内容
		船着き場跡の検出及び記者発表風景
形状	コンパネ	
サイズ	42cm×30cm	

31	タイトル	原の辻遺跡全景
		
<small>原の辻遺跡全景 (西から)</small> 原の辻遺跡全景 (西から)		
内容	原の辻遺跡から内海を望む	
形状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

32	タイトル	船着き場跡模型
		
<small>船着き場跡模型</small> 船着き場跡模型		
内容	船着き場模型と遺跡の遠景	
形状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

33	タイトル	中国製の貨幣
		
<small>中国製の貨幣 (五銖銭・貨泉・大泉五十)</small> 中国製の貨幣 (五銖銭・貨泉・大泉五十)		
内容	ごしゅせん・かせん・たいせんごじゅう 五銖銭・貨泉・大泉五十 (弥生時代中期から後期)	
形状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

34	タイトル	大陸から運ばれてきた土器
		
<small>大陸から運ばれてきた土器 (70cm×45cm)</small> 大陸から運ばれてきた土器 (70cm×45cm)		
内容	がしつ 三韓系瓦質土器 (弥生時代後期)	
形状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

35	タイトル	矢じりの変遷
		
<small>石鏃・鉄鏃・銅鏃</small> 石鏃・鉄鏃・銅鏃		
内容	石鏃・鉄鏃・銅鏃	
形状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

36	タイトル	祭祀用の土器
		
<small>丹塗り長頸壺</small> 丹塗り長頸壺		
内容	にぬりちようけいつぼ 丹塗り長頸壺	
形状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

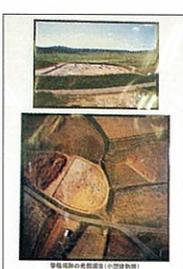
37	タイトル	原の辻遺跡復元 想定図
		
内 容	環濠集落・祭儀場跡・竪穴式住居など	
形 状	パネル張り	
サイズ	70cm×45cm	

38	タイトル	原の辻遺跡出土の 青銅器・玉類
内 容	舶載鏡(円圏規矩四神鏡・獣帯鏡), 戦国式銅剣, トンボ玉	
形 状	パネル張り	
サイズ	60cm×42cm	

39	タイトル	原の辻遺跡出土の 銅鏃
		
内 容	有茎銅鏃と銅素材	
形 状	パネル張り	
サイズ	60cm×42cm	

40	タイトル	調査風景
		
		内 容 祭儀場周辺部の実測風景
形 状	パネル張り	
サイズ	60cm×42cm	

41	タイトル	調査風景
		
		内 容 石田高原地区の環濠遺構調査風景
形 状	パネル張り	
サイズ	60cm×43cm	

42	タイトル	祭儀場跡の発掘調査
		
		内 容 祭儀場跡北端部の小型建物群の検出状況
形 状	掲示用パネル	
サイズ	74cm×52cm	

43	タイトル	環濠内の石敷遺構 と貝塚
		
内 容	石田高原地区の環濠内の石敷遺構・貝塚の検出状況	
形 状	掲示用パネル	
サイズ	74cm×52cm	

44	タイトル	原の辻遺跡主要遺構・主要遺物
		
		内 容 環濠発掘状況, 環濠遺物出土状況, 青銅鏡・戦国式銅剣・貨泉, 鉄製品, トンボ玉, 楽浪系瓦質土器
形 状	掲示用パネル	
サイズ	60cm×43cm	

## (2) ③原の辻遺跡関係教材用ビデオ一覧表

	タイトル	項目	時間	備考
1	壱岐・原の辻遺跡	平成7年度の発掘調査記録	90分	2本あり
2	壱岐・原の辻遺跡	平成8年度の発掘調査記録	90分	2本あり
3	壱岐・原の辻遺跡	平成9年度の発掘調査記録	90分	2本あり
4	壱岐・原の辻遺跡	平成12年度の発掘調査記録	90分	2本あり
5	壱岐・原の辻遺跡	平成13年度の発掘調査記録	90分	2本あり
6	壱岐・原の辻遺跡	平成14年度の発掘調査記録	90分	2本あり
7	壱岐・原の辻遺跡	平成15年度の発掘調査記録	90分	2本あり
8	壱岐・原の辻遺跡	平成16年度の発掘調査記録	90分	2本あり
9	一海を渡る, 一支国に至る	長崎県壱岐・原の辻遺跡発掘	50分	2本あり ナレーションあり
10	シンポジウム「魏志倭人伝と一支国」	蘇る一支国の王都 原の辻遺跡 1997年2月	50分	ナレーションあり
11	よみがえる一支国	壱岐・原の辻遺跡	約15分	4本あり (うち2本はステレオ録画)
12	今, 時空を超えて蘇る弥生の王都	〔国指定特別史跡〕 壱岐・原の辻遺跡	約19分	3本あり (すべて手話入り)
13	今, 時空を超えて蘇る弥生の王都	壱岐・原の辻遺跡	約18分	3本あり

## 6 耆岐の関連施設・史跡・文化財， 耆岐の歴史について

### (1) 関連施設・史跡・文化財等紹介

- ①施設編 ..... 71
- ②古墳編 ..... 72
- ③元寇編 ..... 73
- ④外国との様々な交流編 ..... 74

### (2) 耆岐の歴史を知ろう！

- ～時代別の耆岐の歴史～ ..... 75

### (3) 耆岐の歴史年表 ..... 81

## (1) 関連施設・史跡・文化財等紹介

杵岐は、まさに「しまごと博物館」。古墳や元寇に関連するものをはじめ、市内各地で、様々な歴史等を学べます。ここでは、その中の一部を紹介します。ここに紹介したもの以外にも、たくさんの史跡・文化財等がありますので、一支国博物館のデータベースから検索して、見学・学習コースを設定してみてください。

### ① 施設編



#### 1. 施設編

- ① 杵岐風土記の丘
- ② 電力の鬼 松永安左エ門記念館・ふるさと資料館
- ③ 杵岐郷土美術館

#### ③ 【杵岐郷土美術館】

杵岐文化ホールに併設された施設。杵岐出身の彫刻家・小金丸幾久氏の寄贈作品の数々を見ることができる。屋外にある「ステゴドン象」は勝本の湯本浦六郎瀬鼻の海岸から発掘された500万年前の象牙の化石から復元されたもの。

- 住所 郷ノ浦町本村触445
- 電話 0920-47-4141

#### ① 【杵岐風土記の丘】

くりぬき式家形石棺をもつ掛木古墳、丘陵に古墳が群集する百合畑（ゆりはた）古墳群、金銅製の馬具が出土した笹塚古墳、そして二重の空堀をもつ中世の山城・生池（なまいけ）城跡を巡る歴史散策公園になっている。敷地内には江戸時代中期の様式の家を移築復元している。

- 住所 勝本町布気触324
- 電話 0920-43-0809

#### ② 【電力の鬼 松永安左エ門記念館・ふるさと資料館】

明治、大正、昭和にかけて、日本の電力の普及と振興に努め、日本の産業経済発展の基礎を築いた松永安左エ門の功績を伝えるために、生家跡に建設。生前愛用した所持品や文書などが展示されており、「電力の鬼」と称された氏の偉業を知ることができる。昭和を代表する茶人・古美術品蒐集家としても著名な氏の生き方は圧巻である。また、ふるさと資料館では、かつて杵岐で盛んに行われた捕鯨業をはじめとして、杵岐の漁業の歴史を学ぶことができる。

- 住所 石田町印通寺浦360
- 電話 0920-44-6688

## ② 古墳編

杵岐では古墳のことを「鬼の窟(おにのいわや)」や「鬼屋(おにや)」と呼んでいる。これは鬼でないといこんな重い石は運べないといった解釈からきている。

### ① 【掛木古墳】

6世紀末～7世紀前半の築造。円墳で、墳丘の直径は約30m。県下で唯一の「くり抜き式家形石棺」を持つ古墳として有名。大きな石をくり抜いて造っており、屋根の形をした蓋も同様の作り方である。国指定史跡。

### ② 【双六古墳】

6世紀中頃の築造。県下最大の前方後円墳で、全長91m、前方部の高さ5m、後円部の高さ10.6m。墳丘をほぼ完全な形で見渡すことができる。入口が南西に開口する横穴式石室で、前室右側壁には船の線刻画がある。国指定史跡。



## 2. 古墳編

- ① 掛木古墳
- ② 双六古墳
- ③ 笹塚古墳
- ④ 鬼の窟古墳
- ⑤ 大塚山古墳
- ⑥ 鬼屋窪古墳

### ③ 【笹塚古墳】

6世紀末～7世紀前半の築造。直径66m、高さ約13mの墳丘は県内最大級。円いお盆を伏せた上に井を伏せた様な形をしているが、ヒノキ林に覆われその全景は見えない。石室全長約15m。一番奥の玄室に巨大な石を使用した組合せ式石棺がある。世界でただ一つの亀の形をした飾り金具や馬具の杏葉(ぎょうよう)、辻金具、帯先金具など考古学上非常に貴重な資料が出土した。中央権力とつながり、対外交渉にかかわる身分の高い人物の墓と思われる。国指定史跡。

### ⑥ 【鬼屋窪古墳】

7世紀末、古墳時代後期の円墳。長崎県内で初めて発見された装飾古墳である。墳丘の封土は取り除かれて石室だけが露出している、長さ4.11mで複室構造の横穴式石室。入口にもっとも近い側壁に、シンプルな線彫りによる舟、人物、大型海棲動物が描かれており、捕鯨の様子を描いたものだといわれている。

### ⑤ 【大塚山古墳】

5世紀後半ごろの築造。直径14m、高さ2mの円墳。推定面積は400㎡。杵岐には279基の古墳が残っているが、その中でも最古の古墳として重要である。埋葬施設が縦穴式から横穴式へ移行する過程を示す特徴を持つ。安国寺裏の大塚山の頂上部を利用している。

### ④ 【鬼の窟古墳】

6世紀後半～7世紀前半頃の築造。直径45m、高さは13m。内部は大きな玄武岩を幾つも積み上げた横穴式。石室は杵岐最大(全国12位)で全長16m、最大の天井石は4mもある。当時の豪族・杵岐直(あたい)の墳墓といわれている。国指定史跡。

### ③ 元寇編

#### ① 【浦海海岸の千人塚】

うろみ  
 杵岐北西部にある浦海海岸は、元軍が対馬襲撃のあと最初に上陸した場所。海上には黒ヶ島や猿岩を望むことができる風光明媚な入江である。岬の先端にある浦海神社の社叢を掻き分けながら進むと、たくさんの石を積み上げた千人塚がある。文永の役の戦死者を葬った場所である。今でも地元の人々は「千人塚さま」と呼んで手厚く祀っている。

#### ② 【文永の役高麗橋古戦場跡】

こうれい  
 1274年(文永11)蒙古軍と高麗軍の連合軍である元軍は、10月14日、北西海岸の浦海海岸や勝本港付近から上陸した。勝本港から樋詰城のあった新城神社辺りまでの丘陵はかつての激戦地である。かつて高麗軍が架けたとされる石橋があったといわれるが、所在は不明である。

#### ③ 【文永の役新城古戦場跡】

しんじょう  
 唐人原古戦場から約1km南東、谷江川近くに石碑がある。この一帯は最後の激戦地であったとみられ、その一画に千人塚がある。千人塚は多くの死体を埋めたことからそう呼ばれる。近くには平景隆の居城樋詰城があった。千人塚の中央に元寇殉国忠魂塔が建ち、左脇には観音像、右脇に本来の千人塚の標石である自然石が2基ある。



### 3. 激闘編

- |              |               |
|--------------|---------------|
| ① 浦海海岸の千人塚   | ② 文永の役高麗橋古戦場跡 |
| ③ 文永の役新城古戦場跡 | ④ 平景隆の墓       |
| ⑤ 少貳資時の墓     | ⑥ 元寇の碇石       |
| ⑦ 船匿城跡       | ⑧ 少貳の千人塚      |

#### ⑧ 【少貳の千人塚】

しょうに  
 石を累々と積み重ねた大きな塚である。弘安の役で殺された人々を埋葬し、墓石の代わりに弔の石を積んだのだろうか。千人塚の分布はそのまま元軍の侵攻範囲でもある。

#### ⑦ 【船匿城跡】

ふなかくし  
 美濃谷観音堂の参道途中から右に入った人家の裏山が、少貳資時の居館であった船匿城の跡である。眼下に瀬戸浦の深い入江を一望できる。傍らに建つお堂には資時をかたどったと伝わる將軍地蔵が祀ってある。山中には城内の抜け穴と伝わる所もある。周辺は弘安の役の激戦地である。

#### ④ 【平景隆の墓】

たいらのかげたか  
 新城神社は、杵岐の守護代・平景隆の居城である樋詰(ひのつめ)城があったところ。1274年(文永11)10月14日、杵岐の北西海岸から上陸した元軍と果敢に戦うが、大軍勢と兵器の性能の差に次第に追い詰められた景隆はいったん樋詰城に退却したが、翌15日に自刃したとされている。新城神社拝殿横に景隆の墓所がある。

#### ⑤ 【少貳資時の墓】

しょうにすけとき  
 1281年(弘安4)、4万もの蒙古東路軍が対馬を襲い、次いで杵岐に攻め込んで来た。二度目の襲来、弘安の役である。北西部海岸(瀬戸浦)と勝本から上陸した元軍を迎え撃ったのが、当時の杵岐守護代、弱冠19歳の少貳資時であった。船匿城に居た資時は、わずかな軍勢で激戦を繰り広げたが、船匿城で全滅したと伝えられる。少貳公園の松林の中に資時の墓がある。

#### ⑥ 【元寇の碇石】

いかり  
 左京鼻沖で発見された。中国産の石を使っているが、日本軍の船の碇石ではないかともいわれている。いまは少貳公園にある。花崗岩製。

#### ④ 外国との様々な交流編

##### ①【勝本城跡】

(安土桃山時代)

1591年(天正19)豊臣秀吉が文禄の役にそなえて平戸藩主松浦鎮信に命じて築城させたもの。海拔78.9mの山頂部に虎口の枅形と、その左右の石垣が残っている。国指定の史跡で、周辺は城山公園として整備されており、城跡からは勝本の港が一望できる。

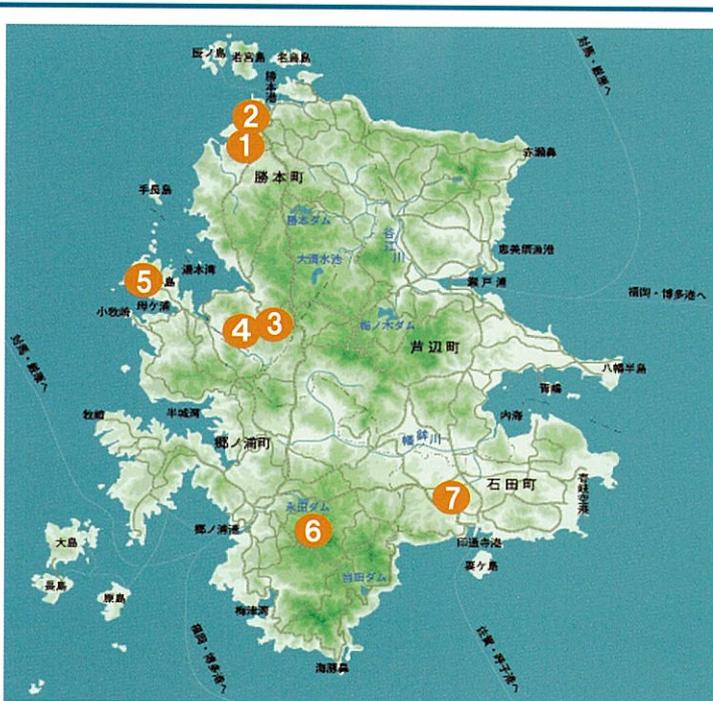
##### ②【朝鮮通信使迎接受所跡】

(江戸時代)

勝本浦にある。聖母宮(しょうもぐう)の大鳥居の近くにある阿弥陀堂が、朝鮮通信使の宿泊所の一画である。平戸藩は朝鮮通信使の接待を勝本浦でおこなった。海上が時化て長逗留になったときは、爾自(にじ)神社で順風祈願をおこなった。藩にとって財政的にも大きな負担となった。

##### ③【カラカミ遺跡】(弥生時代)

平地にある原の辻遺跡と比べ高地性の環濠集落遺跡。いまから約2200~1700年前の弥生時代の遺跡。島の北西にあり、対馬や朝鮮半島との往来に便利な地にある。加良加美神社の裏手、南側に開けた斜面が当時の集落の跡と思われる。豊富な青銅器や鉄器類、中国大陸や朝鮮半島系の土器、また漁撈に関する遺物が多く出土し、漁業や交易に従事した人々の集落であったと考えられる。シカ、イノシシの肩甲骨を利用した占いの道具の「卜骨(ぼっこつ)」が発見された。



#### 4. 外国との様々な交流編

- |          |              |
|----------|--------------|
| ① 勝本城跡   | ② 朝鮮通信使迎接受所跡 |
| ③ カラカミ遺跡 | ④ 藤原理忠の墓     |
| ⑤ 黒崎砲台跡  | ⑥ 岳ノ辻        |
| ⑦ 雪連宅満の墓 |              |

##### ④【藤原理忠の墓】(平安時代)

軍場(いくさば)という地名が残るこの辺りは、元寇よりも160年も前の1019年(寛仁3)、吉岐に襲来した刀伊(とい)の賊との激戦があったと伝えられる場所。沿海州の女真(じょしん)族といわれている刀伊賊は、片苗(かたなえ)湾一帯から上陸し、迎え撃った吉岐守藤原理忠ら148人を殺し、239人を捕虜として連れ去ったという。丘の上の叢林に理忠の墓と伝えられる積石塚がある。地元では「理忠(りちゅう)さんの墓」と親しみを込めて呼ぶ。

##### ⑤【黒崎砲台跡】(昭和時代)

昭和3年8月から6年かけて完成。口径41cmのカノン砲二門の砲台で砲身の長さ18.83m、砲弾の重さ1t、最大射程距離約35km、同じ規模の砲台が韓国釜山と対馬にあった。ここは一発も実弾を発射することがなかった。巨大な地下要塞であるが、猿岩展望所の売店裏の山道を少し登ると、砲台の巨大な穴を地上からも見ることができる。

##### ⑦【雪連宅満の墓】(奈良時代)

雪連宅満は、736(天平8)年奈良の都を出発した遣新羅使の随員の一人である。旅の途中で病死し、印通寺港の見える小高い丘に埋葬されている。吉岐出身の卜部(占い師)の子孫。万葉集巻15に、その死を悼む挽歌9首が記されている。

##### ⑥【岳ノ辻】(飛鳥時代)

標高212.8m。吉岐島で最も高い山。山頂付近には、白村江の戦いで敗れた翌年の664年に、新羅の来襲に備えて設置された烽火(狼煙)があったといわれており、対馬と吉岐と九州本土を結ぶ緊急連絡に利用された。幕末には、遠見番所も置かれている。

## (2) 杵岐の歴史を知ろう ～時代別の杵岐の歴史～

### ○杵岐の旧石器時代（～約10000年前）

杵岐で発見された化石の中には、**ステゴドン象**の骨も含まれています。ステゴドン象は現在の象やマンモスの祖先にあたる象で、東アジアからアフリカ大陸に生息していました。その象の化石が杵岐島内から発見されたことから、当時の杵岐は島ではなく朝鮮半島と日本列島が陸でつながっていたものと考えられています。勝本の湯本浦六郎瀬の海岸から発見されたステゴドン象の化石は、杵岐を自由に行ったり、来たりできる環境にあって、何らかの理由で杵岐で生き絶えた痕跡を残しています。

杵岐に人類が上陸したのは、旧石器時代でも終りのほうになってからで、海に浮かぶ島になってからのことです。島内では**芦辺町と石田町に広がる原の辻遺跡（はるのつじいせき）**や**勝本町のカラカミ遺跡**や**松崎遺跡（まつざきいせき）**、**郷ノ浦町の名切遺跡（なきりいせき）**から当時の人が作った石器とよばれる生活の道具がみついています。見ついている石器は**台形石器**や**ナイフ形石器**、**打製石器等の狩猟（しゅりょう）**に用いるための道具です。定住したと思われる住居が見つかっていないことから、海を渡ってきた人が休息や海の時化から逃れるために陸にあがったものと思われる。陸では石で作った道具を使って、島にいる動物を捕まえていたものと考えられます。原の辻遺跡からはナウマン象やオオツノシカの化石も見つかっていることから、大型ほ乳類も杵岐に生息していたこともわかっています。また、この時代には**島に人が定住しておらず、不定期に人が上陸して、島に住む動物を捕獲して食料を調達していたもの**と思われる。



杵岐で発見された  
ステゴドン象の化石

### ○杵岐の縄文時代（約10000年前～約2300年前）

杵岐の縄文時代を代表する遺跡は、**郷ノ浦町の名切遺跡**と**鎌崎遺跡（かまさきいせき）**、**勝本町の松崎遺跡（まつざきいせき）**があります。これらの遺跡が島の西海岸に位置し、潮の満ち引きで海に沈む場所にあるのが特徴です。名切遺跡からは、“**どんぐりピット**”と呼ばれるどんぐりなどの堅果類を一時的に貯蔵する穴が見ついています。この貯蔵穴が見つかった場所も時間によって海に沈む場所につくられており、中に入れたどんぐり等の実が海水の流入によって流れないように木の蓋（ふた）でおさえ、さらに蓋の上に石を置いて重石（おもし）がわりにして保存しています。中に入った海水が残り、“塩漬け”された状態となったどんぐり等は、長期間保存できたものと考えられます。

この時代も引き続き石器を使用していますが、土器の出現によって、生活に大きな変化がもたらされます。例えば土器のない時代は、焼くしかできなかったものも、**土器によって煮る**という調理法が加わり、調理の幅も広がりました。土器は文様を施す土器が松崎遺跡から大量に見ついています。くじらの骨盤をロクロがわりに利用して作られた土器も見ついています。

また、杵岐島内にも黒曜石の産地がありますが、質が悪いため、**質のいい佐賀県伊万里産の黒曜石**を用いて石器が作られています。黒曜石は日本各地に流通しており、**縄文時代の杵岐は、黒曜石の交易を通じて、各地とネットワークで結ばれていました。**



名切遺跡で発見されたどんぐりピット

## ○吉岐の弥生時代（約2300年前～約1700年前）

吉岐の弥生時代を代表する遺跡は、郷ノ浦町の車出遺跡（くるまでいせき）、勝本町のカラカミ遺跡、芦辺町と石田町の原の辻遺跡（はるのつじいせき）をはじめ、島内各地に点在しています。

『魏志』倭人伝では、この時代の「一支国（いきこく）」の様子が記述されています。それぞれの遺跡は多重の環濠を巡らした集落を形成しており、海を介した交流・交易の歴史を物語っています。中でも原の辻遺跡は一支国の王都と特定され、『魏志』倭人伝に記載のある国で唯一、王都の場所が特定された遺跡です。また勝本町にある天ヶ原（あまがはら）セジョウ神遺跡からは、航海安全のためと思われる3本の中広形銅矛が埋納された祭祀（さいし）の遺跡が発見されています。それぞれの遺跡から出土する遺物は、中国の青銅製の鏡、馬車の車軸頭（しゃじくとう）、銅銭、朝鮮半島の登り窯で作られた硬質の土器、日本各地から運ばれた土器など、日本と中国・朝鮮半島との架け橋として、交易が盛んに行われていたことがわかります。運ばれたものは“モノ”だけではありません。人と人との交流によって「卜骨〔ぼっこつ=鹿などの骨を用いて、吉凶を占う儀式〕」の“文化”も吉岐に伝わっています。

弥生時代は水稻耕作が開始され、食文化などの生活環境や社会情勢に劇的な変化をみることができます。使用する道具も縄文時代同様、土器と石器が用いられますが、鉄器や青銅器の出現によって、技術や作業効率において格差の進歩がみられます。稲作文化の拡大に伴って、集団の中での格差や、米の収穫が豊富な集団がそうでない集団を吸収する争いが各地で発生します。それぞれの集団は他集団の侵入を防ぐため、多重の環濠を巡らし、集落の防衛を行うようになります。吉岐は海で囲まれているにもかかわらず、迫る危機に備え、多重の環濠を巡らしているのは、原の辻遺跡やカラカミ遺跡、車出遺跡周辺が、稲作に最適な環境をもっていたことが理由の一つとして考えられます。



卜骨につかわれた鹿の肩甲骨

## ○吉岐の古墳時代（約1700年前～710年〔平城京遷都〕まで）

吉岐の古墳時代の幕開けは、弥生時代に一支国の王都として栄えた原の辻遺跡の集落が解体され、環濠が埋まり、国としての機能を失うことに始まります。大規模な国としての機能は失うものの、農耕に適した土地を活かし、吉岐に残った者と吉岐を出ていった者にわかれしました。吉岐に残った者の生活の痕跡が確認されているのは芦辺町・石田町の原の辻遺跡や勝本町の片苗イシロ遺跡（かたなえいしろいせき）のみで、他の場所からはまだ発見されていません。この時代を示すものは島内に点在する279基の古墳があります〔長崎県内では約500基の古墳が確認されていることから、約半分以上の古墳が吉岐に集中していることが古墳の数字からわかります〕。これだけ多くの古墳が築造された背景には、吉岐が海上交通と交易の要所として重要な役割を果たしていたことを示しています。

吉岐を代表する古墳は、長崎県最大の前方後円墳である勝本町の双六古墳（そうろくこふん）、長崎県最大級の円墳である笹塚古墳をはじめ、対馬塚古墳（つしまづかこふん）〔前方後円墳〕、鬼の窟古墳（おにのいわやこふん）、兵瀬古墳（ひょうせこふん）、掛木古墳（かけきこふん）〔以上円墳〕の巨石を石室に用いた大型の古墳があります。この巨石古墳の周辺には百田頭古墳群（ひやくたがしらこふんぐん）、釜蓋古墳群（かまぶたこふんぐん）、山ノ神古墳群（やまのかみこふんぐん）、百合畑古墳群（ゆりはたこふんぐん）等の小規模の古墳群が点在しています。その他、特徴のある古墳は、捕鯨の様子を線刻した郷ノ浦町にある大米古墳（おおごめこふん）、鬼屋窪古墳（おにやくぼこふん）があります。

この時代は、大和政権の統治の拡大と技術のある渡来人の政権への編入により、国家として確立した時期にあたります。527年に起きた筑紫国造磐井（つくしのくにのみやつこいわい）の乱〔福岡県八女市〕や大和政権の朝鮮半島への進出のはざままで、吉岐独自の古墳文化が形成されます。6世紀の終わりから7世紀の初めにかけての約50年くらいで、吉岐の中心に近い、国分・亀石地区に90基以上の古墳が築造されていることから朝鮮半島との緊迫した社会情勢がみえてきます。古墳の中から見つかったものには中国や朝鮮半島の土器や畿内〔近畿地方〕をはじめ、日本各地の土器や権力を示す金銅製の馬具や青銅製の鏡（わん）等の遺物があり、積極的に海を介した交流や交易を行っていた吉岐の様子がみえてきます。



笹塚古墳で見つかった金銅製の馬具

## ○吉岐の古代〔奈良・平安時代〕（710年～1192年〔鎌倉幕府成立〕まで）

吉岐の古代を代表する遺跡は勝本町の串山ミルメ浦遺跡（くしやまみるめうらいせき）と芦辺町の吉岐嶋分寺跡（いきとうぶんじあと）、芦辺町・石田町の原の辻遺跡（はるのつじいせき）、石田町の椿遺跡（つばきいせき）等があります。

串山ミルメ浦遺跡からはアワビの貝殻が大量に廃棄された跡や、アワビの加工用に用いられたと思われる石組みの炉跡、塩を作る土器や炉跡が見つっています。亀ト（きぼく）の占いが行われた亀の甲羅も見つかっており、弥生時代のト骨に続き、亀の甲羅を用いた占いが盛んに行われていたことを物語っています。優秀な占い師は中央政権に呼ばれ、占いをしていたという歴史の記録も残っており、吉岐の占い師が中央政権の一端を担っていたことがうかがえます。

吉岐嶋分寺跡からは、版築の基壇跡や礎石を持つ建物跡、門跡等が見つっています。また瓦も12,000点以上出土しており、当時の建物の規模の大きさがうかがえます。出土した軒丸瓦の文様の中には、平城京造営時の瓦の文様と同じ文様のものもあり、中央政権との係わりが深かったことを示しています。また、原の辻遺跡からは、文字が書かれた木簡や交易で手に入れた初期貿易陶磁器が、椿遺跡からは役職のある身分の役人が身につけた石帯と呼ばれるベルト飾りが見つっています。

吉岐の古代は、日本の歴史と密接に関係しています。律令制によって全国を国・郡・里に分け統制された折には、吉岐は島全体で吉岐国として認められ、さらに、島は吉岐郡と石田郡の2郡に分けられています。律令制の税制には租・庸・調・雑徭（ぞうよう）・兵役が設定されていますが、串山ミルメ浦遺跡で加工された干しアワビは調〔＝各地の特産品を税として納める制度〕として、中央に納められていたことがうかがえます。741年の国分寺建立の詔（こくぶんじこんりゅうのみことり）を受けて、吉岐では吉岐直（いきのあたい）の氏寺を吉岐嶋分寺〔＝吉岐国分寺〕にした記録が残っています。

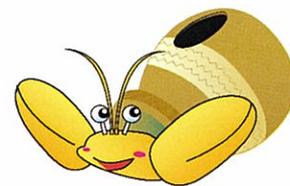
この時代の歴史事項では、聖武天皇の命を受けて遣新羅使の一員として使節に随行した雪連宅満（ゆきのむらじやかまろ）が吉岐で病死して埋葬された墓や1019年の刀伊族の入寇の際に、吉岐を守るため身命を尽くした吉岐国司藤原理忠（ふじわらのりちゅう）の墓も残っています。また、平安時代末期の末法思想を反映した郷ノ浦町の鉢形山で発見された石造弥勒如来坐像（せきぞうみろくにょらいざそう）は、丸彫りの石仏で、仏像が造られた背景を背部に彫り込んでいる点においても他に類例のない逸品です。



鉢形山で発見された石造の弥勒如来坐像



原の辻遺跡マスコットキャラクター  
海都くん



原の辻遺跡マスコットキャラクター  
つじマルくんx

## ○壱岐の中世〔鎌倉・室町〕（1192年～1573年〔室町幕府滅亡〕まで）

壱岐の中世は、交易の拠点から一転して、国防の最前線として位置づけられることとなります。

1274（文永11）年の元寇（文永の役）では、勝本町の新城付近を中心に元軍とのせめぎあいがあり、**新城古戦場**がこの戦いの激戦地として歴史に残っています。この時、元軍を迎え撃った中心人物が、壱岐の**守護代平景隆**で、新城の戦いで戦死しています。平景隆の墓が新城神社にあります。続く1281（弘安4）年の元寇（弘安の役）では、芦辺町の瀬戸浦付近を中心に元軍とのせめぎあいが続き、**瀬戸浦古戦場**がこの戦いの激戦地として歴史に残っています。この時に、壱岐を守るため、元軍を迎え撃った中心人物が、壱岐の**守護代少貳資時**で、瀬戸浦の戦いで戦死しています。現在、瀬戸浦の少貳公園に少貳資時の墓が残っています。

元軍としては、九州への侵略の足がかりの場として、日本としては国防の要所として失うことができない場であったことから、お互いの壱岐に対する思いが対立し、お互い一步も引かない攻防が激しい戦いになったものと思われます。元寇に関連する史跡は**勝本町の新城千人塚**や**芦辺町の千人供養塔**など島内各地に残っています。

室町時代にはいと、後醍醐天皇をはじめとする、建武の新政以降の戦没者を弔うため、足利尊氏・直義兄弟が全国の国々に安国寺建立を命じます。壱岐ではもともとあった「海印寺」を「**壱岐安国寺**」に改めました。その安国寺には、国指定重要文化財の**高麗版大般若経〔初版〕**や**歴代住職を描いた掛け軸**など、数多くの什物が伝わっています。

争いに次ぐ争いの歴史の中で、中世の壱岐の歴史を物語る文化財も多数残っています。波多氏が築造した**亀丘城**をはじめ、**生池城**や**鶴翔城**などの山城、**靉城（とじょう）**といった城館跡等が、島内各地に築かれています。争いに終止符を打ったのは、浦海の合戦（うろみのかっせん）で、壱岐の**日高甲斐守喜（このむ）**・**立石図書（たていしずしよ）**・平戸の**松浦氏**との連合軍が、波多氏と対馬の**宗氏**との連合軍を破ったのを機に壱岐は平戸松浦氏領になり、壱岐は平定されました。

中世の終わりから近世のはじめにかけての豊臣秀吉の2度にわたる文禄・慶長の役〔1592（文禄元）年・1598（慶長3）年〕では、壱岐は、兵士の食糧や武器などの補給や修理をする軍事基地の役割を果たしています。勝本には、豊臣秀吉の命を受けて、松浦鎮信（平戸）を中心に有馬晴信（島原）、大村喜前（大村）、五島純玄（五島）の肥前国を治める領主の協力によって**勝本城**が築城されています。現在も当時の石垣が残っています。

この時代は、まだ発掘調査があまり行われていませんが、漁村の集落である石田町の**天水遺跡（てんすいせいせき）**からは「寛永通寶」などの銅銭を納めた地鎮祭祀の跡が見つかっています。芦辺町の靉城城館跡からは堀の跡や建物跡が見つかっており、当時使われていた土器やイスラム圏から運ばれてきた陶器等が見つかっています。特に枝がついた大型銭〔模鑄銭＝偽銭〕は日本でもあまり出土例のない貴重なものです。



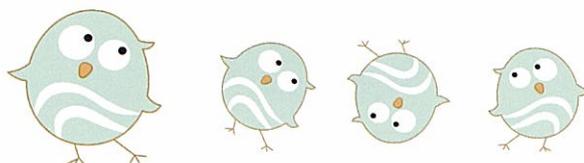
少貳資時の墓



壱岐安国寺



勝本城跡



原の辻遺跡マスコットキャラクター とんぼ玉くん

## ○沓岐の近世〔安土桃山時代・江戸時代〕（1573年～1868年〔明治維新〕まで）

沓岐の近世については、朝鮮通信使と鯨組、人物の歴史が残っています。

朝鮮通信使は勝本浦に寄港した記録が残っています。その史跡として勝本浦に朝鮮通信使迎撃所跡があります。当時の迎撃所の様子を記録した「朝鮮通信使迎撃所絵図」が残っており、迎撃所絵図には詳細な部屋の配置や間取り及び部屋を使用する者等の情報が記録されています。通信使の使節団は正使・副使・従事官の3使に加え、一流の学者や書家、医者などが随行していたことが絵図に記されています。通信使にまつわる史跡として、郷ノ浦町の爾自神社（にじじんじゃ）にある東風石（こちいし）があります。この東風石は、神功皇后が航海の順風を祈願したところ、石が2つに割れ、風が吹き出し渡海できたという云われのある石です。平戸藩は、この故事にならって、順風が吹くようにと祈願をしました。

1492（明応元）年、紀伊の日高氏により始まった沓岐における捕鯨活動は、江戸時代になると大村の深澤儀太夫に受け継がれます。鯨組の漁法も突いて鯨を捕獲する「突組（つぎぐみ）」から網を用いて弱らせて捕獲する「網組（あみぐみ）」へと転換し、捕獲率も格段に高まり沓岐の捕鯨活動も一気に島内全体に広がりました。夷浦〔現在の芦辺町瀬戸浦恵美須〕では深澤儀太夫を中心に8人共同の鯨組を運営することで、作業の効率化を図り、より多くの鯨を捕獲することが可能になりました。

鯨に関する史跡は、鯨組のあった恵比寿浦にある鯨供養塔をはじめ、勝本浦を中心に活躍した鯨組の土肥家が巨額の費用を投じて建設した御茶屋屋敷跡や高さ7m、長さ90mの同屋敷大石堀があります。

人物の歴史では、沓岐に流罪となって来たものの、島の発展に余生を懸けた宮脇半七（みやわきはんしち）や小山弥兵衛（こやまやへい）、巡見使の随員として沓岐を訪れた松尾芭蕉の弟子河合曾良、平戸藩政の不正を幕府に直訴した百姓源三、平戸藩主の命を受けて、沓岐の神社仏閣や名所旧跡を記した『沓岐名勝図誌』を編集した吉野秀政、沓岐の歴史や現状を記述した、『沓岐国続風土記』を編集した菊池正恒がおり、史跡が残されています。

その他、1641（寛永18）年に海上通過の船を監視するために設けられた若宮島（わかみやじま）遠見番所跡や岳の辻遠見番所跡、平戸藩が1680（延宝8）年に海上警備と沓岐の治安維持を目的に設置した勝本押役所跡（かつもとおさえやくしょあと）などがあり、平戸藩の、ひいては国の要所としての役割を沓岐が果たしていたことがうかがえます。

1859（安政6）年旧暦2月13日に起きた、突風で郷ノ浦町の元居浦の漁師が乗った漁船が転覆し、多くの人命が失われる海難事故がおきました。このときの突風を「春一番」と呼び、現在、気象情報などで用いられる「春一番」の語源となり、沓岐から全国へと広がりました。沓岐では、1987（昭和62）年に春一番の記念モニュメントが設けられました。



爾自神社の東風石



小山弥兵衛の墓



春一番の供養塔

## ○吉岐の近現代〔明治時代～現在〕（1868年〔明治維新〕～現在まで）

吉岐の近現代は、戦争の歴史、そして産業と文化が花さきます。

戦争を物語る史跡としては、黒崎に残る**黒崎砲台跡**があります。この黒崎砲台は、第一次世界大戦後の1928（昭和3）年～1931（昭和6）年の4年の歳月をかけて、完成しています。砲台には口径41センチメートルのカノン砲を設置、重さ1トンの砲弾を使用し、最大射程距離は約35キロメートル先までとどくものでした。現在は、砲台は撤去され、山に掘られた地下要塞の跡が残っています。

産業では、石田町出身の**松永安左エ門**がいます。松永安左エ門は日本の電力開発の先駆者的存在であり、「電力の鬼」・「電力王」と称される人物です。第二次世界大戦後の日本再建において、産業・経済の振興発展に多大な功績を残し、「経済大国・日本」のいしずえを築いた先駆者の一人として、日本を代表する偉人として歴史に残っています。この松永安左エ門が、最も尊敬した人が勝本町出身の臨済宗建仁寺派管長・**竹田黙雷**禅師でした。禅師は、日本仏教界の象徴的な存在として人望を集めました。

文化では、石田町出身の**熊本利平**がいます。第二次世界大戦終結までに朝鮮半島で大農場の経営で成功した多額の富と財産を、戦後、郷土の発展と産業振興、さらには留学生の派遣などの人材育成、石田小学校敷地と大講堂の寄付、吉岐高等女学校（現吉岐高校）への寄付などを通じて吉岐の文化の発展に貢献しています。この功績が認められ、1942（昭和17）年に茶室「**花雲亭**」を久邇宮侘子妃殿下より賜り、東京から石田町に移築しています。

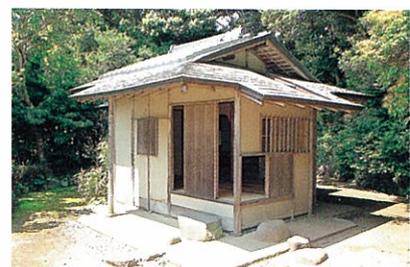
1904（明治37）年頃に松本友雄によって発見された原の辻遺跡は、大正・昭和初期にかけて調査が行われ、**松本友雄・山口麻太郎**によって、その成果が考古学界に知られることとなりました。その後も、考古学会や大学、行政機関によって発掘調査が行われ、原の辻遺跡の重要性が認められ、国の特別史跡に指定されています。



黒崎砲台跡



松永記念館



花雲亭



原の辻遺跡マスコットキャラクター  
はるのちゃん

### (3) 吉岐の歴史年表

項目	時代	西暦	年号	歴史事項	キーワード
1	旧石器	～2万年前	—	吉岐島内にナウマンゾウやオオツノジカなどの動物が棲息（せいそく）する	ナウマンゾウ・オオツノジカ
2	旧石器	～2万年前	—	旧石器人が原の辻遺跡（はるのつじいせき）やカラカミ遺跡をはじめ、島内各地で活動する	原の辻遺跡・カラカミ遺跡
3	縄文	～2500年前	—	縄文人が吉岐の西海岸〔松崎遺跡（まつざきいせき）・鎌崎遺跡（かまさきいせき）・名切遺跡（なきりいせき）〕をはじめ、島内各地で活動する	松崎遺跡・鎌崎遺跡 名切遺跡
4	縄文	～2500年前	—	名切遺跡（なきりいせき）にドングリを貯蔵する穴をつくる（縄文人の一時的居住のはじまり）	名切遺跡
5	弥生	～2200年前	—	弥生人が原の辻遺跡やカラカミ遺跡に定住を開始する（本格的な定住のはじまり）	遺跡の変遷
6	弥生	～2200年前	—	原の辻遺跡の丘陵部周辺の低地に環濠を巡らし、船着場を建設する（環濠集落の誕生）	船着場跡
7	弥生	～2100年前	—	生活の拠点が島内各地〔車出遺跡（くるまでいせき）・カラカミ遺跡〕へと広がる（一支国の誕生）	車出遺跡
8	弥生	～2000年前	—	原の辻遺跡が船着場を利用した交易や交流で栄える	遺跡の変遷
9	弥生	～2000年前	—	原の辻遺跡周辺に点在する集落が一つにまとまり、計画的に多重の環濠が掘り直される	遺跡の変遷
10	弥生	～1700年前	—	吉岐が中国の正史『三国志』の中の「魏志」倭人伝（ぎしわじんてん）に一支国（いきこく）として登場する	日本歴史
11	弥生	～1800年前	—	吉岐の最北端にある天ヶ原セジョウ神遺跡（あまがはらせじょうがみいせき）に中広形銅矛（なかひろがたどうぼこ）3本が埋められる	天ヶ原セジョウ神遺跡
12	古墳	～1600年前	—	石田町にある唐瀬浜（とうせはま）に突き出した小さな島状の岬〔大久保遺跡（おおくぼいせき）〕に箱式の石棺墓がつくられる	大久保遺跡
13	古墳	～1600年前	—	「一支国」の王都として栄えた原の辻遺跡が終わる（一支国の滅亡）	遺跡の変遷
14	古墳	487年	—	「月読神社（つきよみじんじや）」に天月神命（あめのつきのかみのみこと）を祀（まつ）る【日本書紀・神社考】	月読神社
15	古墳	～1500年前	—	原の辻遺跡を見下ろす丘陵に大塚山古墳（おおつかやまこふん）がつくられる（吉岐の古墳のはじまり）	大塚山古墳
16	古墳	～1450年前	—	島のやや内陸部の芦辺諸吉地区に妙泉寺古墳（みょうせんじこふん）がつくられる	妙泉寺古墳
17	古墳	～1400年前	—	吉岐のほぼ中央に長崎県最大の前方後円墳双六古墳（そうろくこふん）をはじめ、笹塚古墳（ささづかこふん）や鬼の窟古墳（おにのいわやこふん）等の巨石古墳が次々とつくられる	双六古墳 笹塚古墳 鬼の窟古墳
18	古墳	632年	—	遣唐使として唐に渡った犬上御田鎌（いぬがみのみたすき）が唐からの使者を迎えた記録の中に「伊岐」が登場する【日本書紀】	日本歴史
19	古墳	645年	—	大化の改新にて、吉岐島が独立して地域区分される	吉岐トピック
20	古墳	～1350年前	—	巨石古墳群の周辺に小規模の群集墳（百田頭（ひやくたがしら）・釜蓋（かまぶた）・山ノ神（やまのかみ）古墳群）が次々とつくられる	百田頭・釜蓋・山ノ神古墳群
21	古墳	659年	—	第4次遣唐使団に同行した伊吉連博徳（いきのむらじはかとこ）（吉岐出身）が戦争の準備を進める唐の動きを国内に伝える【日本書紀】	伊吉博徳
22	古墳	664年	—	663年の白村江の戦いに敗れたため、唐・新羅の襲来（しゅうらい）に備え、「国防の拠点」として吉岐に防人（さきもり）を配置し、烽火（とぶひ）が設置される【日本書紀】	日本歴史
23	古墳	～1300年前	—	石室の石に捕鯨の様子を線刻した鬼屋窪古墳（おにやくぼこふん）がつくられる	鬼屋窪古墳
24	古墳	700年	—	伊吉連博徳（いきのむらじはかとこ）が「大宝律令」の編纂（へんさん）に関わった功績が認められ褒美をもらう【続日本紀】	日本歴史
25	古墳	702年	—	伊岐連古麻呂が第7次遣唐使として唐に渡る【704年に帰国】	伊岐連古麻呂
26	古代(奈良)	717年	養老1	勝本浦に「聖母神社（しょうもうじんじや）」が建てられる【吉岐神社誌】	聖母宮
27	古代(奈良)	718年	養老2	「養老令（ようろうりょう）」の中で、吉岐と対馬が「下国（げこく）」に認められる	日本歴史
28	古代(奈良)	729年	天平1	吉岐国を吉岐郡と石田郡（いしたぐん）に分ける郡境が決められる【吉岐名勝図誌】	吉岐トピック
29	古代(奈良)	736年	天平8	遣新羅使（けんしらぎし）に同行していた雪連宅満（ゆきのむらじやかまろ）が吉岐で病死する【万葉集】	日本歴史
30	古代(奈良)	741年	天平13	「国分寺・国分尼寺建立の詔（こくぶんじ・こくぶにじこんりゅうのみことり）」を受けて、吉岐に国分寺（嶋分寺）を建てるように命じられる【続日本記】	日本歴史
31	古代(奈良)	744年	天平16	吉岐は国分寺を新たに建立せず、吉岐直（いきのあた）の氏寺を国分寺（嶋分寺）にあてる【類聚三代格】	吉岐国分寺（嶋分寺）跡
32	古代(奈良)	～1250年前	—	このころ、重要な役職を象徴する石帯（せきたい）を身に付けた役人が吉岐に存在する	椿遺跡 石帯
33	古代(奈良)	769年	神護景雲3	占いを行うト部道作（吉岐出身）と和氣清麻呂が豊前国宇佐八幡宮で「ト占（ぼくせん）」を行う【宇佐託宣集】（道鏡神託事件）	ト部道作
34	古代(奈良)	772年	宝亀3	吉岐直玉守（いきのあたいたまもり）の娘の玉主売（たまぬしめ）が「爵二級（しゃくにきゅう）」を賜り、田租の税を終身免じられる【続日本紀】	玉主売の墓
35	古代(奈良)	788年	延暦7	「吉岐島5社」に本宮八幡神社・箱崎八幡神社・筒城神社・印鑰神社（いんにやくじんじや）・聖母宮が選ばれる【吉岐神社誌】	神社トピック
36	古代(奈良)	～1200年前	—	このころ、串山ミルメ浦遺跡で「龜ト（きぼく）」の占いが行われる	串山ミルメ浦遺跡 龜ト
37	古代(平安)	～1200年前	—	このころ、石田印通寺港東岸にある浜田遺跡で製塩作業が行われる	浜田遺跡

項目	時代	西暦	年号	歴史事項	キーワード
38	古代(平安)	815年	弘仁6	異賊(いそく)の襲来(しゅうらい)により、島内に関(せき)を2か所、要害(ようがい)を14か所設置する【日本後紀】	見目(ミルメ)関
39	古代(平安)	851年	仁寿1	「類聚三代格」に舌岐の人口10,600人、対馬の人口7,400人と記される	舌岐トピック
40	古代(平安)	856年	斉衡3	占いを行うト部雄貞が、姓を「ト部(うらべ)」から「占部(うらべ)」に改める【舌岐神社誌】	ト部雄貞
41	古代(平安)	863年	貞観5	占いを行う占部是雄と占部業孝が「舌岐宿禰(いきのすくね)」の姓を賜る【日本三代実録】	占部是雄 占部業孝
42	古代(平安)	866年	貞観8	「応天門の変」で伴秋実(とものあきさね)が舌岐に遠流(おんる)となる【日本三代実録】	日本歴史
43	古代(平安)	876年	貞観18	源順(みなもとのしたごう)著「倭名類聚鈔(わみょうるいじゅうしょう)」に舌岐島の水田616町と記される【日本三代実録】	舌岐トピック
44	古代(平安)	906年	延喜6	豊前国宇佐郡より異国降伏国家擁護(いこくこうふくこっかようご)の神を迎え、白沙八幡宮が建てられる【舌岐国史】	白沙八幡宮
45	古代(平安)	927年	延長5	「延喜式」の「神名帳(じんみょうちょう)」に舌岐の式内社24座(大7社 小17社)と記される	神社トピック
46	古代(平安)	935年	承平5	源順(みなもとのしたごう)著「倭名類聚鈔」に舌岐の戸数2,070戸、人口10,350人と記される	舌岐トピック
47	古代(平安)	997年	長徳3	南蛮人(奄美人)が舌岐・対馬に襲来する【小右記】	舌岐トピック
48	古代(平安)	1019年	寛仁3	刀伊の賊(といのそく)が舌岐に襲来し、舌岐国司藤原理忠(ふじわらのりちゅう)が応戦するものの戦死する	刀伊の入寇 藤原理忠
49	古代(平安)	1046年	永承1	安国寺の「高麗版大般若経(こうらいばんだいはんによきょう)」に高麗国金海府(こうらいこくきんかいふ)の「許珍寿」の名前が記される	高麗版大般若経
50	古代(平安)	1071年	延久3	滑石製弥勒如来坐像(かつせきせいみろくによらいざそう)の右肩部に「當特国司正六位 佐伯良孝(さえきよしたか)」の名まえが記される	石製弥勒如来坐像 佐伯良孝
51	中世(鎌倉)	1209年	承元3	長栄寺の滑石製の宝塔に「承元3年7月」の年号が刻まれる	長栄寺大御堂滑石製の宝塔
52	中世(鎌倉)	1266年	文永3	石田郡の白沙八幡宮が鎮西守護所(ちんせいしゅごしょ)へ牛一頭を奉納する【舌岐史拾遺】	牛トピック
53	中世(鎌倉)	1274年	文永11	元軍が舌岐勝本浦と藤伏(いさふし)付近に上陸し、守護代平景隆(たいらのかげたか)が樋詰城(ひのつめじょう)のある新城地区で応戦するものの戦死する(文永の役)	元寇(文永の役) 平景隆 新城古戦場跡
54	中世(鎌倉)	1281年	弘安4	元軍が舌岐瀬戸浦付近に上陸し、守護代少貳資時(しょうにすけとき)が船匠城(ふなかくしじょう)のある瀬戸浦地区で応戦するものの戦死する(弘安の役)	元寇(弘安の役) 少貳資時 瀬戸浦古戦場跡
55	中世(鎌倉)	1293年	永仁1	唐津の岸岳(きしだけ)城主・波多宗無(はたそうむ)が亀丘城を築く【三光譜録考鑑】	亀丘城跡 波多宗無
56	中世(鎌倉)	1294年	永仁2	異国警護のため、舌岐に烽火(とぶひ)を設置する	舌岐トピック
57	中世(鎌倉)	1301年	正安3	波多宗無(はたそうむ)の妻華溪(かけい)が病死し、菩提を弔うため菩提寺華溪院(ぼだいじかけいん)〔現華光寺(けこうじ)〕が建てられる【舌岐名勝図誌】	華溪 華光寺
58	中世(鎌倉)	1310年	延慶3	「国牛十図」に筑紫牛(つくしぎゅう)として舌岐の牛が都の牛車を引いたことが記される	牛トピック
59	中世(室町)	1338年	延元3 暦応1	舌岐島の神社数調査で「舌岐郡106社、石田郡109社、小神が祀られた祠(ほこら)1376所」と記される【舌岐神社考】	神社トピック
60	中世(室町)	1339年	延元4 暦応2	足利尊氏の命を受けて、舌岐では既存の「海印寺(かいいんじ)」を「安国寺」にあてる【舌岐国統風土記】	安国寺
61	中世(室町)	1350年	正平5 観応1	舌岐安国寺に足利尊氏の髪(かみ)の毛(も)が届く【安国寺文書(老松山安国海印禅寺史)】	日本歴史
62	中世(室町)	1351年	正平6 観応2	筑前国の八幡宮崎宮の領地の中に「舌岐島瀬戸(せと)」の村名が記される	地域トピック
63	中世(室町)	1369年	正平24 応安2	松浦党の志佐(しさ)・佐志(さし)・鴨打(かもち)・呼子(よぶこ)・塩津留(しおつる)の5氏がそれぞれ舌岐を治める【舌岐史拾遺】	志佐・佐志・鴨打・呼子・塩津留
64	中世(室町)	1369年	正平24 応安2	志佐舌岐守源義の代官源武が石田池田地区に真弓館(まゆみやかた)を設置する【舌岐国統風土記】	志佐舌岐守源義 池田真弓館
65	中世(室町)	1393年	明德4	「李朝実録」に舌岐の僧建哲(けんてつ)が、捕虜200余人を朝鮮に送還したことが記される【李朝実録】	僧建哲
66	中世(室町)	1396年	応永3	3代將軍足利義満が僧頭悦(けんえつ)を舌岐安国寺の住職に任命する【安国寺文書】	日本歴史
67	中世(室町)	1397年	応永4	李氏朝鮮側に「一岐(舌岐)・対馬の島民に海賊行為を禁止させる」ことを周防(現山口県)の守護大名大内義弘が伝える【李朝実録】	舌岐トピック
68	中世(室町)	1400年	応永7	神岳山金蔵寺(かみだけさんこんそうじ)の銅造の鰐口(わにくち)に「応永7年」の年号が刻まれる	神岳山金蔵寺の銅造鰐口
69	中世(室町)	1435年	永享7	神楽舞に関する記録が記される(舌岐神楽についての最古の記録)【聖母宮文書】	舌岐神楽
70	中世(室町)	1471年	文明3	李氏朝鮮側の申叔舟(シンシュクシュウ)が日本国図を作成し、その中に「一岐島」として登場する【海東諸国紀】	舌岐トピック
71	中世(室町)	1472年	文明4	唐津・岸岳城主の波多泰(はたやすし)が舌岐に進出し、松浦党5氏が降伏する	波多泰
72	中世(室町)	1486年	文明18	重熙5(1036)年の高麗初版大般若経が彼杵郡の川棚にある長浜大明神より舌岐安国寺に納められる	高麗版大般若経
73	中世(室町)	1522年	大永3	波多氏14代岸岳主盛(さこう)となる	
74	中世(室町)	1528年	享禄1(大永8)	神岳山金蔵寺の木造地藏菩薩坐像(もくそうじそうぼさつざそう)に「大永8年」の年号が刻まれる	地域トピック
75	中世(室町)	1528年	享禄1(大永8)	報恩寺の木造十一面観世菩薩坐像(もくそうじゅういちめんかんぜおんぼさつざそう)に「大永8年」の年号が刻まれる	地域トピック

項目	時代	西暦	年号	歴史事項	キーワード
76	中世(室町)	1542年	天文11	波多氏14代岸岳城主盛(さこう)没し、波多氏の内紛が始まる	
77	中世(室町)	1552年	天文21	このころ、日高大膳(ひだかだいぜん)が嵯崎村の船置城(ふなかくしじょう)に拠点を構える【嵯崎郷土史】	船置城
78	中世(室町)	1555年	弘治1	波多盛(さこう)の後室新芳(しんぼう)が藤堂丸(のちの波多三河守親(ちかし))を養子に迎える【嵯崎郷土史】	波多三河守親
79	中世(室町)	1555年	弘治1	嵯崎守の波多隆(たかし)が家臣の「六人衆」の謀反(むほん)により、郷ノ浦町有安の鵜の部海岸(うのべかいがん)にて家臣2人と共に自害する	波多隆
80	中世(室町)	1556年	弘治2	波多重(しげし)は家臣の「六人衆」の暗殺計画を察知し、逃亡するものの城権現崎で捕まり殺害される【華光寺鬼簿】	波多重
81	中世(室町)	1557年	弘治3	嵯崎守の波多重(しげし)を殺害した「六人衆」が嵯崎を治める【嵯崎郷土史】	嵯崎トピック
82	中世(室町)	1563年	永禄6	波多三河守盛(さこう)の後室新芳(しんぼう)が、茶宴の席で毒を盛り老臣日高大和守資(たすく)を暗殺する【松浦家世伝】	波多三河守親 日高大和守資
83	中世(室町)	1564年	永禄7	日高甲斐守喜(このむ)が岸岳城を焼き払い、波多三河守親(ちかし)と後室新芳を追放し、上松浦と嵯崎を統治する【松浦家世伝】	日高甲斐守喜 波多親
84	中世(室町)	1565年	永禄8	日高甲斐守喜(このむ)が嵯崎に入り波多政(まさし)とともに「六人衆」を殺害し、波多政を嵯崎城代に任命する【嵯崎郷土史】	波多政
85	中世(室町)	1566年	永禄9	立石重兼(たていししげかね)が「六人衆の乱」の処理の恩賞として、松浦隆信より刀や馬をもらう【松浦家世伝】	松浦隆信 立石重兼
86	中世(室町)	1567年	永禄10	日高甲斐守喜(このむ)が松浦隆信の家来となり、波多政(まさし)に替わって嵯崎城代となる【大曲覚書】	嵯崎トピック
87	中世(室町)	1567年	永禄10	「嵯崎国田帳(永禄田帳(いきこくてんちょう))」が作成される	嵯崎トピック
88	中世(室町)	1570年	元亀1	日高甲斐守喜(このむ)が波多政(まさし)を殺害し、「嵯崎守護」として全島を統治する【嵯崎郷土史】	嵯崎トピック
89	中世(室町)	1571年	元亀2	波多親(ちかし)と刈馬の宗義調(そうよししげ)の連合軍が嵯崎を攻めるが、日高甲斐守喜と立石図書は平戸の松浦隆信の援軍を受け、勝利する【嵯崎国統風土記】(浦海(うらみ)の合戦)	立石図書
90	近世(安土・桃山)	1573年	天正1	肥前国の松浦鎮信(まつらしげのぶ)が嵯崎に入り、島中を見てまわり、のちに嵯崎を「17,729石」と定める【嵯崎郷土史】	松浦鎮信
91	近世(安土・桃山)	1578年	天正6	マカオを起航して、日本を目指していた「サン・セバスティアン号」が台風で嵯崎の島に避難。その後、船に乗っていた宣教師のジュリオ・ピアノとルセーナが嵯崎に残り、仏寺の横に礼拝所をつくり、「雪の聖母の祝日(8月5日)」に初ミサを捧げる(アフォンソ・デルセナの回想録)	キリスト関係
92	近世(安土・桃山)	1588年	天正16	豊臣秀吉の刀狩令を受けて、嵯崎でも私蔵の武器を没収する【松浦家世伝】	日本歴史
93	近世(安土・桃山)	1591年	天正19	豊臣秀吉が松浦鎮信(まつらしげのぶ)に命じ勝本城をつくり、本多因幡守正武に城を守らせる【松浦家文書】	勝本城
94	近世(安土・桃山)	1592年	文禄1(天正20)	文禄の役で小西行長や松浦鎮信(まつらしげのぶ)が嵯崎勝本を出発する【壬辰戦乱史】	日本歴史
95	近世(安土・桃山)	1592年	文禄1(天正20)	このころ、加藤清正が聖母香椎宮の石垣を築き、正門を寄進したといわれている【嵯崎名勝図誌】	聖母宮の石垣
96	近世(安土・桃山)	1592年	文禄1(天正20)	宗霧沙門(そうかくさもん)が朝鮮出兵前に聖母宮に茶壺を寄進する【嵯崎名勝図誌】	聖母宮の茶壺
97	近世(安土・桃山)	1598年	慶長3	日高蕃番(ひだかげんば)が慶長の役で戦死した日高甲斐守喜(このむ)の菩提を弔うため、箱崎に御館所(おたちちよ)に七重石塔を建てる	御館所七重石塔
98	近世(江戸)	1604年	慶長9	嵯崎国の石高15,732石(うち立石村559石・布気村359石・本宮村637石・香須村640石・新城村696石)と記される	地域トピック
99	近世(江戸)	1607年	慶長12	朝鮮通信使が勝本に寄港し、翌日勝本を出港し福岡藩領の藍島(あいのしま)に向かう(江戸時代の朝鮮通信使のはじまり)【慶七松海棧録】	朝鮮通信使迎接地跡
100	近世(江戸)	1613年	慶長18	松浦隆信が領土の地高目録を幕府に提出し、「嵯崎は17,729石」と報告する【嵯崎郷土史】	嵯崎トピック
101	近世(江戸)	1617年	元和3	「幕府朱印状」に嵯崎国(嵯崎郡9,816石余・石田郡7,910石余)と記される【台徳院様御朱印状写】	日本歴史
102	近世(江戸)	1619年	元和5	大村牟(おおむらう)が満杯になり、嵯崎牟(いきらう)をつくり、宣教師のモレス神父とメーナ神父が嵯崎牟に連行される【日本切支丹宗門史】	キリスト関係
103	近世(江戸)	1621年	元和7	宣教師のズニカが嵯崎に連行される【コリヤド 日本キリシタン教会史補遺】	キリスト関係
104	近世(江戸)	1622年	元和8	宣教師のフロレスが嵯崎に連行される【コリヤド 日本キリシタン教会史補遺】	キリスト関係
105	近世(江戸)	1624年	寛永1	このころ、深澤儀太夫(ふかざわぎだゆう)が嵯崎に来て「突き捕り法(突組)」による捕鯨業を開始する【嵯崎郷土史】	鯨トピック
106	近世(江戸)	1624年	寛永1	長門豊浦郡(現山口県)にある篠崎宮内の正興と隼人(はやと)が芦辺の清石浜につき、「芦辺」を「豊浦(ゆたかうら)」と改める【嵯崎郷土史】	地域トピック
107	近世(江戸)	1640年	寛永17	平戸藩の指示により、嵯崎島の勝本街道の「百間馬場(ひゃっけんばば)」や「亀石(がめいし)」、芦辺街道の「長松(ながまつ)」などに松並木が植樹される【御廻記】	地域トピック
108	近世(江戸)	1645年	正保2	「嵯崎国絵図」(正保絵図)に地割を定めた「触(ふれ)」が記載される	浦・触の由来
109	近世(江戸)	1645年	正保2	藩庁から藩民への通達に各地域に触役(ふれやく)を設置し、「お触書き」を伝達する【嵯崎国史】	浦・触の由来
110	近世(江戸)	1656年	明暦2	検地の結果、「嵯崎の田高20,164石、畑高11,405石、新開田14,281石」と確定する【明暦二年田方帳・畑方帳】	日本歴史
111	近世(江戸)	1658年	万治1	このころ、嵯崎島内でも「踏絵」が行われる【嵯崎郷土史】	日本歴史
112	近世(江戸)	1661年	寛文1(万治4)	捕鯨業を営む深澤儀太夫が龍蔵寺の客殿を改修する【嵯崎名勝図誌】	鯨トピック
113	近世(江戸)	1663年	寛文3	聖母宮の猿田彦神楽面に「寛文3年」の年号が刻まれる	地域トピック

項目	時代	西 暦	年 号	歴 史 事 項	キーワード
114	近世(江戸)	1664年	寛文4	たび重なる大火災で、浦名を「豊浦(ゆたかうら)」から「芦辺浦」に変更する【 <b>香岐国続風土記</b> 】	地域トピック
115	近世(江戸)	1673年	延宝1(寛文13)	「 <b>鯨場中日記</b> 」に香岐漁場に関する記録が記される	鯨トピック
116	近世(江戸)	1673年	延宝1(寛文13)	本宮八幡宮の猿田彦神楽面に「寛文13年」の年号が刻まれる	香岐神楽
117	近世(江戸)	1676年	延宝4	国学者の橘三喜(たちばなのみつよし)が3月12日より延喜式内社24社をすべて見てまわり、鉢形山から「延久2年」の年号が刻まれた石碑を発見する【一の宮巡詣記・香岐郷土史】	香岐トピック
118	近世(江戸)	1677年	延宝5	国学者の橘三喜(たちばなのみつよし)が式内社調査中に鉢形山から石碑に続き、石造弥勒如来坐像を発見する【 <b>香岐郷土史</b> 】	石製弥勒如来坐像
119	近世(江戸)	1680年	延宝8	深澤儀平次が和歌山県太地から「網取り捕鯨」を導入し、捕鯨法が「突組(つぎぐみ)」から「網組(あみぐみ)」に変わる【 <b>香岐郷土史</b> 】	鯨トピック
120	近世(江戸)	1689年	元禄2	黒崎で行われていた金山の採掘を中止する【 <b>松浦家世伝</b> 】	地域トピック
121	近世(江戸)	1697年	元禄10	香岐の村落名を香椎村は可須村、中郷村は那賀郷村、住吉村は鯨伏村、桜江村は物部村に改名する【 <b>香岐国史</b> 】	地域トピック
122	近世(江戸)	1710年	宝永7	幕府巡見使の随員として来島した岩波庄右衛門(俳号:河合曾良/松尾芭蕉の高弟)が勝本浦の中藤家で没する(5月22日 61歳)	河合曾良
123	近世(江戸)	1713年	正徳3	勝本町北触にある若宮神社の猿田彦神楽面に「正徳3年」の年号が刻まれる	香岐神楽
124	近世(江戸)	1716年	享保1	平戸の山口屋助左衛門が香岐にて捕鯨業を営(いとな)む【 <b>香岐郷土史</b> 】	鯨トピック
125	近世(江戸)	1717年	享保2	芦辺町の恵美須の丘に鯨を供養するための塔が建てられる	鯨供養塔
126	近世(江戸)	1719年	享保4	爾自(にじ)神社にて、朝鮮通信使の船が出航するための順風を祈願する【 <b>香岐名勝図誌</b> 】	爾自神社の東風石
127	近世(江戸)	1721年	享保6	香岐国について「人口39,376人、田1,030町、畑1,776町、牛8,666、鬼屋(古墳)194、酒屋34」と記される	香岐トピック
128	近世(江戸)	1727年	享保12	徳川吉宗が甘藷栽培を奨励(しょうれい)し、香岐でも甘藷(琉球イモ)が栽培される【 <b>香岐郷土史</b> 】	日本歴史
129	近世(江戸)	1728年	享保13	香州鯨組方目付(いしゅうくじらぐみかためつけ)を設置する【 <b>石田町史</b> 】	鯨トピック
130	近世(江戸)	1731年	享保16	生月の益富又右衛門、平戸の油屋又右衛門らが香岐で捕鯨を行う【 <b>香岐郷土史</b> 】	鯨トピック
131	近世(江戸)	1731年	享保16	瀬戸漁民が「羽魚網」、「鯨網」を考案し、勝本漁民が「鮪網」を発明する【 <b>香岐郷土史</b> 】	漁業とトピック
132	近世(江戸)	1731年	享保16	このころまでに、藩は行政上必要な村の地図を作り、行政区画を設定する(浦と触が記される)	浦・触の由来
133	近世(江戸)	1739年	元文4	「生野一揆(いくのいっき)(但馬国(現兵庫県))」の首謀者の一人小山弥兵衛(こやまやへえ)が香岐へ流罪(るざい)となる	小山弥兵衛の墓
134	近世(江戸)	1742年	寛保2	宮司(ぐうじ)の吉野秀政(よしのひでまさ)が亀丘城にて藩主松浦誠信(安静公)より「 <b>香岐国続風土記</b> 」編集の命を受ける【 <b>香岐郷土史</b> 】	吉野秀政
135	近世(江戸)	1744年	寛保4	「 <b>香岐国続風土記</b> 」が完成する	香岐トピック
136	近世(江戸)	1748年	寛延1	朝鮮通信使来朝に合わせ、爾自神社では順風を祈願して「大神楽」を舞う【 <b>香岐名勝図誌</b> 】	香岐神楽
137	近世(江戸)	1767年	明和4	鯨組の土肥家が勝本の本浦を開拓して邸宅(御茶屋屋敷)と大石堀をつくる【 <b>吉野文書</b> 】	土肥家の大石堀
138	近世(江戸)	1798年	寛政10	島内の神社数が「本社42座・末社794座、計836座」と記される【 <b>香岐国続風土記提要</b> 】	神社トピック
139	近世(江戸)	1803年	享和3	可須(勝本)の源三(げんぞう)が平戸藩の悪政を幕府に直訴する「百姓源三事件」が起きる【 <b>太宰府天満宮御講組合</b> 】	義人・源三の墓
140	近世(江戸)	1808年	文化5	鯨組の土肥市兵衛が金800両を平戸藩主に献上(けんじょう)する【 <b>香岐郷土史</b> 】	鯨トピック
141	近世(江戸)	1810年	文化7	勝本押役所(かつもとのおさえやくしよ)と若宮島遠見番所を設置する【 <b>郡方日記</b> 】	勝本押役所 若宮島遠見番所
142	近世(江戸)	1810年	文化7	刀鍛冶脇山形七(刀工名:正行)が、勝本に居住することを許可される【 <b>城代日記</b> 】	地域トピック
143	近世(江戸)	1811年	文化8	聖母宮の脇山正行作の刀に「文化8年」の年号が刻まれる	脇山正行
144	近世(江戸)	1813年	文化10	伊能忠敬(いのうただたか)が香岐を訪れ、島内を実測し、香岐の地図を作成する	香岐トピック
145	近世(江戸)	1820年	文政3	「百姓源三事件」の首謀者(しゅぼうしゃ)、源三が勝本街道の処刑場(百間馬場(ひゃっけんばば))において処刑される(享年43歳)【 <b>香岐郷土史</b> 】	地域トピック
146	近世(江戸)	1840年	天保11	勝本の原田元右衛門が捕鯨業を営(いとな)む	鯨トピック
147	近世(江戸)	1855年	安政2	平戸藩親衛士隊長(しんえいしたいちよう)の葉山高行(はやまたかゆき)が玉主売(たまぬしめ)を祀る石碑を建てる	玉主売の墓
148	近世(江戸)	1857年	安政4	聖母宮にある石工山内利兵衛作の神使石像(牛)に「安政4年」の年号が刻まれる	聖母宮の神使石像(牛)
149	近世(江戸)	1859年	安政6	2月13日に郷ノ浦町元居の漁船が五島沖で強風により遭難し、53人死亡(気象用語の「春一番」の語源)	春一番の供養塔
150	近世(江戸)	1861年	文久1	神職の後藤(菊池)正恒と吉野鞆千代(ともちよ)が『 <b>香岐名勝図誌</b> 』を編集する	後藤(菊池)正恒 吉野鞆千代
151	近世(江戸)	1861年	文久1	異国船の襲来に備え、平戸藩が島の辻遠見番所に大砲を設置する	地域トピック

項目	時代	西暦	年号	歴史事項	キーワード
152	近世(江戸)	1862年	文久2	国津意加美神社(くについかみじんじゃ)の石工山内利兵衛作の狛犬に「文久2年」の年号が刻まれる	国津意加美神社
153	近世(江戸)	1864年	元治1	鯨組の「原田家」が、平戸藩主より「永取(ながとり)」の姓をもらい「永取家」を名乗る【苗字目録】	鯨トピック
154	近世(江戸)	1865年	元治2	深江田原(ふかえたばる)を流れる幡鉾川にある津合橋が石橋に改修される	地域トピック
155	近現代(明治)	1868年	明治1	杵岐島は杵岐郡13村と石田郡11村の2郡で構成される	杵岐トピック
156	近現代(明治)	1869年	明治2	平戸藩主松浦詮(まつらあきら)が版籍奉還を行い、幕藩体制による杵岐の領有が終わる	杵岐トピック
157	近現代(明治)	1871年	明治4	住吉神社が「国幣中社」に選定される 境内(けいだい)の池から神鏡17面が見つかる	住吉神社の銅鏡17面
158	近現代(明治)	1871年	明治4	廃藩置県により平戸藩は平戸県(杵岐を含む)になり、同年、5県(長崎県、平戸県、島原県、福江県、大村県)が合併し「長崎県」が誕生する	杵岐トピック
159	近現代(明治)	1872年	明治5	郷ノ浦に郵便所が設置される	社会トピック
160	近現代(明治)	1873年	明治6	郷ノ浦で「犬狩(いぬかり)」と称した騒動が起きる	社会トピック
161	近現代(明治)	1874年	明治7	諸吉小学校・武生水小学校・渡良小学校(大平寺)・可須小学校・箱崎小学校が設置される(小学校のはじまり)	杵岐トピック
162	近現代(明治)	1876年	明治9	警察制度の実施に伴い、「警察第5区第5出張所第3屯所」が武生水に設置され、のちに武生水警察署に昇格する	社会トピック
163	近現代(明治)	1881年	明治14	杵岐の人口41,762人と記される【長崎県史】	杵岐トピック
164	近現代(明治)	1885年	明治18	石田村・筒城村・池田村の3村が合併して「石田村」が誕生する	地域トピック
165	近現代(明治)	1885年	明治18	定期航路船(杵岐⇄長崎)就航	船トピック
166	近現代(明治)	1889年	明治22	十八銀行武生水出張所が設置される	社会トピック
167	近現代(明治)	1890年	明治23	郷ノ浦郵便局が電信事務を開始する	社会トピック
168	近現代(明治)	1890年	明治23	武生水地区に裁判所が設置される	社会トピック
169	近現代(明治)	1892年	明治25	杵岐の人口35,892人と記される【杵岐石田郡村要覧】	杵岐トピック
170	近現代(明治)	1894年	明治27	定期航路船「若津丸(わかづまる)」(杵岐⇄博多)就航	船トピック
171	近現代(明治)	1895年	明治28	杵岐郡立病院の診察が開始される 同時に郡立病院芦辺出張所の診療も開始される	社会トピック
172	近現代(明治)	1896年	明治29	杵岐郡と石田郡の2郡を併せて「杵岐郡」になる	杵岐トピック
173	近現代(明治)	1896年	明治29	武生水にあった税収所が税務署に昇格する	社会トピック
174	近現代(明治)	1904年	明治37	韓国航路の「信濃川丸」(長崎⇄杵岐⇄対馬⇄釜山⇄仁川)が郷ノ浦に寄港することが決定する	船トピック
175	近現代(明治)	1905年	明治38	戦利品として接収(せつしゅう)したロシア・バルチック艦隊の戦艦「インペラートル・ニコライ1世」を戦艦「杵岐」と命名する	杵岐トピック
176	近現代(明治)	1906年	明治39	杵岐郡畜産組合が結成される	社会トピック
177	近現代(明治)	1907年	明治40	郷ノ浦⇄勝本間で定期馬車が開通する(運賃は35銭)	社会トピック
178	近現代(明治)	1907年	明治40	杵岐漁業組合が結成される	社会トピック
179	近現代(明治)	1908年	明治41	対馬と共に福岡県への「転県運動」が起こる	
180	近現代(明治)	1909年	明治42	長崎県立猶興館中学校杵岐分校(現杵岐高等学校)が設置される	社会トピック
181	近現代(明治)	1911年	明治44	横田二郎著「杵岐植物目録」が出版される	杵岐トピック
182	近現代(大正)	1914年	大正3	「電力の鬼」と呼ばれた松永安左エ門が杵岐電燈株式会社を設立する(40キロワットモーター1基で送電戸数1,203戸)	杵岐トピック
183	近現代(大正)	1917年	大正6	杵岐出身の詩人三富朽葉(みとみきゆうよう)が千葉県犬伏崎で友人今井白楊と共に溺死する	三富朽葉
184	近現代(大正)	1918年	大正7	郷土の研究家の後藤正足著「杵岐郷土史」が出版される	後藤正足
185	近現代(大正)	1920年	大正9	定期航路船(博多⇄杵岐⇄対馬)就航	船トピック
186	近現代(大正)	1920年	大正9	第1回国勢調査が施行される(長崎県の人口1,136,182人(うち杵岐郡の人口38,669人))	杵岐トピック
187	近現代(大正)	1922年	大正11	郷ノ浦郵便局が電話事務を開始する	社会トピック
188	近現代(大正)	1923年	大正12	対馬との親善運動競技大会(第1回)が対馬の厳原で開催される	杵岐トピック
189	近現代(大正)	1923年	大正12	郷土の研究家の松本友雄が原の辻遺跡をはじめ調査を行う	松本友雄
190	近現代(大正)	1924年	大正13	沢柳政太郎博士の尽力により、米国のヘレン・パーカスト女史(ダルトンプラン主唱者)が杵岐に来島する	杵岐トピック
191	近現代(大正)	1924年	大正13	地元郷ノ浦の山口清が渡海船(郷ノ浦⇄渡良三島)の営業を開始する	船トピック
192	近現代(大正)	1926年	大正15	郷土の研究家の後藤正足著「杵岐神社誌」が出版される	後藤正足
193	近現代(大正)	1926年	大正15	杵岐郡役所を廃止して長崎県杵岐支庁が設置される	杵岐トピック
194	近現代(大正)	1926年	大正15	本田清信盈科小学校長ら6名が新教育視察のため渡米する	本田清信
195	近現代(昭和)	1928年	昭和3	定期航路船「英彦丸(えいひこまる)」(郷ノ浦⇄唐津)就航	船トピック

項目	時代	西暦	年号	歴史事項	キーワード
196	近現代(昭和)	1930年	昭和5	臨濟宗建仁寺派管長(かんちょう)竹田黙雷(たけだもくらい)〔勝本出身〕が遷化する(11月15日 77歳)	竹田黙雷
197	近現代(昭和)	1933年	昭和8	昭和3年から5年の歳月をかけて黒崎砲台が完成する	黒崎砲台跡
198	近現代(昭和)	1933年	昭和8	「電力の鬼」と呼ばれた松永安左エ門の支援を受けて山口麻太郎が「沓崎郷土研究所」を開設する	社会トピック
199	近現代(昭和)	1938年	昭和13	武生水地区に職業紹介所を設置する	社会トピック
200	近現代(昭和)	1940年	昭和15	沓崎郡煙草耕作組合連合会が設立される	社会トピック
201	近現代(昭和)	1942年	昭和17	郷土の発展に貢献した熊本利平が久邇宮邦彦王妃侘子妃殿下(くにのみやくによしおうひちかこひでんか)より茶席「花雲亭」を賜り、沓崎に移設する	花雲亭 熊本利平
202	近現代(昭和)	1943年	昭和18	熊本利平の支援により熊本記念講堂(のちの石田国民学校講堂)が完成する	社会トピック
203	近現代(昭和)	1943年	昭和18	長崎県金属非常回収工作隊が結成され、沓崎の寺院の梵鐘や銅像が回収される	戦争トピック
204	近現代(昭和)	1945年	昭和20	石田国民学校講堂に米空軍の爆弾が投下される(死傷者なし)	戦争トピック
205	近現代(昭和)	1946年	昭和21	このころから昭和23(1948)年ころにかけて、福岡県への転居運動が起こる(昭和28(1953)年制定の離島振興法の契機)	沓崎トピック
206	近現代(昭和)	1949年	昭和24	第1回玄海体育祭(玄海オリンピック 平戸、沓崎、対馬、3島の親善体育大会)が沓崎郡で開催される	沓崎トピック
207	近現代(昭和)	1950年	昭和25	長崎県立沓崎高等学校勝本分校(現沓崎商業高等学校)が設立される	沓崎トピック
208	近現代(昭和)	1950年	昭和25	黒崎、大島、初山、名島、タンス湾等に設置された砲台が撤去される	黒崎砲台跡
209	近現代(昭和)	1950年	昭和25	沓崎交通株式会社が三輪自動車「みずしま号」を配備する	社会トピック
210	近現代(昭和)	1951年	昭和26	東亜考古学会が原の辻遺跡の発掘調査を開始する	遺跡トピック
211	近現代(昭和)	1951年	昭和26	沓崎福祉事務所が設置される	社会トピック
212	近現代(昭和)	1953年	昭和28	郷土の植物研究者の品川鉄摩が志原村大原で「スキヤクジャク群落」を発見する	スキヤクジャク群落
213	近現代(昭和)	1956年	昭和31	郷ノ浦町商工会が創立される(沓崎初の商工会創立)	社会トピック
214	近現代(昭和)	1957年	昭和32	沓崎観光連盟が設立される	社会トピック
215	近現代(昭和)	1958年	昭和33	沓崎の自動車調査が行われる(タクシー35台 バス20台 トラック7台 小型トラック5台 三輪自動車256台 バイク104台)	沓崎トピック
216	近現代(昭和)	1959年	昭和34	沓崎の歴史を紹介する沓崎郷土館が開館する	社会トピック
217	近現代(昭和)	1968年	昭和43	沓崎・対馬国定公園に指定される	沓崎トピック
218	近現代(昭和)	1970年	昭和45	定期航路船フェリー「沓崎」(呼子⇄印通寺)就航	船トピック
219	近現代(昭和)	1971年	昭和46	勝本町立石西の六角瀬鼻海岸(ろくろうぜばなかいがん)より古代象ステゴドン象の化石が発見される	ステゴドン象
220	近現代(昭和)	1972年	昭和47	福岡空港⇄沓崎空港間に飛行機(YS11)就航	空トピック
221	近現代(昭和)	1972年	昭和47	定期航路船カーフェリー「つしま」(博多⇄沓崎⇄対馬)就航	船トピック
222	近現代(昭和)	1974年	昭和49	国道第382号線(勝本⇄印通寺)が開通する	社会トピック
223	近現代(昭和)	1975年	昭和50	古代復元船「野生号」が勝本港に入港する	野生号
224	近現代(昭和)	1977年	昭和52	不定期便(長崎空港⇄沓崎空港)就航	沓崎トピック
225	近現代(昭和)	1977年	昭和52	作家司馬遼太郎が「街道をゆく/沓崎・対馬の道」の取材のため沓崎を訪れる〔昭和53(1978)年連載開始/週刊朝日〕	沓崎トピック
226	近現代(昭和)	1982年	昭和57	日本民俗学会名誉会員の山口麻太郎著「沓崎国史」・「沓崎国地名誌」が出版される	山口麻太郎
227	近現代(昭和)	1983年	昭和58	第8回全国消防操法大会(ポンプ車の部)で芦辺消防団が優勝する	沓崎トピック
228	近現代(昭和)	1987年	昭和62	600年以上、神職だけで受け継がれてきた沓崎神楽が国の重要無形民俗文化財の指定を受ける	沓崎トピック
229	近現代(平成)	1989年	平成1	沓崎サイクルフェスティバル第1回サイクルロードレースが開催される	沓崎トピック
230	近現代(平成)	1991年	平成3	定期航路船ジェットfoil(博多⇄沓崎⇄対馬)就航	船トピック
231	近現代(平成)	1995年	平成7	沓崎の麦焼酎がWTO(世界貿易機構)と国税庁から「地理的表示」の産地指定を受ける	沓崎トピック
232	近現代(平成)	1997年	平成9	原の辻遺跡が国史跡に指定される	遺跡トピック
233	近現代(平成)	2000年	平成12	原の辻遺跡が国特別史跡に指定される	遺跡トピック
234	近現代(平成)	2002年	平成14	勝本城跡が国史跡に指定される	遺跡トピック
235	近現代(平成)	2004年	平成16	郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の4町が合併し、沓崎市が誕生する(3月1日)	沓崎トピック
236	近現代(平成)	2007年	平成19	笹塚古墳出土品(162点)が国の重要文化財に指定される	笹塚古墳
237	近現代(平成)	2008年	平成20	双六古墳出土品(412点)が国の重要文化財に指定される	双六古墳
238	近現代(平成)	2009年	平成21	沓崎古墳群(双六(そうろく)古墳・笹塚(ささづか)古墳・対馬塚(つしまづか)古墳・鬼の窟(おにのいわや)古墳・兵瀬(ひょうせ)古墳・掛木(かけぎ)古墳)が国史跡に指定される	遺跡トピック
239	近現代(平成)	2010年	平成22	沓崎市立一支国博物館・長崎県埋蔵文化センターオープン(3月14日)	沓崎トピック

## 7 施設活用Q & A

(1) 施設活用Q&A .....	88
-------------------	----

## 一支国博物館を利用してみよう！



岐阜市立一支国博物館・長崎県埋蔵文化センターでは様々な学校向けの学習支援メニューを行っています。  
利用するにあたっての疑問をQ&A方式で紹介しています。

### Q1 一支国博物館って、いつ利用することができるのですか？

- A
- 開館時間は午前8時45分から午後5時30分までとなっています。  
(最終入館は午後5時)
  - 毎週月曜日と年末の12月29日から31日までは休館日となっています。  
〔※ただし、月曜日が祝日の場合とGW期間中は休まず開館しています。〕
  - 開館日の午前9時00分から午後9時00分の間でホールや会議室の貸し出しも行っていきます。

### Q2 利用するにあたって費用はどのくらいかかるのですか？

- A
- 常設展示室の観覧料は、小中学生200円、高校生300円、一般400円となっています。(団体料金：20名以上は2割減額)  
〔岐阜市の小・中・高生、および引率の先生は無料になります。〕
  - 情報プラザや展望塔、キッズこうこがく研究所や観察路など無料ゾーンもたくさんあります。

### Q3 学校単位で申し込む場合、どのくらい前に申し込まないといけないんですか？

- A
- ご利用を予定されている日の1ヶ月前までに団体申込書に詳細をご記入後、送付またはファックスしていただくようお願いしています。  
〔※申込書はホームページからもダウンロードできますのでご利用ください。〕

### Q4 利用にあたり、事前打ち合わせは必要ですか？

- A
- 担当者(責任者)の方には、事前に博物館をご覧いただき、ご利用内容について打ち合わせをお願いしています。  
〔※遠隔地の学校(団体)につきましては電話での対応もさせていただきます。〕

Q 5 学習のまとめや発表などで展示室で撮影した写真を使用したいのですが、可能ですか？

A ○学習活動の目的に限り展示室内の撮影は可能です。ただし、展示品の現状維持のため、フラッシュによる撮影は禁止しています。撮影が難しい場合は、図録やスケッチなどを活用していただきますようお願いします。

Q 6 児童だけで調べ学習や夏休みの課題学習などで博物館を利用する場合、事前に連絡が必要ですか？

A ○展示室を利用した学習は開館時間内であれば連絡の必要はありません。ただし、専門的なアドバイスを受けたい場合は、専門分野の学芸員が出張などで不在することがありますので、事前の連絡をお願いします。

Q 7 修学旅行などでこの学校支援メニューを活用することができますか？

A ○貸し出し施設（講座室や体験交流室など）を活用したメニューや専門的なメニューなど、ニーズに応じた活用ができます。

Q 8 常設展示室以外で使える場所はありますか？

A ○本マニュアルの「施設概要紹介（p4）」を参照してください。

Q 9 事前学習で出前講座など博物館外での支援も可能ですか？

A ○本マニュアルの「学習支援事業（p60）」を参照してください。

Q 10 一支国博物館のことをもっと詳しく知りたいのですが、どうすればよいのでしょうか？

A ○ホームページアドレス⇒ <http://www.iki-haku.jp/>  
○直接お問い合わせ先⇒ 電話 0920-45-2731  
fax 0920-45-2749  
○その 他⇒ 館が発行する定期刊行物等で紹介します。



### 【編集委員】

壱岐市立郷ノ浦幼稚園	主任教諭	豊坂	昭子
壱岐市立霞翠幼稚園	主任教諭	松田	晶子
壱岐市立石田幼稚園	主任教諭	高下枝	里子
壱岐市立盈科小学校	教諭	福田	由夏
壱岐市立箱崎小学校	教諭	石橋	享
長崎市立稲佐小学校 (前壱岐市立瀬戸小学校)	教諭	平本	幸大
壱岐市立武生水中学校	教諭	中野	和大
壱岐市立初山中学校	教諭	吉野	正剛
県立壱岐高等学校	教諭	溝上	貴稔
県立壱岐商業高等学校	教諭	岡山	英生

(平成21年11月30日現在)

### 【オブザーバー】

長崎県文化・スポーツ振興部 文化施設整備室  
長崎県教育庁 原の辻遺跡調査事務所  
壱岐市教育委員会 文化財課  
壱岐市教育委員会 学校教育課  
一支国博物館指定管理者 乃村工藝社

### 【事務局】

壱岐島振興推進本部 原の辻プロジェクト室

平成21年11月30日発行



### 壱岐市立一支国博物館

長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515番地1

TEL 0920-45-2731

FAX 0920-45-2749

<http://www.iki-haku.jp/>

